

平成23年第15回教育委員会定例会

開会年月日 平成23年8月8日(月)
場 所 教育委員会室

出席者 教育委員会 委員長 内藤幸子
同 委員 天沼英雄
同 委員 安藤睦美
同 委員 外松和子
同 教育長 河口浩

議 題

1 議案

(1) 議案第50号 練馬区立中学校教科用図書の採択について

2 陳情

- (1) 平成19年陳情第4号 「八の釜の湧き水」と憩いの森の消失に関する陳情について
〔継続審議〕
- (2) 平成23年陳情第3号 大震災に関する陳情書〔継続審議〕
- (3) 平成23年陳情第4号 災害時と放射能対策に関する陳情書〔継続審議〕

3 協議

(1) 区立幼稚園の適正配置について〔継続審議〕

4 報告

(1) 教育長報告
その他

開 会 午前 10時00分
閉 会 午後 4時20分

会議に出席した者の職・氏名

学校教育部長	阿形繁穂
生涯学習部長	中村哲明
学校教育部庶務課長	岩田高幸
同 新しい学校づくり担当課長	小暮文夫
同 学務課長	古橋千重子

同	施設給食課長	山根	由美子
同	教育指導課長	吉村	潔
同	総合教育センター所長	杉本	圭司
生涯学習部	生涯学習課長	小金井	靖
同	スポーツ振興課長	齋藤	新一
同	光が丘図書館長	内野	ひろみ

傍聴者 20名

委員長

それでは、ただいまから、平成23年第15回教育委員会定例会を開催する。
本日は、傍聴の方は18名おいでになっている。

教育長

案件に入る前に、本日の審議環境についてご説明する。
本日の会議については、この審議の音声を傍聴の抽せんに当たらなかった方の控え室に流している。傍聴希望者が多数いる中で、適切な審議環境を守るため、教育委員会の会場を変えることはしないが、音声を控え室に流すことで、事務局として対応させていただいた。各委員にご異存なければ、このまま進めていただければと思うが、いかがか。

委員長

教育長より審議環境についてご説明があったが、各委員いかがか。

委員一同

結構である。

委員長

それでは、このまま審議を進めてまいりたいと思う。
では、案件に沿って進めさせていただく。本日の案件は、議案1件、陳情3件、協議1件、報告1件である。
まず、本日の会議の進め方についてお諮りする。「議案第50号 練馬区立中学校教科用図書の採択について」は、案件の最後に審議を行いたいと思うが、よいか。

委員一同

よい。

委員長

それでは、そのようにさせていただく。

(1) 平成19年陳情第4号 「八の釜の湧き水」と憩いの森の消失に関する陳情について

〔継続審議〕

委員長

では、陳情案件である。平成19年陳情第4号「八の釜の湧き水」と憩いの森の消失に関する陳情について。

この陳情については、今後の外環道整備に関する事業の進捗状況などを見守りながら審査を進めることにしている。

したがって、本日は継続としたいと思うが、よいか。

委員一同

よい。

委員長

では、平成19年陳情第4号は「継続」とする。

- (2) 平成23年陳情第3号 大震災に関する陳情書〔継続審議〕
- (3) 平成23年陳情第4号 災害時と放射能対策に関する陳情書〔継続審議〕

委員長

次の陳情案件である。平成23年陳情第3号 大震災に関する陳情書。

また、次の陳情案件、平成23年陳情第4号 災害時と放射能対策に関する陳情書。

この2件の陳情案件については、大震災を契機とした災害対策について練馬区全体として対応中と伺っている。

したがって、本日は継続としたいと思うが、よいか。

委員一同

よい。

委員長

では、平成23年陳情第3号、第4号は、いずれも「継続」とする。

- (1) 区立幼稚園の適正配置について

委員長

次に、協議案件である。区立幼稚園の適正配置について。

この協議案件については、検討組織の検討結果などを受けて進めてまいりたいと考えている。

については、本日は継続としたいと思うが、よいか。

委員一同

よい。

委員長

では、この協議案件については「継続」とする。
その他の報告はあるか。

学校教育部長

今年度、平成23年度練馬区立中学校生徒海外派遣事業の報告である。先月の7月22日に成田をたち、7月30日、先月の最後の土曜日に成田にまた戻ってきた。前日の7月21日の結団式、そして22日の出発式ということで、委員長をはじめ教育委員の方々にもお見送りいただき、出発をしたわけである。派遣生徒68名、随任教職員14名、総勢82名での派遣であった。23日にオーストラリア・ゴールドコーストの空港に着き、そこから1時間あまりであるが、イプスウィッチ市の公園、練馬ガーデンで、それぞれのホストファミリーの家庭に派遣生徒はお世話になるという形で、着いてすぐということで、かなり強行というか、厳しい日程であったが、派遣生徒は23、24、土日についてそれぞれのホストファミリーの家庭で過ごして、翌25日から28日まで4日間、それぞれの学校に通学して、4日間という短い期間であったが、地元の生徒とまざって友好的な授業を受けてきた。28日の木曜日については、6時から、イプスウィッチ市の市民ホールで約350名の招待者の中でさよならパーティーを開いていただき、その席で、派遣生徒68名であるが、合唱あるいは踊りという形で、それぞれ中学生の元気な姿をオーストラリアの方々に披露できたということで、かなり好評な合唱、演劇であった。

なお、そのさよならパーティーの会場の玄関で、日本文化の紹介ということで、ゆかたであるとかこま、おはじき、剣玉等々、中学生がそれぞれ地元の方に対して日本の文化を紹介するブースというか、それぞれセットして、そのパーティーの前、1時間半ぐらい、そこで地元の方々と日本のさまざまな文化を通して交流を深めた状況である。

29日金曜日は、1日、現地の観光施設ということで、プリズベン市であったが、観光博物館、あるいは海岸線で観光を行い、翌30日朝、プリズベンをたって、ゴールドコーストをたって、夜に成田に到着して、練馬区役所には10時半ごろ着いた状況である。

練馬区役所に着いて、帰着式後、それぞれ解散という形をとって、先週の金曜日、事後研修ということで、現在報告書を作成している状況である。

なお、今回の派遣に当たり、それぞれ委員長、教育長からお見送りいただいた。あるいは、それぞれ委員の方にもお見送りいただき、感謝申し上げるものである。

なお、最終日、金曜日になるが、生徒2人が少し体調を崩し、現地で医療機関の診察を受けて帰国したわけであるが、週明けに確認したところ、健康状態は回復して、現在は元気に生活をしているという状況である。

報告は以上である。

委員長

ありがとう。委員からご意見・ご質問はあるか。

外松委員

海外派遣、大変ご苦労さまである。練馬区が続けている海外派遣であるが、今回参加した中学生たちは、きっと一生自分の思い出に残る日々であったかと思う。ただいまの部長のご報告によると、あちらの人たちとほんとうに交流し、日本の伝統文化ということも紹介して、地元の方々と、同世代の方、それより年下とか大人の方、いろいろな方たちとの日本の文化を通しての交流もあるということで、すばらしい海外派遣の数日間ではなかったかと思う。

また、この派遣に関して、もう社会人になっている子供を地域で育てたという方からもお伺いしたことがあるが、子供たちはこれを経験することで、直接海外の仕事に結びつくというわけではないが、ほんとうにしっかりと自分の将来を見据えるという、自分の生き方の一つの指針になって、この海外派遣を練馬がやっているのはほんとうにすばらしいことだと思う。予算もかかるかもしれないが、ぜひ続けていただきたいので伝えてほしいという話も伺っている。

これからもこの海外派遣がいろいろな形で、練馬区の中学生たちの中に根づいていけばいいと思っている。ほんとうにご苦労さま。ありがとう。

委員長

ほかの方、ご意見・ご質問あるか。

教育長

オーストラリアは、今回の派遣先も、今年の年明けであったか、大きな水害があって、また、日本は日本で3月にああいふ大きな大震災があったが、その辺のところでは話題とかになったのか。

学校教育部長

実は、イプスウィッチ市内の5つの学校、向こうの学校は、日本でいうと中高一貫校みたいな形になるが、やはりかなり浸水した学校が多くあり、まだ完全に回復していない状況で、一部、校庭あるいは施設についても使えないようなところもあったということである。ただ、外見적으로는水は引いて、かなり普通の市民生活、学校生活を送っているような感じではあったが、中で聞いてみると、まだこんな状況であると、水害からの完全な回復状況ではなかった。

日本の大震災のことについても、いろいろ気にかけていただいているというか、ご心配いただいて、どんな状況なんだ、練馬はどうなんだということも、それぞれの学校を訪問した際には聞かれた。あるいは、子供たちにもその辺については、それぞれのホストファミリー、あるいは学校で聞かれることもあるから、どんな伝え方をすればいいの準備をしていきなさいということで、それぞれ情報の伝達を図ったところである。

委員長

ほかにあるか。よいか。

委員一同

よい。

委員長

それでは、今年度も大変すばらしい研修が行われた派遣であったという報告を受けた。何よりも、皆さん無事に帰られたということがとてもよかったと思う。ほんとうにお疲れさま。ありがとう。

(1) 議案第50号 練馬区立中学校教科用図書の採択について

委員長

では、議案に入る。議案第50号 練馬区立中学校教科用図書の採択について。

来年度から使用する中学校教科用図書について、本日、採択を行う。この教科用図書の採択は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第23条第6号の規定により、教育委員会の職務権限になっている。採択に当たって、教育委員会では、4月に中学校教科書協議会に諮問を行い、7月22日開催の第4回臨時会にて、同協議会から答申を受けた。教科書協議会、調査委員会、各校研究会など、答申の作成に関係された皆様に、教育委員を代表して御礼申し上げます。ありがとう。

教育委員会では、この答申を受けて、東京都教科書調査研究資料や区民の方々の声なども参考に、各委員それぞれに教科書の調査・研究を行ってきた。

そこで、本日は、各委員から種目ごとに推薦する図書の発行者名を発言していただき、審議してまいりたいと思う。

ここで、種目ごとの発言順位についてお諮りする。

全部で15種目の教科用図書を採択するが、最初の種目である国語については天沼委員から行い、その後は種目ごとに最初の発言者を安藤委員、外松委員、河口教育長とし、そして再び天沼委員から行う順位で進めたいと思うが、いかがか。

委員一同

よい。

委員長

それでは、そのように進めさせていただく。
まず、国語である。天沼委員から発言をお願いします。

天沼委員

本日、中学校教科書採択会議には、早くから多くの傍聴の方々、並びに、その他、皆様方ご参集くださり、まことにありがとうございます。これまで教科書採択に当たって、教育委員会定例会並びに臨時会、そして各委員の自主的な、独自に行った教科書調査研究等、多

くの時間と熱意を注ぎつつ本日を迎えることになった。

教育委員会定例会では、文科省や東京都からの通知や、練馬区として教科書採択の指針ともなる採択要綱や施行細目等について説明を受け、教科書採択の要点、仕組み等について研究、学んできた。教育委員会には多くの陳情があり、総合教育センターにも多くのご意見をお寄せいただいた。あわせてお礼申し上げる。

教科書協議会や各校研究会の答申では、ご多忙の中、教科書研究にご協力いただき、まことにありがとう。

最後になるが、教育指導課のほか、事務局の皆様にはいろいろ資料をご用意いただくなど、全面的にご協力くださり、ありがとう。本日は、全力を挙げて、取り組んだ成果が出せるよう努めてまいるので、よろしく願い申し上げます。

さて、私は、教科書調査に当たって、全教科とも最初に学習指導要領解説と照らし合わせながら教科書を読み進めた。学習指導要領改訂の基本方針は、各教科とも基礎的・基本的な知識、技能を修得させることとともに、これらを活用して課題解決のための思考力、判断力、表現力等をはぐくむことにあると思う。このため、観察、実験、レポートの作成、論述など、知識、技能の活用を図る学習活動がいかに充実できるかがポイントになると思う。言語活動や体験活動が適切に行われ、学習意欲を向上させるのに最もふさわしい教科書はどれかが採択のかぎとなると思う。

評価基準としては、練馬区の施行細目第10条が手がかりとなった。1冊1冊検討し、その中から本日は二、三社を挙げさせていただき、さらに1社推薦させていただきたいと思う。

では、国語科である。国語科の内容構成は、これまでの話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの3領域に伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項が新設され、4領域となった。従来の3領域の中で、練馬区の中学生が苦手としている領域は、書くことの領域である。各領域が比較的充実している教科書を3社絞り込み、その中から1社選択する進め方がよいのではないかと考えた。

まず、教育出版についてである。この出版社の教科書は、「伝え合う言葉」という教科書名をつけ、最初に各学年とも加藤周一氏の言葉についての論述が掲載されている。言葉を通じて伝え合うことの大切さが述べられている。本編は、読むこと、話すこと・聞くこと、書くこと、伝統文化と言語に区分され、それぞれに物語文や説明文などが集められている。授業計画を工夫し、学習のねらいや教材の順を考える必要があると思った。

書くことについては、「文章名人」というコーナーが用意され、1年から3年まで3年間を通して書く力を高める工夫がなされ、言葉の決まりなど言葉の研究が深められる。我が国の言語文化と国語に対する関心を高めるとともに、国語を尊重する態度の育成を図ることが加藤周一氏の巻頭の言葉から全編を通じて伝わる教科書である。

続いて、光村出版についてである。特徴としては、教材について目標が示されているとともに、練習問題が設けられており、学習を確認し、確かな学力の定着が図れるように構成されている。言語活動の充実、言語の教育としての国語科の立場を示す、豊かな言葉、言葉を集めよう、もっと伝わる表現を目指して等、言葉を伝え合う能力の向上、言葉を豊かにする学習活動が展開されると思う。

このたびの学習指導要領の改訂では、読むことの領域で読書を通して物の見方や考え

方を広めようとする態度を育てることや、読書生活に役立てようとする態度を育てること、読書を通して自己を向上させようとする態度を育てることが学年を通して段階的に目標とされている。

光村図書の教科書には、読書活動について、おいしい読書としていろいろな読書活動の楽しみ方や、読書を通してのさまざまな学習活動が紹介され、読書案内が掲載されている。資料では、1年にお薦めの本があり、読書活動の充実、一人一人自立した読み手を育成することが推進される。巻末には、学習を広げる資料がある。話す・聞く、書く、読む、伝統的な言語文化など、生徒の学習を支援し、役立つものとなっている。

また、すぐれた古典、近代文学の名作が抜粋、紹介され、生涯にわたって古典に親しむ態度を育成する指導に役立てることができる。伝統的な言語文化の学びが深められる。

日本文学の流れという上代から現代までの文学の流れが示され、高校の国語科へのつながりが図れるものとなっている。

3年生の教科書に、3年間の歩みをポートフォリオに作成する活動があり、これまでの自分からこれからの自分へつなげる国語力の育成を、生涯を通じて多様な言語活動の充実とともに、生きる力の育成を図ることができる。

続いて、三省堂の教科書についてである。三省堂は、各学年とも本編「中学生の国語」、資料編「学びを広げる」の2冊ずつとなっている。本編から見ると、各単元の目次の下に、どの内容が書くことの手をつけるのか、読むことはどの内容で力をつけるのか明確に示され、学習活動のねらいが定めやすいとともに、それぞれの単元で表現力2本、理解力2本などと均等に作品が割り振られていて、分量も適当だと思う。そこでの学習活動はさまざまで、言語能力を高める工夫が設定されている。表記がはっきりしている確である。レポート、体験文、感想文、私のトップニュースなど、各実践を通して書く力の育成が図られる。

2年生になると、話す・聞くを総合的に活用しつつ行われるプレゼンテーションやパネルディスカッション等の活動が企画されている。知識や技能を活用し、表現する活動を通じて、国語を適切に使う能力の育成、活用する力の育成が図られる。2年生の教科書も伝統的な言語文化、表現力、言語感覚に作品が分かれ、その中で書く力を育成する課題作品が含まれ、生徒は読書感想文、意見文、手紙文などを練習し、日常生活にかかわること、目的や意図に応じて書く力をつけるための練習ができるように工夫されている。

その他、1年から3年の教科書に共通していることは、漢字、文法の学習があることであり、確かめようで言葉の力が身についたかどうか確認するページがあり、基礎的・基本的言語能力の充実が図れるようになっている。

3年生では、話す・聞くことを例に見ると、パブリックスピーチをしようや、企画会議を開こうなどがあり、生徒が実際にやっている写真入りで紹介されている。書く力を育成する単元でも、私の友情論という課題では、資料、材料を集めながら、自分の考えをまとめ、スピーチしたり、書いたりする活動があり、理想のロボットの仕様書などいろいろな文章作成の基礎を学ぶことができ、レポート作成の基礎的な学習となっている。思考力、判断力、表現力の育成に適する内容である。

別冊資料編は発展学習に活用でき、自宅学習に利用できる。言語活動の充実が図るこ

とができ、本編とあわせていろいろ活用できるものとなっているのがよいと思う。表記については特に問題はない。

以上から、私は三省堂の教科書を推薦する。

委員長

それでは、ほかの方、ご意見をよろしく願います。

安藤委員

学習指導要領の改訂に伴い、それぞれの教科書にそれぞれの工夫があり、どの教科書も興味深く拝見した。特に国語は言語力の充実という学習指導要領全体の改訂の中で中核をなす教科でもあるので、教科書の内容がとても充実しているという印象を受けた。指導要領の改訂においては、話す・聞く、書く、読むの各能力を確実に身につけるために、批評、評論、論説などの言語活動の充実を図ることや言語文化に親しむという理由で、特に古典文学と近代以降の作家の作品の充実が図られた。

それぞれの改訂のポイントに加え、見やすさや自学自習につながるような工夫、子供たちの興味関心を引く資料などに注目して、私は推薦する教科書を選択した。

先に結論を申し上げますと、光村図書の教科書を推薦する。

教科書の研究を始めた当初は、好みの問題もあるかもしれないが、昔ながらの大きさの教科書である学校図書の教科書が手にとりやすいこともあり、いいと思った。学校図書の教科書は、改訂の中で充実が図られた古典作品について、現代語訳や現代文による解説があり、子供たちにとって古典を身近に感じさせるような工夫があっただけでいいと思った。全体的に自学自習がしやすい構成になっていることがよく、文学教材など、子供たちに読ませたいというものが多いため魅力的であった。

しかし、一方では、その読む領域のボリュームがかなり大きな比重を占めていた。どの教科書も読む領域は多くなっているが、学校図書の教科書は突出して多く、もう少しバランスがいいほうがいいと思った。特に先ほど天沼委員が言った書くことに関する教材が少し少ないかなという印象であった。

さて、今回推薦させていただく光村図書の教科書であるが、他社比ではあるが、各領域のバランスがいいと思った。どの領域をとってみても、特別多かったり少なかったりということがなかったということである。光村の教科書では、1年生の冒頭で国語学習を始めるに当たってのガイダンス的な単元があり、国語に興味を持つように促す学習活動が提示されていた。例えば、音読、発表の仕方、学習の記録、図書館について、読書、辞書、インターネットなどについてである。

次に、古典教材についても充実した内容の扱いがあった。

次に、各単元の見出しに情緒を感じた。これは、国語科であることを考えるととてもいいと思った。提示されている学習の目標が学年を追うごとに同じテーマでもグレードアップしている。例えば、1年生では学びを開くだったものが、2年生で広がる学びへ、3年生では深まる学びへと、成長と発達段階に合わせた目標設定がとてもわかりやすくいいと思った。

教科書の見開きのページについては議論が分かれるようであるが、私は学習内容がわ

かりやすくいいと思った。

ほかによいと思った点は、課題図書のように挙げられているリストには、良書と言われるものが多く、子供たちの興味を引くと思う。また、資料がわかりやすかったことである。何度もわかりやすいを連発して恐縮であるが、子供たちが飽きずに常に興味を持って学習に取り組むのには、教材のおもしろさや見た目のわかりやすさが重要だと思ったからである。

繰り返しになるが、以上の理由の点で光村図書の教科書を推薦する。

委員長

ほかの方。

外松委員

国語に関してであるが、国語は、私たち日本人の母国語であり、すべての学びの基礎となる教科である。学習指導要領では、改善の具体的事項の中に言語活動の持つ充実を挙げている。その言語活動の充実の内容であるが、社会生活に必要とされている発表、案内、報告、編集、鑑賞、批評等学ぶように示されている。一方、練馬の子供たちであるが、先ほど天沼委員も発言されていたが、学力調査等の結果から、書く力がやや弱いという実態が見えてきている。そのことに関しては、もう既に各校でこの実態を踏まえ、改善に向け授業を工夫している取り組みも進められているところである。

さらに、学習指導要領の改善のところで、4番の国語科の指導内容は、系統的、段階的に上の学年につながっていくとともに、らせん的、反復的に繰り返しながら学習し、能力の定着を図ることを基本としている。

そして、5番目として、伝統的な言語文化に関する指導の重視というところでは、伝統的な言語文化に親しみ、我が国の言語文化を検証し、新たな創造へとつないでいくことができる内容を構成するようという指導事項が出ている。

私は、特に今回は、4番目と5番目について、各発行者を見させていただいた。その中で、光村図書が中学生が学ぶには適切ではないかというふうに判断した。光村は、書くことの領域で、例えば1年生であると、観点を決めて書くということで、例として近くの公園をみんなに紹介するにはどうしたらよいか教材として載っているのであるが、それを7段階までステップを丁寧に踏み、例えば6番目では、目的や相手を変えて考えてみよう、ちょっとグレードアップさせ、発展学習へとつながっている。そして、7番目に言語活動の充実とつながるように、感想を伝え合おうと丁寧にステップアップがされ、発展学習へ、更に言語活動の充実へとつながっているところがよいと思った。

また、伝統的な言語文化に関する指導では、先ほど安藤委員もお話されていたが、1年生から3年生まで、タイトルの言葉も非常に系統立ててつけられておりすてきである。第1学年では、いにしへの心に触れ、第2学年では、いにしへの心を訪ね、そして第3学年になると、いにしへの心と語ろうと、学年が上がるごとに少し高まるような構成になっている。一番初めは、どの学年も音読をまず楽しむということで、1年生であったら「いろは歌」、2年生であったら「平家物語」のかの有名な「扇的」、3年生であると「古今和歌集」の「仮名序」というふうに、また、3年生は「万葉集」、「古今集」、

「新古今集」等が取り上げられている。

私は、光村は構成に工夫が施されていると思った。古典作品に触れ、この古典を学んだ学びを生かし書いていくという構成になっている。1年生であると、最後に故事成語を使って体験文を書こうというふうになっている。1年生であるから、どう書けばよいか大変だと予想されるが、それに関しては、「漁夫の利」という故事を使っての例文が提示されている。

2年生であったら、「平家物語」の「扇の的」に登場する「黒革をどしのよろいを着た男」についての文章が例文の提示となっている。

3年生は、贈ろうということで、「万葉集」から歌を引用して自分のお友達に手紙を書く、それが例文となっている。

以上のように、伝統的な言語文化に関することを学びながら、最後は書くことにつなげており、学びを発展させている点が大変すぐれていると感じた。

次に、教育出版は、今回画期的な領域別の構成をされたと思っている。

第2学年では、読む分野で分子生物学者福岡伸一さんの「アオスジアゲハとトカゲの卵」という文章を掲載している。これは、全体と部分の関係、例示の効果を考えてという目標が掲げられていたが、分子生物学者の福岡伸一さんは、おそらくこの教科書のために、今までご自分が出された論文の中から中学生用にと書き下ろされたのではないかと思うが、生命は一体何からできているのか、そのことを動的平衡という、やや難しいが、そういう考え方を私たちになぞときのヒントとして出してくれている。こういう文章に中学生のときに触れるというのは、これからの中学生が人生を歩んでいく上でもなかなかすばらしいと思った。

私は最終的には光村を推薦しているが、教育出版の心意気に感謝したいと思った。

以上である。

教育長

新学習指導要領において、国語の位置づけであるが、実生活に生きて働き、各教科等の学習の基本となる言葉の力を育てるという意味では基幹教科に位置づけられたわけ、話すこと・聞くこと、読むこと、これまで皆さんおっしゃってくれていたが、各領域において基礎的・基本的な知識、技能を確実に修得するとともに、これらの知識、技能を活用して課題を探究するという2つの面から、国語の能力を身につけていくことが求められていると思う。

特に今回の改訂では、言語活動を通して指導内容を身につけることがはっきりと示されたわけである。生徒に身につけさせる力を明らかにするとともに、さまざまな言語活動を工夫しながら充実を図っていくことが重要なことだろうと考えている。義務教育が終了する中学校においては、実生活に生きて働くということ、この言葉の力は極めて重要であり、生涯にわたって豊かな言語生活を送れるよう指導することが、学校教育に携わる者として、特に中学校にとっては使命だろうと考えている。

そういう観点に立って見た場合に、私も全社目を通させていただいたが、私としては三省堂を推薦したいと思っている。三省堂では、各単元の最初のページに学習のねらいや中心となる言語活動、学習活動の流れが示されて、生徒がある見通しを持って主体的

に学習を進められるように構成しているのではなかろうかと思う。特に学習の手引きである「学びの道しるべ」は、生徒が学びをより一層深め、豊かにすることができる展開を提示していると思っていて、この展開は、一人で学ぶからみんなで学ぶ、そしてまた、学びを振り返るといふことの3段階のステップとなっているが、特にみんなで学ぶというところについては、国語科の目標に示されている伝え合う力、コミュニケーション能力を育成する実際の学習の場としての機能を持っているのではなかろうかと思っている。

それから、基礎基本の確実な習得、及び、習得したことの活用、探究は非常に重要なところだと思っているが、そこについてもさまざまな工夫がなされていた。

まず、基礎基本の確実な習得に関して申し上げれば、先ほども委員の方がおっしゃっておられたが、確かめようというページがあるが、その中で中学校の学習指導要領の指導内容で示されているうちから見開きの2ページで簡潔、的確に掲載されていた。生徒が学習するときに、確認及び学習した後の振り返りに非常に有効であると思った。

また、習得したことの活用、探究についての工夫の一つは、三省堂の教科書の特色である2冊分冊になっている。これのうちの別冊の資料編「学びを広げる」に工夫が非常に込められているかと考えている。読書へ広げるための「読書の森へ」には、各学年とも約10本の完結した作品を収録しているし、本編の教材との関連であるとか、比べ読みができるような工夫がなされている。また、「言葉の図鑑」というところでは、多くの写真資料で言葉や伝統芸能等について具体的なイメージを持つことができるようになっている。特に情報活用編では、図や表、グラフなどの資料が豊富である上に、その資料活用の方法が示されている。国語学習にとどまらないで、ほかの教科であるとか、あるいは日常の生活で、いろいろな意味で書く場面があると思うが、そういう活動にも活用はできるのではなかろうかと思った。

この2冊分冊の教科用図書というのは、生徒の主体的な学習と学習の日常化、毎日何らかの形で参照するというところに大きな役割を担っているのではなかろうかという意味では、非常に画期的な体裁ではなかろうかと思った。表記に関しても学習のポイントがわかりやすく、紙面もゆとりを持って構成されているために見やすいと感じた。

繰り返しになるが、国語科教科の最終目標は、生きて働く言葉の力を身につけさせることである。確実な習得と、その習得からの活用、探究、また、主体的に言語活動にかかわる素地をはぐくむことのできる内容及び構成は、生徒の言葉の力の正確さというものにもつながるのではなかろうかと思っている。全体を見渡して、先ほど来、光村図書のお話もあり、教育出版もあった。私もそれぞれ個々に見ていくと、大変すばらしい引用もあったし、工夫もされていると思ったが、総合力という観点から考えて、私は三省堂を推薦させていただきたいと考える。

以上である。

委員長

ありがとう。皆さん数社挙げていただき、それぞれの特色を大変詳しく述べていただいた。私も今おっしゃられたような内容について、ほんとうにそうだなという思いを抱くところが多々あった。私自身も光村図書と三省堂の2社で大変迷った。ちょっと違う視点から選んだとすると、先ほど学力テストのお話があったが、その点からお話した

いと思う。

国語科の目標は、国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるとある。このように、言語の能力全般の育成を目指しているにもかかわらず、練馬区でも国語科の授業が、ややもすると読解指導に偏りがちで、理解力の育成に重点を置かれている傾向があるのではないかと伺っている。

先ほどは、書く力がやや劣っているというお話があった。また、平成21年度全国学力学習状況調査の学習意識調査によると、練馬区の生徒は国語科の勉強は「好きでない」、「どちらかといえば好きでない」が38.4%。国語の勉強は「大切」、「どちらかといえば大切」が89.4%という結果であった。練馬区学力調査研究委員会の考察では、国語科が好きでない生徒も国語の勉強の大切さは認識できている。今後、各教科における言語活動の充実を目指した授業の充実とあわせて、今、学んでいることがどの領域のどのような力を身につけることにつながっているのか生徒に意識づけをさせるとともに、適切な評価を行って学習意欲を向上させる必要があると述べている。

このような課題を解決するために、三省堂は学習内容を、その学習がどのような言葉の力の育成をねらいとしているのかという観点でまとめ、それを年間バランスよく配列した構成に変えている。このことで生徒にも教師にも、今学習していることがどのような力をつけるためなのか意識化され、学習意欲の向上が図れるようになると考える。また、指導の偏りも是正されると思う。

教育長のほうで別冊のお話もあったが、別冊扱いにした「学びを広げる」は、国語科のみならず、各教科の学習や生活のさまざまな場面で役立つすぐれた言葉の資料になっている。まさに新学習指導要領が重視する各教科における言語活動の充実を図る上で大変参考になると思う。大いに活用してほしいなというものになっている。

そのほかすぐれている点は、先ほど委員が述べられたようにたくさんあるが、以上の理由から、私としては、どちらかといえば三省堂を推薦したいと考えている。

一通り皆さんのご意見を伺ったが、皆さんのほうから追加や補足のご意見、また、修正のご意見等があればおっしゃっていただきたいと思う。いかがか。先ほど十分それぞれのよさをお話ししていただいたが。

安藤委員

私は、三省堂の別冊の資料はとてもいいと思った。小説の中から抜粋したものが載っていたり、1冊小説を手にとるには、まだ抵抗があるような子供でも、その一部を読むことによって、こういう文章だったら読んでみようかなという気持ちにさせる文章が幾つか載っていたので、そういう意味ではとてもいいと思った。

ただし、国語便覧などを使っている学校もあるかと思うので、そのあたりのどうしたらいいのかなということを考えなければいけないかと思った。

委員長

ほかの方、いかがか。

外松委員

私は光村を推薦したわけであるが、確かに今回の三省堂もなかなかいいなというふうには見させていただいた。特に今回は、学習指導要領の中で学習することを習慣化させるということも大きな目標の中に入っているので、今やそういう言葉も要領の中に書かれる時代が来たんだと、個人的にはそんなふうにも思ったが、そのくらい学ぶことを日常生活に取り入れることが大変な時代になってきて、生きている環境が刺激的なものもたくさんあり、情報もたくさんあるので、ほんとうに中学生たちが日々こつこつと学んでいくということがやりにくい今の現実の社会なのかなと思うが、そういう学習を習慣化させていく、日常化していくという点でも、確かに三省堂の分冊はその役割を大いに果たすかなというふうに思う。

委員長

ほかの方、いかがか。

教育長

光村は、改めてほんとうにいい教科書をつくるなど。中学校は、今までずっと光村であった。定評もあるし、内容も充実している。それに甘んじることなく、今回の学習指導要領の改訂に伴って、かなり中身も工夫をしてきていることは事実である。一つ一つの引用している文章の質なんかもかなり高いと読んだ。

ただ、先ほど、私が三省堂を推薦したときに申し上げたように、総合力というか、三省堂が、かなり思い切って今回の学習指導要領の改訂に伴った言語活動の重要さ、そしてまた、生きて働くという国語の力を実生活の中にいかに充実させていくのかというところを充実させて、そこに観点を絞っていると言っているくらい、しっかりと特色を出しながら教科書づくりをしてきたというところを私は評価したところである。

委員長

私も教育長のご発言と似ているが、光村も大変長い間、練馬区で使用され、それに子供も教師も大変なれ親んでいるという部分があって使いやすいという点は確かにある。内容も、もちろんすぐれた点は多々あると思う。しかし、今回の学習指導要領の改訂の基本方針の中では、表現力の育成ということがいろいろな教科でも特に重視されるようにということが言われていることから考えると、今回新しい教科書に変えるということで、各学校も国語科の授業の組み立ての仕方をほんとうに根本から直すような形になると思う。これは大変な作業になるかと思うが、逆に言うと、このことによって授業がより改善されるという働きも起きるのではないかと考えている。

このような視点で考えると、やはり三省堂に思い切って変えていくという意義はあるのかなと私は考えている。

天沼委員

三省堂は、今回の改訂に伴って、知識を習得し、それをいかに活用するかというところにかなりシフトを置いている教科書だと思うので、それが一番鮮明にあらわれていた

ということで、私は三省堂を推薦した。
以上である。

委員長

それでは、皆さんにいろいろご意見をいただいたが、ここでまとめたいと思う。言葉の力を確かにつけていくという点が大変明確になっているということで、三省堂を採択したいと思うが、よいか。

委員一同

よい。

委員長

それでは、国語は三省堂を採択する。
続いて、書写である。安藤委員から発言をお願いします。

安藤委員

まず、書写の教科書を推薦する前に、いろいろ先ほどから内藤委員長や天沼委員が、皆さん、これまでにかかわってきた方々へのお礼を言ってくださったので、繰り返しになるのでここでは申し上げないが、感謝申し上げます。

私は、書写の教科書は大日本図書の教科書を推薦する。この教科書では、毛筆で字の点画や書き順について意識をしてから鉛筆で書くという順番で導入されている。基本的な筆順の決まりや文字全体の姿をとらえることから、字形を整えていくというステップはとてもわかりやすく、きれいな字を書きたいというよりは、きれいな字が書けそうと思わせる教科書だと思った。その後で毛筆の行書へと進み、硬筆の行書へ。その過程で筆順の違いなどを学び、徐々に文字の書き方を学ぶことができると思った。

また、1年生の巻では、小学校で学んだ漢字すべてを、2、3年生の巻では中学校で学ぶ漢字すべての楷書体と行書体を併記していて、すべての漢字を教科書の中のお手本で網羅できないことを補っていた。

生活の中の書写という單元では、手紙やはがきの書き方にとどまらず、レポート、ポスター、年賀状、招待状、会議録、のし袋や宅配便の伝票まで幅広く扱っていて、いろいろな場面で書写を活用するようになって、子供たちに字を書くことの大切さを理解させることができると思った。

また、3年生では、特に文字文化について資料等を含め、比較的多くのページが割かれていて、教養を深めることができることがいいと思った。

後半の好きな言葉を書いて交換しようなど、きれいな字が書けるようになりたいと思わせる單元については、字に全くと言っていいほど関心のない我が子たちのような子供にも、もしかしたら気持ちが変わるかもしれないという希望を感じ、大日本図書の教科書を推薦する。

以上である。

委員長

ほかの方、お願いします。

天沼委員

各学年における書写に関する事項は、今回は改訂により、1年生では楷書、漢字の行書、2年では仮名、楷書または行書、3年で身の回りの多様な文字、効果的な文字を書くこととなっている。私は、行書の基礎的な書き方、楷書と行書の対比でどこがどう違うのかのわかりやすさ。毛筆の場合、硬筆の場合の相違をよくとらえているか。対比して理解しやすくしているか。筆順や全体のバランスなどを配慮しているかを考慮しながら教科書を調べた。

その結果、東京書籍、教育出版、大日本図書、三省堂が甲乙つけがたくよい教科書だと思う。4社とも基礎基本として楷書のまとめを行い、行書の学習に進み、最後に生活、身の回りの多様な文字文化に進む構成となっている。分量的にも適切な量であるが、大日本図書の文字文化について考えようがまとまりもあり、役立つと考えた。

また、筆順や字形の整え方についても丁寧な説明があり、練習がふんだんに行われるよう工夫がなされていて、学習のポイントが的確であり、知識、技能の習得が図られる内容であると思う。

生活の中の書写では、さまざまな文字文化、古典の文字を学ぶ機会があり、実用性の高い事例とともに、一方では伝統文化、伝統的な文字文化に触れることができる教科書で、生徒の興味関心を引く内容となっている。教材配列も1年次の行書の基本的理解と書き方に始まり、2年、3年次の行書の文字に書きなれ、書く練習が多くなるなど、発達段階を考慮して構成されている。

以上から、その中でも特に大日本図書を私は推薦したいと思う。

なお、表記についても特に問題はなかった。

委員長

ほかの方、どうぞ。

教育長

私は、三省堂を推薦したいと思っている。第1の理由は、今回の新指導要領の改訂に伴って、書写についても、やはり社会生活に役立つ力の育成を重視されたと解釈しているので、その観点でいろいろと教科書を見させていただいた。

三省堂を推薦する第1の理由であるが、基礎的・基本的な書写技能を確実に習得させることを意図した構成だと感じたことである。1年生の教科書の冒頭に、自分の文字をよりよくしていこうという、ある意味では生徒はおそらく皆そういうふうにいると思うが、そういうねらいをしっかりと学習のねらいとして示していくということが評価できた。何に気をつけて書けば自分の文字がよくなるか、生徒に考えさせる仕掛けが随所にあったかと思う。

書写技能の習得に必要な解説部分を多くして、ポイントを意識させるだけではなくて、考えようや話し合おうの言語活動を通して、自分の文字の課題、自分の書いている文字

のどういうところに問題点があるのか、そういうことに気づかせる場面設定が多くなっていると思う。学びを振り返るための観点も明確に示されており、自分で自分の文字を評価する自己評価や相互評価ができるように配慮されているのではないかと、それが第1番目の理由である。

推薦する第2の理由は、先ほども申したように、学習指導要領の中でもう一つ新たな観点として、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の取り扱いに沿っている構成であるとする。新学習指導要領では、毛筆による指導を硬筆による書写の能力の基礎を養うものとして位置づけている。三省堂の教科書は、硬筆を中心に単元が構成されており、毛筆で学習内容を確認するという形式になっている。書き初め教材も文字に対するポイントを硬筆でしっかりとつかませてから毛筆に移行する指導が貫かれている。毛筆についても、各単元に小さく例示されるだけでなく、基本点画は、穂先、筆圧、軸の傾きの3点に絞ってモデル例が示されて、筆遣いのポイントが朱書きされている。また、文字のバランスに重点を置いているが、これについては硬筆でも同様である。そのような第2の理由があった。

推薦する第3の理由であるが、習得した書写技能の活用場面。先ほど申した実生活でいかに生かしていくかということであるが、この学習を生かそうというところがあるが、そこでは単元のまとめとして位置づけられたページである。そこではいろいろと書かせるわけであるが、その模範解答みたいなものがそのページにはなくて、あえて別途きちんと学んできたことを生かして確かめながら自分で考えさせる、そういうことの仕掛けがあるかと思っている。このような学習を通して、書写の授業を日常の授業で文字を書く場面に生かされて、ふだん文字を書くときに生徒が自分なりに整った文字を書くことが実感できる工夫がなされているかと考えた。

資料なんかも結構充実しており、紙の歴史、筆やすずり、墨などのほかの教科の学習や追究に発展できるような書かれ方もしているので、そのような意味で生徒の文字や我が国伝統的な文字文化に対する興味関心を高める工夫も盛り込まれているかと考えていて、私としては書写については三省堂がいいかと思っており、推薦させていただく。

以上である。

外松委員

この現代社会であるが、今は私たち大人はパソコンや携帯等の普及で直接文字を書く機会も減り、中には、ついこの間まではあの漢字がすらすら書けたのに思い出せない等もよく耳にする。大人の中では、文字を書くことが減少している傾向もある。だが、まだまだ機械には頼らず、直接文字を書くよさも求められているのが現代であるかと思う。

中学校3年間の学びの中で、学習指導要領にあるように、文字文化に親しみ、社会生活や学習活動に役立つよう文字を書くことができる。そのようにしていかなければいけないわけであるので、どこの発行者も見させていただいたところ、そこが達成されるようにさまざま配慮して編集されているというふうに見た。

例えば大日本図書であるが、見開き2ページで課題を配置しており、ページの右下には非常にすっきりとした形でねらいが見やすく明示されていた。左ページは生徒の理解が深まるように、右ページは毛筆であるが、その右ページの毛筆を受けた硬筆を副教材

とするようなつくりになっており、これもなかなかよいと思った。

だが、私はこれから申し上げるが、三省堂を最終的には推薦したいと考える。それは、教科書のつくりが学習指導要領の目標にある字形を整える、配列を理解する、楷書を書く、そのことを中心に据えたつくりとなっているのではないかと見た。楷書で学び、字形や配列を理解し、その基礎基本を身につけた上で、さらにそれを着実に習得していくために毛筆を学んでいく。大体で言えばそんなつくりかと受けとめた。どの学年の教科書も後半には毛筆、硬筆の字形例もあり、確実に自分がこの字はどんなつくりだろうと確認したいときに習得できる工夫されたつくりになっている。

第1学年の教科用図書には、小学校で学んだ全漢字を掲載しているところも、中学1年生にとっては、自分がどれだけ小学校で学んだ漢字を覚えているかということもチェックできる上でも活用でき定着化が図れるようになっている。

また、各学年とも資料編には、日本の文字文化に関心を持ち、書くという行為がさまざまな素材でできるヒントを与え、日常生活における言語感覚の養成を意識した資料が多くある。日常生活の中に文字を生かしていくという、今回の指導要領改善の視点に合っているのが三省堂かと判断した。

委員長

それでは、私は、光村図書と三省堂とで大変悩んだ。光村図書は、今までの教科書を変りリニューアルしたなという思いが強くなった。どのようにリニューアルしたかということ、子供の興味や関心を引きつけるようにイラストや漫画などを巧みに使って関心を高めるといような形に大きく変わったなと感じた。

それから、毛筆の筆遣いなどの扱い方とか、筆遣いのポイントについての説明が大変よくわかりやすいことが挙げられると思った。最終的には三省堂を推薦したいと思う。三省堂は、今、多くの委員からお話があったように、やはり社会生活の学習に役立つ書写指導という形に大変大きくスタイルを変えたと思う。今回の書写指導の改善としてそのようなことが言われているわけであるが、どこの社も日常生活の中での文字の働きや活用事例をたくさん取り上げているが、中でも三省堂は日常に生きる書写という点を強く打ち出して全体を編集していると思った。

例えば、日常使われている硬筆の文字を正しく写し書くために、毛筆を用いて字形を確かめるように学習課程に毎回位置づけている。このことで毛筆の役割を明確にしていると思う。

その他、硬筆中心の現代の日常生活のニーズによく対応した内容になるよう、さまざま工夫されていると思う。

もう一つの理由は、学習課程の明確化と言語活動の重視で、生徒の主体的な学習を促していると思えるからである。例えば、学習の目標や自分自身の課題をしっかり持たせ、考えよう、気づきを生かして書こう、毛筆で確かめ合おうというように、学習課程が明確で、これが一貫している。また、学習のまとめでは、自分の作品を自己評価して、その理由を書き、発表し合うなど、言語活動を重視するなど、生徒の主体的な学びを促すように工夫されていると思う。

大きな理由は以上の2点である。どちらも大変捨てがたいよさはあるかと思ったが、

時代や生徒のニーズにより合っているという点で言うと、三省堂かと考え、三省堂を推薦したいと思う。

これで一応皆様のご意見を伺った。三省堂が3人、大日本図書が2人と意見が少々分かれているが、補足、追加などあるか。

天沼委員

私は大日本図書を推薦したが、三省堂も、今おっしゃられたように大変よさがあって、時代のニーズに合っているかどうかというのはよくわからないが、速記を扱った單元などがあって、これはどこかで活用できるかなというふうにも思い、生活に生きる書写という面では特徴があるかと思ったので、そういう意味で、三省堂もいいのではと思う。

委員長

ほかにご意見あるか。

安藤委員

大日本図書の教科書はほんとうによくて、ぜひ採択されればいいなと思っていた。一方で、今、皆さんがおっしゃったように、三省堂のよさのポイントとなる、指導の順番であったり、生活の中で生かせる書写であったり、文字文化と伝統文化という部分は、大日本図書もきちっと網羅していると思う。ただ、逆に言えば、同じようなポイントでいいなと思っているので、三省堂になっても異論はない。

天沼委員

私は、やはり大日本図書が第1である。でも、三省堂でもいいところはいいと思う。

委員長

それでは、やや三省堂に傾いた意見もいただいたので、三省堂を採択したいと思うが、よいか。

委員一同

よい。

委員長

それでは、書写は三省堂を採択する。

続いて、社会・地理的分野である。外松委員からご発言をお願いします。

外松委員

まず、初めに当たり、委員長、天沼委員がお話ししてくれたように、今回も採択の準備にかかわってくださった多くの方々に感謝申し上げたいと思う。ありがとう。

地理的分野であるが、今回の学習指導要領改善の基本方針の中に、世界各地の人々の生活と環境とのかかわり合い、世界の諸地域の多様性について学ぶ。また、我が国の国

土に対する認識を一層深めるために、日本の諸地域における特色ある事象を他の事象と有機的に関連づけて地域的特色をとらえることができるようにする等がある。地理の学習というと、今までは地域に関する事実的な知識を覚えることに、どちらかといえば主眼が置かれるような傾向があったように思う。自分なんかは古い人間であるから、まさにその教育を受けてきたわけであるが、今回の改訂は、そこからの脱却が図られているのではないかととらえている。

中学1年生で、初めて小学校の社会から地理的分野へと、やや専門的に生徒が学ぶ教科である。そのことを考えて、私は、先に申し上げると教育出版が適切ではないかと見させていただいた。

まず、教科書の表紙を開くと、巻頭の見開きの一方が世界の食卓。もう一方の右側は世界の衣装。続いて地図の活用の具体例。具体例を認識するためのちょっとした練習コーナーもすぐにあった。そして、その後、第1章と入っていくつくりとなっており、専門的に初めて地理的分野を学ぶことを考えると、生徒にとってはよいのではないかと考えた。

また、世界を学ぶことの導入として、「水のある星、地球」、「海と陸に分かれた世界」というとても魅惑的なタイトルもつけられている。中学生の興味、関心を促しそうであるというふうにも思った。

章ごとに設けられているが、学習のまとめと表現というコーナーがある。そこではまとめでは学習事項の確認ができるように、そして、表現ではいろいろと学んだ知識をもとにグラフ化したり、または、そのことを文章でまとめるつくりになっていた。地理の学習を深めるページとして、例えば世界であると、地域から世界を考えよう。ということが取り上げられているかということ、例えば発展途上国の都市と貧困、甘いチョコレート之苦い現実、移動する人々、日系移民の苦難の歴史等、ほかにもあるが、ちょっと長引くから省かせていただく。

また、日本であるが、現代日本の課題を考えようと、どの教科書も大体同じ地域にしてあったかと思うが、そこでは、九州地方であつたら公害を乗り越えて、中国・四国では、荒廃の進む日本の山村等を取り上げている。それから、近畿では、東アジアと結びつく町などで、どのページも今の世界の地域、日本の諸地域の現状を知ることのできる掘り下げた内容であると思う。

また、適切であると思ったのは、掲載されている写真がどれも新しいことで、学びの考察や問題提示にとってもふさわしいと判断した。

他にも読みとこう・トライ・地理の窓・地域学習の手引き等のコーナーがあり、学習指導要領に示されている基礎的基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力・言語能力の育成、学習意欲の向上や学習習慣の確立に応えうる教科書であるとみた。

委員長

ほかの方。

教育長

私は、4社、順に見させてもらったが、帝国書院を推薦したいと思う。理由は、帝国

書院は、世界や日本の諸地域にはさまざまな自然条件や社会条件のもと、人々の工夫や努力を重ねていくことで培われた営みが、そこに来る人たちの姿であるとか背景から、きちんと学ぶことができるような編集になっているのではないかと思った。

工夫は幾つかあったと思うが、工夫の第1は、毎時間、問題解決的な学習になっているということである。見開きで写真や資料などを考察して学習課題を立て、資料や本文等で追究して、それをもとにしてまとめることができるような構成になっていると思う。そういう意味で、生徒が主体的に学習できるようになるのではなからうか。これが工夫の第1かと思う。「チェック&トライ」というのを必ず書いてあって、なかなかいい構成になっていると思った。

第2の工夫であるが、世界の諸地域と日本の諸地域、これは両方あるわけであるが、それぞれ同じ学習展開になっているということである。生徒が学び方を学べるようになっているかと思った。世界の諸地域では、地域の大まかな特色をとらえる学習から主題をとらえる学習、さらにまとめにという流れになっている。そういう意味では、地域を多面的に見ることができるようになっているのではなからうかと思う。

日本の諸地域では、まず、地域を見る視点というのがあって、その後に中心となる特色の考察、その後にまとめという学習テーマになっていて、それぞれの地域で人々の工夫であるとか努力ということが学べるようになっているのではなからうかと思う。

また、各州や各地方の自然環境であるとか歴史文化、産業を理解するための写真や地図、そういうことがかなり充実しており、そういう意味では、各地方の基礎が学べるようになっているのではなからうかと思っている。それぞれの国や地方を多面的に見ていくということで、同じ視点で見ることによって、逆に異文化の理解であるとか、国土の理解を深める構成になっているのではなからうかと思った。

工夫の第3については、多様な言語活動例を示しているということである。言語活動については非常に重要な観点であると思っているが、毎時間のまとめだけではなく、単元ごとに地図を使ったり、表や図にまとめたりするなど、生徒が今までに学習したことをもとにして考えたことを表現するというふうにできるように工夫されているのではなからうかと思う。

工夫の第4は、知識、技能を確実に定着できるコーナーが充実しているということである。この基礎基本をしっかりと定着させることも非常に重要なポイントだと思っているが、ここでもそれがなされているかと思った。

地図やグラフ、写真の読み取り方をコーナーや吹き出しを用いてわかりやすく説明している。地図帳であるとか統計資料を引用するなど、生徒みずから自分たちで調べられるように活用の例も示されているところは工夫としていいのではないかと思っている。特に学習のまとめであるとか、技能を磨くというコーナーは非常に充実しているのではないかと思った。

第5の工夫は、身近な調査ということで、ここでは八王子を事例にして調査する視点であるとか、疑問を整理して、調査テーマを決める手順であるとか、地形図等を使った調べ方、地域の課題や取り組みを意見交換して発表するやり方まで小さなステップで示されている。第1ステップから第10ステップまでであるが、対象は八王子であるが、このやり方を使って、自分たちの地域のテーマについて、さまざま課題や地理的な考察を

深めることができるのではないかとあって、非常に整理されているいい工夫ではないかと思った。

以上、幾つかの工夫をしている。他の教科書についても、地理の今回の学習指導要領のポイントについてはしっかりと押さえた形で改訂がなされているので、どれがということではないが、全体的に私としては帝国書院が総合点で勝っているのではないかと思います、帝国書院を推薦する。

以上である。

委員長

ほかの方。

安藤委員

私は、東京書籍の教科書を推薦する。東京書籍の教科書も、ほかの3社の教科書と同様、ボリュームが多いものであった。A4変形サイズと、横に大判になっているために紙面がとても見やすい教科書だと思った。

まず、この教科書の巻頭であるが、世界の姿として宇宙から撮影された青い地球の写真がとても印象的である。そして、毛利衛さんの「宇宙から国境は見えない」とか、ウォーリー・シラーさんの「地球人同士で争っていることは悲しい」や「地球が汚されつつある」と世界や日本の現状や未来について考えさせる言葉で始まっていた。学習指導要領には直接うたわれていないが、そのような問題点を挙げて、世界や日本の諸地域の特色を学ぼうとする導入は子供たちの興味を引くと思った。

次に、教科書の構成についてである。各単元の最初には、その単元で学ぶテーマや課題が提示されており、ページの終わりには「確認」というワークがある。主に説明しようという内容が多いが、提示した語句を使用させたり、文字数を制限したり、箇条書きにさせたりするなど条件を設けている場合もあった。いろいろな質問に答えるという意味で、いい練習になると思う。

加えて、えんぴつマークでは簡単な学習課題を提示している。ある市民の発言という形の資料や一口エピソード、地理にアクセスなど、子供たちの興味や関心を促すコラムが随所に盛り込まれていていいと思った。

さらに、地理スキルアップでは、地理的資料やグラフの読み取り方や作り方を具体的に学習することができ、思考力や判断力に加えて、表現力も伸ばすことができると思う。

内容については、教科書中に地図が多い印象で、教科書をもって地図に親しませようという姿勢を感じた。世界のさまざまな地域については、他の教科書に比べて各国の分量のバランスがよく、宗教についても代表的なものを取り上げて、それぞれの祈りの形を写真資料で示し、視覚的でわかりやすいと思った。

「日本のさまざまな地域」では、「世界と比べた日本の地域的特色」において、世界の中の日本であることを意識させられる点がいいと思った。また、地域によって地理、文化等の違いをわかりやすく取り上げていたと思う。

最後の章は、「身近な地域の調査」となっている。先ほど、河口教育長が帝国書院の地

域調査についておっしゃったが、こちらの教科書でも地域調査の手順として計画から調査、まとめ発表まで丁寧な調査研究の手順が示されており、先ほど述べたスキルアップを利用することもできるし、さらに思考力、表現力の育成に役立つと思った。また、この調査の方法については、他の科目でも使える学習の方法だと思った。

言語活動に関する内容についてであるが、説明、伝え合い、要約ほか、地図を書くなどの課題も示されていて、網羅していると思った。

以上である。

天沼委員

学習指導要領改訂の要点としては、地理では、世界のさまざまな地域と日本のさまざまな地域の特色を学び、習得、活用、探究の考え方にに基づきながら調べ学習を行う。世界に関する地理的認識の育成、動態地誌的な学習、地図の読図や作図、活用など技能の育成、社会の形成の視点を取り入れた身近な地域の調査となっている。

以上のねらいを達成しやすい教科書として、施行細目第10条の評価基準をもとに調べた。

以上から私は、教育出版、日本文教出版、東京書籍の3社の教科書が特によいと考え、その中から1社を推薦したいと思う。

まず、教育出版についてである。本文で基礎的知識の習得が図られ、「トライ！」や学習のまとめと表現で学習を振り返って、確かめたり、考えたり、調べる、書き入れるなどの学習活動が行われる。また、テーマを決めて地域を考えよう、とらえようでは、多角的な視点から地域をとらえ、問題や状況を関連づけ、動態地誌的な学習が図られている。読み解こうでは、各種の資料を読み取って考察したり、「トライ！」でも、新聞記事から調べる等、調べ学習が行われやすく、学習態度が授業ではぐくまれる。

アジアやヨーロッパの国々では、地域格差を扱うなど生徒に問題を投げかけ、読む、考える、表現する等、学習活動が展開され、教師の一方通行的な学習とは異なる意見を出し合う活動ができるよう工夫が見られる。内容の特色を見ると、宗教に関する記述が充実しており、多角的なとらえ方がされている。生徒の学習活動を喚起するさまざまな働きかけがなされている。興味、関心を引き出し、主体的に学べる工夫がなされている。原子力発電と環境問題や、日本の領土問題についての的確に解説しており、我が国の今日的課題の基礎的理解に役立てることができる。

続いて、日本文教出版についてである。各章ごとに学習課題と地球儀上の位置と地図、キーワードが記され、かつ、本文の標題の下に要点がまとめられている。写真や地図、グラフがふんだんに用いられ、イメージ豊かにとらえさせる導入の工夫が見られる。全体として図表や写真が的確で大きく、充実している。学習の活用が各章ごとにあり、記入させたり、書き込みさせたりなどの活動や、隣の席の人に説明したりしてもらうなど、コミュニケーションを図る教材の配慮が見られる。言語活動の充実が図られている。

さまざまな写真を見て情報を読み取り、分類し、写真から想像し、本編に入る前に予想を立ててから学習を進める。章ごとに学習のまとめがあって、章の最初に記入した予想がどのくらい記入できるようになったか自己確認ができるという確かめ学習を大切にしていると言える。世界の国を調べてみようでは、調査、調べ学習が主体となっている。

丁寧に資料の活用等の説明がなされている。調査結果をまとめようでも、レポートや壁新聞にまとめたり、クラス発表会をするときの発表手順や、聞く側のマナーがわかりやすく紹介されている。私たちが暮らす日本の範囲をとらえるで領土問題が扱われ、学習課題、写真や地図、地理プラスアルファでさらに詳しく説明がある。

続いて、東京書籍について。鉛筆マークや確認のマークが各学習項目ごとにあり、説明する活動、言語活動が毎時間予定されていて、生徒の参加、学習意欲を引き出す工夫がされている。各章末に学習を振り返る活動があり、学習をまとめたり、説明するなどの言語活動が図られる。例えば、日本の諸地域の各地方の節の終わりで、振り返る学習が行われるが、地域学習を動的に進める視点でまとめられている。

一例として、北海道地方の学習の振り返りでは、自然産業、気候、流通、生産物、教育などの結びつきを、自然を中核的事項として各事項の関連を見ながら北海道を図にまとめるといように、一つ一つをばらばらに学ぶのではなく、関連性を持って学べるように扱われている。このたびの指導要領の改訂では、思考力、表現力を育成することが求められているが、地理スキルアップでは、写真を読み取ったり、グラフを読み取ったり、地図を読み取るなど、地理ならではの思考力を育成する学習活動が展開できる。一口エピソードや地理にアクセスでは、地域ならではの情報があり、旅行したときに参考になる情報もある。

例えば、南太平洋から地理にアクセスでは、南太平洋からやってくるカボチャを紹介している。南太平洋トンガ王国の紹介で、学校の授業でそろばんが導入されていることや、トラックにカボチャを積み込む人が座っている写真が掲載されているが、私は、南太平洋親善珠算使節団の随行者として訪問し、トラックに乗って移動したことが幾度かある。

身近な地域の調査では、地理スキルアップで写真や地形図を読み取る活動や発表に向けての活動、地域学習の仕方とともに共同学習が行われる。体験学習が多く企画されていると思う。また、資料が新しく正確であり、学習課題についても何を学ぶのか、学習のポイントが示されている。教材で使われる色合いも目に優しく色使いがなされていて、文字の大きさもちょうどよく見やすいと思った。使用している写真等は、本文中の地域を示すものを載せてあるなど、素材の選択、配列が適切であると思う。表記についても問題はないと思った。

以上から、東京書籍を推薦する。

委員長

それでは、私も発言する。各委員から帝国書院、教育出版、東京書籍の推薦があったが、私も同じく、この3社に注目した。帝国書院は、地図の読図や作図をはじめ、地理的技能に関する内容が特に充実していると思う。また、教育出版は説明も詳しく、内容も豊富で、生徒の理解を深めるというよさがあると思うが、最終的には東京書籍を推薦する。

その理由は、今、委員の方々が内容を非常に詳しくご説明いただいたので、それは省く。教科書の構成として2点。1つ目が、先ほどから言っている地理的技能の習得に関しては、無理がないよう少しずつ段階的に教科書の中に配列されているという工夫がさ

れているという点。もう一つは、学習活動が多様で、系統的に大変充実した形で組み込まれている。単に知識の確認だけでなく、思考力、判断力、表現力を育成するようという工夫が大変よくできていると感じた。ということで、私は東京書籍を推薦する。

皆さんからご発言いただいた結果を見ると、東京書籍が3人、教育出版1人、帝国書院も1人ということで意見が分かれているが、あとの2つが1名ずつということであるので、東京書籍にしたいと思うが、よいか。

委員一同

よい。

委員長

ご了解いただいたので、社会・地理的分野に関しては東京書籍を採択する。続いて、社会・歴史的分野である。河口教育長から発言をお願いします。

教育長

歴史的分野については、次に審議をする公民と並んで多くの陳情もいただいた、そういう意味では非常に関心の高い分野でもある。歴史的分野については私から発言をするということであるので、改めて歴史的分野が学習指導要領の中でどのように目標立てられているか、まず確認したいと思っている。

中学校の新しい学習指導要領の社会・歴史的分野では、目標として4点掲げられている。すなわち、1点目は、歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を世界の歴史を背景に理解させ、それを通して我が国の文化と伝統の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てるというものである。

2点目は、国家、社会及び文化の発展や、人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てるというものである。

3点目は、歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などに関心を持たせ、国際協調の精神を養うものである。

4点目は、身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して、歴史に対する興味や関心を高め、さまざまな資料を活用して歴史的事象を多面的、多角的に考察し、公正に判断するとともに、適切に表現する能力と態度を育てる。この4つが学習指導要領の中で歴史的分野の目標とされているものである。改めて確認したいと思う。

以上、長々と引用したが、2つの理由からである。1つは、今掲げた目標を見ると、学習指導要領は決して特定の考え方を強調しているものではなくて、文字どおり、歴史的事象を多面的、多角的に考察し、公正に判断することを目標としていることが明らかであるということがある。2つ目は、一方で、学習指導要領は改訂をされた。その改訂されて新しく盛り込まれた文言については一定の意思のあらわれであり、その意味では、そのことを尊重する必要があると考える。今申し上げた2つを同時に踏まえることが、

私の教科書選定の心構えであるということをまずは申し上げておきたいと思う。

その上で、具体的な各社の歴史教科書を見渡したときに、まずは、我が国の文化と伝統、歴史上の人物について理解を深めるための記述や資料が豊富なことが必要であること。加えて、我が国と諸外国との歴史や文化の深いかかわりについて、生徒がみずから考えることができる内容や構成になっていること。学習の方法として、歴史に親しみをもち、歴史に対する関心を高めるために、調べ学習の機会や自分で考えて学ぶ活動が多く設定されていることが望ましいと考えた。

結論を申し上げますと、私は教育出版がよいと思う。生徒の主体的な学びを促進し、社会認識を習得するための工夫が多数設けられている点がすぐれている。具体的に申し上げます、まず、工夫の第1は、生徒が1人で教科書を読み進められるよう配慮されている。難しい言葉を脚注で解説したり、難しい語句をそのまま使うのではなくて、平易な言葉で説明したりして理解を助けている。

工夫の第2は、政治の仕組みや日本各地の出来事、産物等を図やイラスト、地図を活用してわかりやすく説明している。文章による解説だけでは理解が難しい内容が多いので、この工夫は生徒の理解を深める上で効果が高いと思う。

工夫の第3は、章ごとのまとめを丁寧に扱って、理解の定着を図っている。年表や地図、表などに学習内容を直接記入する手法を多く取り入れるなど、学習を整理し、構造的に把握する支援となっている。

工夫の第4は、見開きの内容が容易に概観できる。各見開きのテーマで学習内容を端的にあらわすようにして、見通しを持って学べるようにしている。

工夫の第5は、領土問題について適切な取り上げ方をしている。コラムを設け、竹島と尖閣諸島に関する要因について扱い、日本の考えや立場を明確に記載している。

工夫の第6は、小・中連携の視点を重視していることである。巻頭ページで小学校の歴史学習の振り返りを丁寧に扱ったり、小学校で既に学んだものの人物であるとか、中学校で新しく出てくる人物の囲みの色を変えたりしてわかりやすく扱っている。

工夫の第7は、地域の歴史調べを促す仕掛けが各所にあり、古い時代と現代の生活を結びつけている。古い時代の写真を掲載し、現代の様子と比較しながら学習できるようにするなど、歴史の流れの中に現在の生活があることを意識するよう意図されている。

工夫の第8は、発展的な内容への移行を促している点である。各見開きに「トライ！」のコーナーを設置して、学習内容を広げたり深めたりしている。

最後に工夫の第9は、文や資料が読み取りやすいという点が挙げられる。字の濃さであるとか資料の発色が鮮明で全体を通して見やすいものとなっている。

以上、私は教育出版を推薦するが、今回すべての教科書に目を通しての感想である。自由社と育鵬社の教科書は、読んでいて大変おもしろかった。内容も充実していると感じた。ただ、人物に焦点を当てた人物学習が中心となっている。都教委の教科書調査研究報告書や練馬区の教科書協議会の答申の中にもあったが、歴史上の人物の扱いを見ると、自由社が539カ所、育鵬社は688カ所と、他社と比べて抜きん出ている。教育出版は421カ所であった。

人物を通した歴史というものは、学習指導要領にも出ている。ただ、一方で、言語活動に着目を見ると、自由社は25カ所、育鵬社は18カ所である。教育出版は115カ

所ある。中学校の歴史では、基礎基本をしっかりと定着させ、さらに応用力をつけさせるために、みずから考える力をつけ、そしてまた表現をする、そういう力をつけていく、そういう学力の向上と人格の形成というものを図っていくことが求められていくと考えている。

学習指導要領の目標にもある我が国の文化と伝統の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てるには、各教科における言語活動の重要性は極めて高いと私としては判断をしたところである。

以上である。

委員長

ほかの方、どうぞ。

天沼委員

私は、歴史教科書については、歴史的事実をより客観的に学ぶことができるのはどの社の教科書かということ考えた。結果、東京書籍と日本文教出版の2社から1社を推薦したいと思う。

2社の共通点は、統計資料を用い、客観的な数値を示してあるなど、グラフや統計資料を活用し、より客観的に考察させるところにある。その他の教科書にも、それぞれ改訂の要旨に沿った工夫、特徴があって、よい点がある。例えば、教育出版は、日本、中国、朝鮮の年表を併記していて、近隣アジア諸国と日本の歴史の位置づけから、我が国の歴史を近隣諸国との関連から理解させる。近現代の学習にも役立つ。清水書院は、章の冒頭に地図や世界史の年表等を配置して、我が国の歴史の大きな流れを理解させる学習に役立つなど、全体を通じて世界の動きとの関連を意識して学習する配慮が見られる。特に東京書籍と、見開きページ、左側にスケールをつけ、学習内容と時代の流れが常に確認できるようになっている日本文教出版がよりよいものと考えた。

まず、東京書籍についてであるが、特徴としては、歴史スキルアップが最初にあり、歴史の流れをとらえ、その時代や年代のあらし方や歴史の調べ学習の仕方など、学習効果の例示が充実しており、図書館の活用の仕方も含め、生徒が主体的に学べるよう工夫がされている。「わたしたちの歴史探検隊」では、地域の歴史探検をし、歴史についての学習の仕方の方法や体験学習を通じて、より主体的に思考力を高めることに役立つものとなっている。ポイントを確認するコーナーで、基礎的・基本的な理解の定着を図るとともに、歴史にアクセスや深めようで、より学習を深め、豊富なものとする意図が見られる。教材の内容が発達段階を考慮して配列され、系統的であり、簡明な記述がある点、すぐれていると思う。

続いて、日本文教出版についてである。目次、歴史のとらえ方以下、学習指導要領とよく合致しており、イラストや写真等で時代を大観できる配慮が見られる。班で考えたことを整理し、発表する活動が学習への参加と意欲づけを高め、表現力の育成に役立つと考える。歴史をはかる物差しや、「さあ、中学校の歴史学習を始めよう」では、時代区分、西暦等を押さえることができ、歴史の流れを体験することに役立つ。大きなイラストや写真や系図などを用いての説明では、色合いが当時の色使いに近いものとの配慮も

感じられる。

資料について見ると、東京国立博物館や日本銀行貨幣博物館所蔵の資料など、出典がしっかりしており、実物の写しであったり、国宝の写真など、正確かつ第一級の資料を使っている。生徒の学習を支援するため、各節ごとに学習課題が示され、出来事の年表、キーワード、主要人物の肖像写真など丁寧な扱いがなされている。より深く学ぶ、歴史を掘り下げるでは、イラスト入りでおもしろい読み物となっていたり、文化財保存の仕事が紹介され、歴史資料の修復過程が紹介されている。

博物館や資料館での文化財を守り伝える仕事など、単に見学するだけだった博物館などに対する生徒の関心を引き出すことに寄与すると思われる。資料が豊富で所蔵などが明示され正確であり、教育内容に合った材料が精選されている。

現在に伝わる文化遺産とともに、歴史上の人物画や人物写真が多用されており、時代との関連において理解させ、伝統文化を尊重する態度の育成に役立てることができる。

また、写真、イラストや地図、その他、さまざまな資料を活用し、歴史事情をより具体的でわかりやすく学習できるよう工夫することによって、生徒が歴史に関心を持ち、主体的に学習し、多面的に考察し、判断し、適切に表現する能力を高めることができると思う。表記についても問題はないと思う。

以上から、私は日本文教出版を推薦する。

委員長

ほかの方、どうぞ。

安藤委員

歴史の教科書については、さまざまな意見があり、これまでに教育委員会への陳情が多かった科目の一つである。正直なところ、とても緊張して教科書研究に当たった。

結論を先に申し上げると、私は教育出版の教科書を推薦する。歴史の今回の改訂のポイントには、日本の歴史の大きな流れの理解と近現代史の充実である。大きな流れを理解するための教科書づくりを判断することは少し難しいと思ったが、おそらく1単位時間として構成している見開きページの最初に、必ず時代の物差しと、どの時代が焦点になっているかを示していた。歴史の大枠の中で今扱っている内容がいつの話なのか視覚的にわかりやすく示されていると思った。物差しのすぐ下には、その時間に学ぶ内容が質問として書いてあり、見開きの右下には「トライ！」という簡単な課題が提示されている。これは、「説明する」「まとめる(もしくは整理する)」「調べる」が主な課題で、知識を深めることと同時に、言語活動の一つとしていいと思った。

さらに、見開きページではないが、「読み解こう」という課題の提示もあった。これは、資料を読み取ったり、考えを深めたりする学習活動ができる。また、各時代の終わりの「学習のまとめと表現」のページや「時代の変化に注目しよう」では、時代の移り変わりを流れでとらえたり、次の時代との相違点に気づかせたりという工夫を見ることができた。意見交換という課題はあまり明確に示されていないような気がしたが、言語力の育成、活用の重視や思考力、判断力を育てるといったポイントは教科書づくりにあらわれていると思った。

少し話がずれてしまったが、もう一つの大きなポイントである近現代史の充実についてである。教育出版社は、すべての歴史教科書の中で、その時代に割くページの比重が最も大きく構成されている。歴史の流れの中では、それ以前のこともとても大切だとは思いますが、指導要領の改訂で指摘されているように、近現代史の充実は必須である。特に公民への学習へとつながる現代史は、しっかりと時間を割いて学習するべきだと思い、評価の対象とした。

幾つか項目として挙げられている事項、例えば宗教の起こり、仮名文字の成立、冷戦の終結、藩校や寺子屋、沖縄返還、日中国交正常化、石油危機については、どれもきちんと分量を確保して述べられていた。各時代の最初のページに、日本、中国、朝鮮の年表を掲載しているが、これは近隣諸国との関係を考えると、それぞれの歴史を関連させることができていると思った。

最後に、持続可能な社会の形成という観点についてである。主に公民の教科書で取り上げられているが、教育出版社は、最後の単元が「未来を開くために」となっており、社会の国際化、情報化、地球環境問題、人権を尊ぶ、平和を築くと、次世代を担う子供たちにはしっかりと受けとめてほしい内容が挙げられていることに好感を持った。また、これらの内容は、公民の学習にスムーズにつながると思った。

教科書に当たっていく中で興味深く読んだものが育鵬社の教科書であった。区民の方からの声の中にも、ぜひ採択してほしいという意見があったので、少し感想を述べさせていただく。育鵬社の教科書は資料が多く、とても詳しい記述が多い印象を受け、特に歴史上の人物や文化遺産に関する資料は育鵬社が圧倒的に多く、学生時代は苦手だった歴史を改めて勉強したくなるような教科書であった。これから述べる理由から、他の教科書に比べてオリジナリティーの高いユニークな教科書だと思った。子供たちにとっては、各時代の初めの織り込みの資料、「歴史絵巻」が導入の資料としていいと思った。資料とは違った意味での視覚的な効果があり、とてもわかりやすかった。読み物コラムや人物コラムをはじめとして、全体的に日本人としての自覚や誇り、アイデンティティを喚起するような内容の紙面になっていて、今の子供たち、そして大人たちにも読んでほしい気持ちになった。ほかの読み物に「なでしこ日本史」というものがあった。これは、各時代の女性を取り上げていて、内容は興味深いものだと思ったが、私は、あえて別の項目として掲載する必要があるのか疑問に思う人物の中に、歴史の中では大変重要な役割を果たした女性は、その流れの中で扱うほうが自然ではないかと思った。

もう1点。古代や中世で扱われている宗教の起こり、仮名文字の成立、藩校、寺子屋など、学習内容の改善と充実のポイントとして挙げられている項目についてとても詳しく説明されていた。例えば、仮名文字などは説明の後にも読み物としての資料があった。一方、現代史の中で扱う石油危機、冷戦の終結、沖縄返還、日中国交正常化などの項目については、やや説明が少ないと思った。他のポイントの一つである近現代史の充実という視点から見ても少しバランスが悪いと思った。

一部の項目で教科書を選択することはないとこれまでの教育委員会で言われてきたが、この視点については、指導要領改訂のポイントとして挙げられていることから無視することができない項目であると考えた。

少し私的な話にもなるが、先日、海外生活の長い友人と会う機会があった。そのとき

の会話の中で、我々の世代は日本の歴史において近現代があまりきちんと教えられていなくて、大人になってからいろいろ考えさせられることがあったと聞いた。私自身も学生時代、海外生活をする中で、少なからずそういう経験をした。今後、世界を相手に、または世界を舞台に活躍していく子供たちには、ぜひ近現代史についてきっちりと学んでほしいと思った。特に近代史をきちんと学び、近隣諸国と仲よく将来を築ける次世代をつくる教科書がいいという思いを込めて、教育出版を推薦する。

以上である。

委員長

ありがとう。ほかの方、どうぞ。

外松委員

今までの委員の方々と重なるところは少し省かせていただきながら述べさせていただきたいと思う。改善のポイントは何人かの委員がおっしゃっていたが、これは確認のために言わせていただく。我が国の歴史の大きな流れを理解させ、そして各時代の特色や時代の転換にかかわる基本的な内容の定着を図り、課題追究的な学習を重視するという。それと、後半になって現代社会についての理解が深まるよう、近現代の学習を一層重視することがポイントとして挙げられている。その観点で、各発行者7社あるが、読ませていただいて調査研究した結果、私は教育出版を推薦させていただきたいと思う。

何人かの委員がおっしゃっていたが、そのとおりであり、大変に学びが掘り下げられるようなつくりになっていると感じた。例えば、世界から歴史を探ろうでは、地球の歴史をたどってというところは、具体的な学習指導要領の目標の中の我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てるとつながっているし、郷土の歴史を探ろう、地域の古墳を訪ねてというところでは、身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味や関心を高め、資料を活用して多面的、多角的に考察し、公正に判断するとともに、適切に表現する能力と態度を育てるところをねらっている。

また、人物と地域からでは、歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重する態度を育てるところにつながっており、伊治公弼麻呂の乱とアテルイの戦いというのを取り上げている。また、発展学習や言語活動が活発となるようにというところでは、地域調査の手引きコーナーというものを挙げて、かなり具体的にそれができるよう丁寧に記述されている。

さらに、学びの連続の意識化が図れるよう工夫された歴史上の人物が、小学校でもう既に登場した人物と中学校で新たに登場した人物とでは、色分けがはっきりとされている。なおかつ、そして学びの連続性というところをねらっている。

また、生徒の興味や関心を引いて、一体その時代の特徴はどんなだろうということが把握しやすいような非常に工夫された各時代の見出しの言葉があるところもよいと思った。例えば、読み書きそろばんの習い、学問の広がりとは化政文化というのは、なかなかよいと思った。

近現代についての理解であるが、先ほど安藤委員も述べられていたが、教育出版は、そこに視点を当てて近現代史が充実して記載されている。大きな第7章で2度の世界大

戦と日本。1、第一次世界大戦と民族独立の動き。2、大正デモクラシー。3、恐慌から戦争へ。4、第二次世界大戦と日本の敗戦というふうに、改善点に合うように内容が検討されているものであると見た。また、資料が大変豊富で、写真のページも生徒の興味、関心を深めるものを選んでしていると判断した。

以上のことから、私も教育出版が適切ではないかと考える。

委員長

それでは、私も意見を述べさせていただきます。

皆様のご意見にあったように、歴史分野は特に各社の編集方針や特色が強く打ち出されていると思った。教育出版は、各時代の見出しをその時代を象徴する言葉であらわした点が大変効果的でよいと思うし、また、全体的に説明が詳しく、やや高度であると思った。

自由社や育鵬社は、現在不足している日本の国や日本人を誇りに思う気持ちを育てる上で、日本や日本人の美点や功績に対する外国の評価や人物や事物を積極的に紹介するなど、大切な視点を示していると思う。また、全体的に説明が詳しく高度であるが、ストーリー性があり、歴史を深く学べると思う。副読本として読ませたいという感想を持った。

さらに、育鵬社の、先ほど安藤委員からもあったが、歴史絵巻は大変わかりやすく、よく工夫されていると思った。

ほかの各社とも大変それぞれすぐれた点があったが、すべてどの教科書も検定を通っているのだから、採択に当たっては、記述内容も重要であるが、練馬の生徒が学習意欲を高め、みずから学ぶ上でわかりやすいこと、また、教える側としては確かな学力を定着させる上で使いやすいという観点で採択することが大切だと考えている。

この観点からすると、私は、東京書籍の教科書は、今回の学習指導要領の改訂の基本方針をよく踏まえ、確かな学力の定着が図られるよう大変よく工夫していると思う。細かいことは述べないが、全体的に生徒にとってわかりやすく、教師にとっては授業で使いやすいよう、よく吟味、工夫された教科書であると思う。

以上の理由で、東京書籍を推薦する。

皆さんにご意見を伺ったところ、教育出版が3人、東京書籍1人、日本文教出版1人という結果であるが、補足、追加、ご意見があれば願います。

天沼委員

私は日本文教出版であるが、東京書籍とどちらがよいかということで、先ほどの説明の中で東京書籍についても述べさせていただいた。どちらを選んでもいいと思ったが、どちらかというと日本文教出版ということで推薦をさせていただいたので、どちらかなと。

教育出版については、特に、先ほどのご説明もあったように、アジア諸国との関連の中で日本の歴史をとらえるという歴史認識ということを考えて、やっぱりすぐれているかなと思う。最初にある年表も、日本と中国と朝鮮の年表を併記しているところが特徴かと思うので、今、3人ご推薦がある教育出版もいい教科書というふうにも思ってい

る。

委員長

私も、先ほど、最終的には生徒にとってわかりやすく、教師にとって授業で使いやすいという観点をお話したが、そういう観点で言うと、教育出版も大変工夫されていると思うので、次に挙げるとしたら教育出版かと思っている。ということで、教育出版を採択ということでしょうか。

委員一同

よい。

委員長

それでは、社会・歴史分野は教育出版を採択する。
続いて、社会・公民的分野である。天沼委員からご発言をお願いします。

天沼委員

公民的分野の目標は、学習指導要領には4項目が示されているが、時間の関係で省略させていただき、練馬区の状況から、これまで教育委員会に多くの陳情が寄せられたところ、自衛隊や竹島、尖閣諸島や北方領土、国旗・国家、日本人拉致問題、天皇、地震・津波などの災害、原子力発電所など、いろいろ記載がある。練馬区の子供にとってふさわしいものは何か、いろいろ課題の多い教科だと思った。

自由社は、3月11日に発生した東日本大震災を載せている点で評価できるかなとも思った。公民の学習を通して生徒が身につける能力としては、社会の見方、考え方や、社会問題を考える態度の育成がまず最初であると考えている。その際に求められるのが、正確に理解し、公正に判断し、みずからの意思を表現する能力ではないかと思う。そして、お互いの意見や人権を尊重する民主社会の形成者として公民の育成を目的とする教科であると思う。

さらに視野を世界に広げ、国際社会の平和と我が国を愛し、繁栄を願う人類福祉の観点に立つ国民の育成が目的にあると考えた。大変難しい教科であるとともに重要な教科であるので、わかりやすさ、学習がスムーズに進めやすいかということが教科書採択のポイントではないかと思った。

そういった観点から、私は、日本文教出版と東京書籍の教科書が甲乙つけがたいものであったので、2社のうち1社を推薦したいと思う。

まず、日本文教出版についてであるが、表紙裏に「公民との出会い」としてアニメでケーキを分ける課題が提示され、対立と合意についてわかりやすく理解させる、そういった導入部分がある。教科書構成としては、現代社会ナビ、政治ナビ、経済ナビなどがついており、あなたの考えを書いてみよう、何々だ、なぜなら何々だと、導入がとてもわかりやすくなっている。また、教科書ページの端に項目を記して開きやすくし、使いやすさの配慮も見られる。アニメをふんだんに用いた対立と合意や効率と公正では、学級会の例を挙げ、練習問題では個人尊重の観点から育児について考えさせたり、学習の

整理や活用や「トライ！」で、知識をまとめ、活用を図る工夫がなされている。政治ナビを例に挙げると、イラストでさまざまな問題を投げかけ、大変わかりやすい導入部分となっている。各節ごとに学習課題が明示されていて、バリアフリー社会を目指してなど、実物写真を掲載して人権を考えるなど、わかりやすい扱いがされている。

公民ズームインではいろいろな例があり、裁判員裁判のシミュレーションや、ワーキングプア、ハローワークなど、現代的課題を考えさせるテーマが用意されている。

また、チャレンジ公民では、ディベートの進め方の学習では、問題解決の流れとチェックポイントが示され、主体的な言語活動を支援する内容となっている。企画書の作成やプレゼンテーションなど、経済産業省主催の社会人基礎力の育成に結びつく能力の育成が図られている。

公民プラスアルファでは、NPOと地方公共団体の協力など、新しい公共性について考えさせる基礎的な学習に役立つものとなっている。陳情のあった領土問題やエネルギー問題など、本文中に記載があるが、領土問題については、公民プラスアルファでさらに詳しい説明がなされている。

次に、東京書籍についてである。目次の前に見開きページで世界の友達の写真が掲載され、いろいろな意見や感想を述べ合い、共通点、相違点から世界の人権へと学習の広がりがある。続く公民を学ぶに当たって、地理、歴史、公民の3領域を視覚的にとらえさせ、3領域の相違に気づかせ、公民科の特徴を把握させることが行われている。第1章で、スーパーマーケットといった身近な事例から学習を始めた。身近にあるもの、電子マネー、ポケベル、携帯電話など、中学生の興味、関心、生活に結びつける工夫がある。同様に、暮らしに生きる伝統文化でも、初もうで、盆踊り、節分といった生徒の身近な伝統文化を載せ、発達段階を考慮した扱いがなされている。

言語活動を充実するため、見開きページの右下には理由を説明させるなどの思考力や表現力を育てるねらいが見られる。現代社会を生きる中でさまざまなトラブル、問題の解決についてどのように判断し、解決を実行することが望ましいか、学習指導要領に示された概念的な枠組みとして、対立、合意、効率、公正について具体的な事例を挙げており、学校でのグラウンド使用をめぐるトラブルや自治会でのトラブルの解決、決まりについて考えさせている。身近な事例から興味、関心を引き出し、学習意欲を高め、生徒が主体的に学べるようテーマの工夫が見られる。このように地域の中に具体事例を探し、用いて学習させるものも多く見られる。

現代的課題も登場しており、縦割り行政の見直し、幼保一元化の動きなどや、首長になって考える、企業の跡地利用については、住民の意見を考え、暮らしを政治と結びつける事例などが掲載されている。

公民にチャレンジで、新聞4紙掲載し、具体事例から判断させるなど、メディアリテラシーの育成といった公民としての資質の向上がはぐくまれる。学習活動から地域への社会参加を図る項目もあり、私たちの政治参加では、地域の新しい試みといった発展的な学習が進められている。

暮らしと経済でも、コンビニエンスストアの経営者になって考えるなど、興味を引く教材の取り上げ方とともに、写真、新聞、グラフなど、的確な資料を用い、確認させながら学習が図られている。人権を考えるディベートや経済、プレゼンテーションなど、

新しい表現力を育てる学習活動、模擬裁判で思考力、判断力、表現力が統合され、活用され、能力が高められるよう取り扱われている。

終わりに、持続可能な社会というテーマを事例として、レポート作成が求められ、ここから社会参加へつなげていくといった公民としての資質の育成のねらいが完結される。巻末資料も充実していて、私は、表記についても問題がなく、東京書籍を推薦したいと思う。

委員長

ほかの方、いかがか。

安藤委員

先ほどの歴史と同じ教育出版を推薦する。教科書のつくりが歴史と似ているので、教科書の構成に関する幾つかの点については簡単に説明させていただく。各単位における学習のポイントと「トライ！」での課題の提示、「読み解こう」での資料の読み取りは、歴史のそれと同じ理由でいいと思った。さらに、「公民の窓」というコラムがいいと思った。すべてのコラムではないが、知識だけでなく、子供たちの思考力を育てる一つの方法であると思った。

ちなみに、領土の問題の一部については、ここで取り上げられている。ほかにも身近で興味を引きそうなことが多く取り上げられていると思った。

教育出版の教科書には、各章の最初には、その章に入る際に興味を引くような著名人の言葉が記されている。これらの言葉は、おそらく歴史をはじめとする他の科目で出会うことがないけれども、私たちにいかかわるとも意味のある言葉だと思った。

“読んで深く考えよう”という資料を読むことによって、考えを深めていくテーマ学習を紹介している。また、“言葉で伝え合おう”というテーマ学習では、「ディスカッション」、「ディベート」、「プレゼンテーション」、「レポートの作成」、「模擬裁判の提案」と、言語活動を学ぶ手段が示されている。これらは教科書の構成ではあるが、繰り返し述べられている思考力、判断力、表現力をはぐくむ教材だと思った。

最終章において、「持続可能な未来のために」という単位をもとにして、持続可能な社会についての学習がある。これも改訂のポイントの一つになっており、「持続可能な社会」についていろいろな角度から追究できることを提示した上で、レポートのテーマの選択、レポートの方式、そして行動計画の実践等と中学校の最後の単位として、高校への勉強にもつながるような教材になっていると思った。

私は、子供たちがディスカッションやディベートをはじめとする言語活動はどこかできちんと学習しておく必要があると思っている。もしかしたら公民である必要はないかもしれないが、社会の仕組みやいろいろな課題を学習する公民でこれらを身につけることはいいことだと思う。特に指導要領では、対立と合意や効率と公正などをテーマに示して、概念や考え方を学習するようにしている。このようなコントラバーシャルなテーマを語る時に、ぜひ身につけてほしい技術だと思う。ディベートのコツや時間配分などを身につけながら、世の中にはいろいろな考え方があって、さまざまな価値観があるということを理解し、社会で生きていくことを学ぶことができる教科書がいいと思い、

教育出版を推薦する。

外松委員

私は教育出版を推薦させていただきたいと思う。今、安藤委員もおっしゃっていたが、学習指導要領で言われていることの中に、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解させるとある。そこに、教育出版は大変丁寧に扱っている。例えば、1つとしては、1920年代のイギリスのピカデリーサーカス広場の交通混雑を解消するための交通ルールを取り上げていたり、それから、ぐっと現代に来て、渋谷のスクランブル交差点とドイツの円形の交差点との対比を挙げて議論をしていくようになっていたり、中国の信号無視によって起こる事故や渋滞への対策というのがテーマになっていたり、日本の登下校指導ということで、これらを学ぶことができるようになっている。

そして、この内容は、公民の基礎である民主主義ということ認識することと非常に関連してくるために、そのページの参照ができるように印が示されており、知識がしっかりと定着し、さらに興味関心が深まるようなつくりになっているところが学ぶのにふさわしいとみた。

また、領土に関しても、「公民の窓」のところでしっかりと「日本の領土をめぐる」というタイトルで詳細に記載されている。北方領土、竹島、尖閣諸島が地図で示されており、日本の国土とその周辺の地図には排他的経済水域の説明もある。これからを生きる中学生にとっては、このことはしっかりと認識してもらいたいと考えているので、この辺もきちっと載せている点を評価していきたいと考えた。

また、巻頭の口絵ページに写真が大きく掲載されているが、「動き続ける世界」というタイトルで、日本の国際協力隊、アフガンで現地の人を指導して、木の苗を育てている日本人のスタッフの紹介、そして「歩き続ける人々」では、合掌造りの家屋の屋根のふきかえをしている職人さんたちから、森林調査活動に参加している中学生、また、地雷廃絶運動を続けている女子大生。この女子大生に関しては、もう少し幼いときと、現在、女子大生になってもなおこの活動を続けているという両方が載せてあった。中学生の学びの心に響くとみた。

その他、写真資料の年代が新しく、公民を学ぶのにはふさわしいと思っている。

公民的分野というのは、第3学年で習得していく教科であるから、見たときには、多少表現も難しいと思うところもあるが、第3学年で学ぶということを考えると、教育出版を推薦したいと思う。

教育長

今回の公民では、特に対立と合意、効率と公正というテーマに対して、各社工夫を凝らしているということで興味を持ってというか、関心を持って比較した。教育出版については、先ほど外松委員から申し上げた交通ルールの問題であるとか、公園づくりという問題を取り上げているし、清水書院については、合唱コンクールの曲決めという極めて身近な事例を扱っている。また、帝国書院では、マンションのスロープ設置であるとか騒音問題、日本文教出版では、マンションのルールづくりであるとか、競技大会での

グラウンド使用問題、自由社では、学校とルールということで具体的な学校でのルールづくり。育鵬社では、家族、地域、国家、世界、そういう広がるテーマをしっかりと位置づけて、この対立と合意、効率と公正というのに即して、ほんとうに工夫を凝らしてそれぞれの教科書ができているということは、読んでいて大変興味深く感じた。

その中で、東京書籍は、学校でのトラブルを考えてみようということで、部活動でのグラウンドの使い方であるとか、あるいは自治会における規約のあり方を考えさせて、両方で学校と地域社会を意識した内容になっている。そういう意味では、私としては、この中で東京書籍が、生徒が自分の課題として考えるには一番身近でいいのかと感じた。

全体を通して、読んでみておもしろかったのは自由社であった。3月11日の東日本大震災に関する資料も載っていた。この時期では既に教科書検定は行われていたと思うが、会社の努力で資料を差しかえたのだと思うが、意気込みを感じることができた。

北方領土、竹島、尖閣諸島の領土問題についても各社挙げているが、とりわけ自由社は群を抜いて記載量が多いと思う。本文以外にも、「もっと知りたい」というコーナーで、我が国の領土に関する問題として2ページ挙げているとともに、裏表紙裏には我が国の領域というものを見開きで掲載している。領土問題は、言うまでもないことであるが、日本にとって大変重要な内容であると思っている。ただ、全体を見通したときに、ひとつの項目だけで教科書を選べるかという観点からすると、やはり難しいかと思った。

以上、全体を見渡す中で、私は東京書籍を推薦したいと思う。東京書籍は、日本と世界の政治経済、社会を考察できる広い視野を持っているし、よりよい社会の一員として社会に参画する、貢献するという編集になっている。また、教科書はあくまで主要な教材であり、生徒は教科書を学ぶのではなくて、教科書で学ぶということは、再三、教育委員会で議論になったと思う。ある意味、読み物としておもしろいからといって、教師による一方的な講義調の授業であってはならないわけであり、特に私は今回、冒頭、国語のところから申し上げているように、今回の学習指導要領の改訂で重視された言語活動について充実しているものを選んでいきたいと思っている。東京書籍は、そういう意味では言語活動を取り上げているが、私が見た感じでは最も多く、多様な活動がよりされていると考えた。冒頭、スーパーマーケットの例があるというお話があった、あの導入もなかなか大したものだなと、子供たちが非常に身近に公民という世界に入っていけるのかなと考えた。

ただ、東京書籍、唯一難を申し上げれば、家族の役割であるとか、家族のきずなに関する記述がやや弱いかと思った。ただ、総合点で、私としては東京書籍を推薦したいと思っている。

以上である。

委員長

私は、最終的には東京書籍を推薦したいと思う。その理由は、天沼、河口両委員から大変詳しくお話があったので省略させていただきたいと思うが、公民というわかりにくい分野の学習に対して、現代社会が生徒の身近な問題としてとらえられるよう大変よく工夫されていると思う。そのことで興味関心を喚起して、子供の学習意欲を高めるのではないかと思う。

もう一つは、最後にご発言もあったが、課題解決能力を育成するための多様な学習活動が大変充実していると思った。大きく言えば、以上の2点から、私も東京書籍を推薦したいと考える。

以上、一通り皆様のご意見を伺った。東京書籍が3、教育出版2ということで意見が少々分かれているが、補足、追加、修正等、ご意見があったらお願いしたいと思う。

外松委員

教育出版を推薦する者としては、教育出版ではないというのはちょっと捨てがたいところであるが、確かに東京書籍が一番最初にスーパーマーケットの例があるように、非常に身近な生活から入っている。そのほかの例でも、中学生の日常生活を例にとり、そこから課題解決能力や言語能力が育っていくようにつくられている。残念ではあるが東京書籍でも異存はない。

委員長

ほかの方、いかがか。

安藤委員

言語活動に関する部分では、私は、やはり教育出版のほうがいいのかなというところは曲げられないというか、強調したいと思う。ただし、ちょっとアプローチ方法が違ったが、最後のほうに出てくる持続可能な社会という部分では、東京書籍もとても充実していると思った。教育出版とは切り口が違うので、なかなか比べるのは難しいとは思いますが、充実しているところは確かにとてもいいと思った。

それから、再三皆様がおっしゃっているように、学校や地域社会、そして世界へと、身近な事柄から社会へ視点を広げていくという学習活動の発展という部分においては、私も皆さんの意見に賛成である。

委員長

ありがとう。まだほかにご意見あるか。特にないようであれば、東京書籍にご賛同いただくご意見も少々あったので、社会・公的的分野については東京書籍を採択するというのでよいか。

委員一同

よい。

委員長

それでは、社会・公的的分野は東京書籍を採択する。

12時半近くになった。公民まで審議を終えたので、ここで一たん休憩として、午後1時30分に再開したいと思うが、よいか。

委員一同

よい。

委員長

それでは、休憩とする。

なお、再開は、ただいま申し上げたとおり、「1時30分」からとするので、よろしく
願います。

休 憩

委員長

それでは、午前に引き続き、審議を開催したいと思う。

続いて、地図である。安藤委員からご発言をお願いします。

安藤委員

地図帳は、東京書籍と帝国書院の2社からの選択であった。基本的にはどちらの地図
も見やすく、資料も充実しているものであった。そういう中で、私は以下の点について
注目してみた。

まず、地図としてより見やすいもの、資料については、小学校の地図帳のときにも取
り上げたが、子供たちが興味を持てるもの、領土、領海、領域がしっかりと明確なもの
かどうかということである。

最初に推薦する図書を申し上げると、東京書籍の「新しい社会科地図」である。どち
らの教科書も、最初は地球全体の地図であるが、帝国書院が地形図であるのに対し、東
京書籍は地球環境という視点から見た人工衛星からの画像である。地球は海が多くを占
めていて、青く美しく見える一方で、そばに砂漠化した様子をあらわした資料を置き、
見比べることができる。これは、中の地図のページにおいても、同じように地図と資料
を見比べやすいレイアウトになっているものであった。資料自体もすっきりとしていて、
見やすいものが多いと思う。地図自体は、帝国書院のものが小学校で使っていることも
あり、色合いなど、なれているようにも思うが、東京書籍についても、カラーバリアフ
リーに配慮するなどの工夫があっただけと思った。

子供たちが興味を持って、より地図に親しむことができる資料についてであるが、後
半の資料ページで、例えば、住居をつくる時の材料について注目したり、アジアにお
ける穀物消費量の比較であったり、アメリカにおけるプロスポーツの本拠地であったり
する。また、日本では、日本の地方の分け方が、一般的なものだけではなく、電力会社
や食生活、高校野球の地区などで示されている資料があり、これらは実際に授業では当
たらないかもしれないけれど、地図や資料に興味を持つきっかけになればいいと思った。

最後になるが、日本の領域については、日本に関する項の一番初めにきちんと書かれ
ていた。

以上である。

委員長

ほかの委員、よろしく願います。

教育長

私は帝国書院を推薦する。初めて世界地史、あるいは日本地史を学ぶ生徒が、地図帳を通してそれぞれの地域に、いろいろな自然や文化、伝統、人々の暮らしがあることを知り、その多様な世界の中で生きていくための広い視野を身につけられることが、地図の重要な役割だろうと思っている。

帝国書院の工夫の第1は、地図記号であるとかイラスト、地名等を詳細に示すなど、極めて情報量が多いということが特徴として挙げられる。その中から、生徒が必要な情報を見つけ出すことによって情報を収集し、読み取る力を育成することが期待されるわけであるが、生徒の発達段階に見られる旺盛な好奇心、これにこたえる地図帳だろうというふうに思う。

工夫の第2は、各ページに記載する地図については、国や都道府県の大きさや位置、周辺を理解する上で、ある程度の範囲を示すことが必要だと考える。帝国書院の地図は、周辺地域も含めた全体像が把握しやすい、そういう範囲が掲載されていると思う。日本地図では地方区分を重視し、世界地図では大きめのイラストを使用して、地名等の情報は少なくして、国の名前と位置がわかりやすくなるようなページづくりをしているというふうに考えた。

工夫の第3は、帝国書院は使用している紙がしっかりしていて、光沢感のある印刷である。また、彩色、色使いについては、全ページにわたってはっきりした濃い色が使われていて、非常に見やすい。地図の場合には、そういう要素が大変重要だろうと考えている。

以上の利用によって、私は帝国書院を推薦する。

委員長

天沼委員、どうぞ。

天沼委員

私も帝国書院を推薦したいと思う。

最初に、地図の使い方として、こんなときどうするのが示され、活用に役立つよう配慮が見られる。また、地域の特色をとらえるポイントから、地図を使う用途に応じた例として、世界の生活文化のポイントから、世界の地図がどうなるか示されている。このように、資料図が大変充実している地図帳であると思った。

また、特定地域を比較してみた。私は、領土の地図上の確認のしやすさがどちらかという点で比べてみた。東京書籍については、尖閣諸島、位置は確認がしやすく、大変大きかった。国後、択捉も大きく、わかりやすく掲載があった。また、竹島は島根県に所属していることがわかりやすくなっている。北方領土は全体的に大きく確認できる地図帳だと思う。

一方、帝国書院については、北方領土の位置が確認できるが、日本とロシア、ソ連の国境の変遷が、あわせて資料として年次を追って載っている。そういう資料の面の充実が見られると思う。尖閣諸島の位置と国境線が明らかで、尖閣の下に括弧書きで石垣市

とある。これは明らかに日本の地域に所属するということが示されていると思う。竹島の位置と国境線が、日本列島の地図で明確にされているのが大変よいと思った。排他的経済水域であるとか、そういったものも明らかである。

したがって、以上からであるが、私は帝国書院を推薦したいと思う。

委員長

外松委員、どうぞ。

外松委員

私も帝国書院を推薦したいと考える。

地図は、見やすく扱いやすい、そして、資料が豊富であるということが望ましいと思う。その視点で見たときに、帝国書院は、地図記号、文字、それから色等非常に鮮明ではっきりしており、先ほどほかの方も述べていらっしやっただが、地方区分や国境等が大変に見やすい地図となっている。また鳥瞰図も多く、資料として充実していると思った。

資料の充実というのは、基礎学力の定着化のみならず、そこから思考力、判断力、そして表現力の育成へとも関連していくものであるので、資料が充実しているというのは大変に大切なことであると思う。

なかなか楽しいと思ったのは、例えば、北アメリカ州のページでは、サンフランシスコの、その都市の箇所に、1951年、サンフランシスコ平和条約と文字が記入されている。歴史学習とも関連して、いろいろなことが想起できるつくりだとみた。

北方領土に関しては、先ほども発言あったが、「日本とロシア、ソ連の国境の変遷」というタイトルをつけ、日露通商条約からサンフランシスコ平和条約までの変遷というのが4枚の資料で示されており、どのように変わってきたかということがわかるような工夫がある。

さらに、日本と世界の姉妹都市なども記入されているページもあった。また、学習課題の「やってみよう」や「地図で見る目」などがあり、中学生が学んでいくのにふさわしい地図であるというふうに考え、帝国書院を推薦したいと思う。

委員長

私は、2社ともそれぞれ特徴があり、よく工夫されていると思ったが、帝国書院を推薦する。

その理由は、詳しいことは今各委員がおっしゃっていただいたので省略するが、1つ目としては、大陸から見た日本列島の図や鳥瞰図を掲載するなど、図形、写真、表及びグラフ等の資料や、素材の取り扱い方が大变的確であるということ。

2つ目には、色のコントラストがはっきりしているなど、読みやすくする工夫がよくなされていること。

3つ目には、各種資料等、情報が大変豊富で、多面的に理解できたり、深く学べるようになっていたり、他教科や授業以外の日常生活や自学自習にも幅広く活用できるなど、個に応じた学習にも活用できる地図及び資料集になっていると思われる。大変すぐれていると思い、帝国書院を推薦する。

以上である。

皆さんのご意見、一通り伺ったところ、帝国書院が4、東京書籍1ということであるが、特にご意見ないようであれば決めたいと思うがいかがか。

それでは、地図については帝国書院でよろしいか。

委員一同

よい。

委員長

それでは、地図は帝国書院を採択する。

続いて、数学である。外松委員からご発言をお願いします。

外松委員

数学であるが、学習指導要領の目標には、数学的活動の楽しさや、数学のよさを実感し、それらを活用して、考えたり判断したりしようとするところがある。この目標に近づくには、理解でき、そしてわかってこそ、その入り口に立てるのではないかと思う。数学の入り口に立つには、基礎的、基本的な技能の習得が大変重要であるし、学習意欲の向上、また、学習習慣の確立が必要であると思う。これらができ、その連なりの上に、思考力、判断力、表現力も育っていくのではないかと考える。

また、練馬区の児童生徒が、学力調査等の結果から、基本的な算数・数学の力はあるが、いろいろな角度から問題を解いていくと、問題の問いかけ方の角度が変わると、やや苦手な傾向にあるという結果もある。従って、その辺も克服できるようにという視点から、各発行社の教科書を見てみた。

その結果、私は啓林館を推薦したいと思う。

その理由の一つとして、まず1年生の教科書であるが、目次の前に、「この本で学ぶ皆さんへ」や、「保護者の方へ」というコーナーがあり、特に1年生の場合なら、算数から数学と変わって若干敷居が高いと感じている子供たちへの配慮であると思うが、数学を楽しく学びましょうと呼びかけている。そして、学習の進め方ガイダンスには、学びへの心構え、意識化が図れるように工夫されている。

また、さらに、自分の考えをノートやレポート用紙にまとめ、話し合ったり伝え合ったりするという言語活動も学習の視野に入れたつくりになっている。もちろん、ノートのとり方やレポートにまとめるまとめ方の紹介例もある。学習指導要領の目標に掲げられている、自主学習、みずから進んで学習ができるように、練習問題、それには学んできた章の基本の確かめ、また、それからさらにステップアップするためのアップの問題というのが組み込まれている。この教科書で学んだら、自分で学んでいくこともできる生徒になれるのではと期待を込めて、推薦をさせていただいた。

委員長

そのほかのご意見、いかがか。安藤委員、どうぞ。

安藤委員

学習指導要領の改訂では、基礎的・基本的な知識、技能の確実な定着と、それを図るための発達段階に応じたスパイラルな学習の充実。ほか、知識、技能を活用する力の育成や、学ぶことの意義や有用性を実感できる「数学的活動」などがポイントとなっていた。

教科書を推薦するに当たって、正直に感想を申し上げますと、その選択はとても難しかった。どの教科書も基礎・基本を固めるためのスパイラルな学習の充実が図られ、同時に、発展的な学習も必要とされるなど、内容だけでなく、ボリュームにおいても従来の教科書と比べ、かなり重たくなっていた。

そこで、少し迷ったことには、とにかく細かく親切に説明してあるほうがいいのか、そうでないかということであった。つまり、あまり詳しく書いてあると、できる子供たちは授業をあまり聞かずにさっさと進んでいってしまい、もしかしたら、基礎・基本面で取りこぼしてしまうことがあるかもしれない。一方で、あまり丁寧でない、それこそ理解に時間がかかる子供たちにとっては、自学自習といった面で問題を抱えてしまうのではないか。表裏一体の課題かもしれないが、その点でとても悩んだ。

最終的には、その単元で学習する内容の説明においてステップがわかりやすいもの、落ち着いて読めるもの。この場合では、あまり漫画を多用していないものという点に注目した。また、指導する際、1時間の授業を意識して構成されていると思われるものなどに注目して推薦する教科書を決めた。

結果から申し上げますと、説明は比較的シンプルだけれども、しっかりと反復練習のできる教科書ということで、啓林館の教科書を推薦する。

啓林館の教科書は、1年生の巻頭に、学習の仕方、教科書の使い方、ノートのとり方の説明が丁寧に掲載されている。ノートのとり方については、画一的になるのではないかという指摘もあるようであるが、どうしたらいいかわからない生徒にとってはとても参考になると思った。特に画一的になるような強制力もなければ、個性的なとり方でもなかった。また、2年生、3年生についても、発達に応じた提案がなされている。これは、全体的に見たときに、多様な解答例の提示や解決方法について説明したり、伝え合ったりする言語活動の充実に加えることができると思う。

スパイラルな学習の一つになる反復練習については、まず、1年生の巻末で、小学校算数の復習ページが豊富で、解説まで掲載されていた。ほかにも、「ふりかえり」マークを配し、既習事項について立ち返ることができるような工夫があった。発展的な内容としては、単元に呼応している「数学ひろば」を巻末に配し、生徒の興味・関心にこたえながら、数学を活用する視点を広げようとしている。また、「数学を通して見てみよう」では、環境や歴史、国語、社会福祉、国際社会、伝統文化、技術、そして美術と、多岐にわたった日常生活に関する数学的なアプローチをしており、とても興味深い内容になっていた。

見やすさのポイントとしては、1行当たりの文字数が少なく、十分な余白を確保しているほか、マークの種類が少なくわかりやすく、小さな鳥の見た目、あまり邪魔にならない程度のカットが配されていることである。さらに言えば、単元のねらいと学習のポイントが他の教科書と同じように明記されているのであるが、そのポイントが囲みで

示されていたり、見開きになっていたり、学習しやすい印象を持った。また、見やすさという点で、カラーユニバーサルデザインを申請中であるということもつけ加えさせていただく。

以上である。

委員長

天沼委員、どうぞ。

天沼委員

私は、啓林館と日本文教出版の2社が、全体的に教材が精選されていて、すっきりとした印象を持ったので、2社から1社を推薦したいと思う。

2社に絞り込むまでに考えたことは、算数から数学に変わる前、小学校段階でやや不十分な初心者というか、子供たち、あるいは数学に苦手意識を持っている生徒にもわかりやすく教材がつくられているのはどれであるかというのが、それまでの私の判断の決め手であった。内容構成が系統ですっきりしていること、間違いやすい事柄を注意深く印をつけて示すなど、七五三教育ではなく、全員が見切り発車されないのはどの教科書かという観点で選択をした。

まず、啓林館についてであるが、今安藤委員がおっしゃったように、やはりこれは大切な事項を、注意事項を落とさないようにグリーンのマーカーを示すなどして身につけさせるということが目立った。各節で説明の後、例題、問題を課して、節の終わりで練習問題を置いてという配列がされていて、文章も読みやすく、分量も適切だったと思う。説明が簡潔で、要点をきちんと抑えているということが大変よかったと思う。

また、小学校までの振り返り、そういった振り返りマークのついた内容は、既習事項であるが、これが7社中最も多い教科書であった。振り返り算数マークで、算数の内容まで系統的に体系化しているのは大変よいと思う。数学というのは積み重ねの教科であるから。3年生でも説明の右側にポイントや振り返りの矢印をつけ、なぜそうするのかなど、見方、考え方や、同じように考えるなど、数学的思考力の育成を図ることができるよう工夫されている。また、資料の活用では、統計を使ったり、調べた事柄を発表する活動など、発展的な学習、表現力の育成に役立ち、推量的に考察し、表現する能力を高めることが可能だと思う。

続いてもう1社、日本文教出版についてであるが、符号の変化など、基本的なところであるが、そういったところにも色をつけて注意をするなど、間違いやすいところはマーカーで見落とさないよう配慮がなされている。学習指導要領との整合性はきちんと図られている。教科書の構成は、トライ、例、問いであったり、確認、例、問い、トライで問題という流れで、すっきりとした配列となっている。

小学校算数への振り返りは、例えば線についてどのようなものかを基本的に学ぶことから始めている。小学校算数との連携、アニメを用いた説明、理解する工夫が随所に見られるわかりやすさが、最大の特徴と言える。例題の解答が色分けされ、注意を喚起したり、空欄の箇所を穴埋めするなど、基礎・基本をしっかりと身につけるということが重視されている教科書だと思う。1つのことをじっくり学んで、次に進む方針がとられ

ている。例えばトライでも、「考えよう」の文中を穴埋めで、問題の解き方を改めて学ばせるなど、段階的な学習方法で進められている。これまで学んだ基礎・基本事項を一括して提示するなど、繰り返し基礎・基本を確認しながら次へと進むことができる教科書だと思う。表記についても問題はない。

以上から、日本文教出版を推薦する。

委員長

教育長、どうぞ。

教育長

私は啓林館を推薦したいと思う。理由は、啓林館の教科用図書が、既習事項に基づいて新たな基礎・基本を定着させ、思考力を育成するための工夫が体系的になされているからである。

数学の学科は、なかなか中学校に入って、小学校算数とのギャップというか、そういうものがいろいろと問題になっているけれども、この啓林館の教科書については、既習事項、つまり小学校で習った事項との関連性というか、その辺の位置づけが明確であるということがすごく工夫されているところだと思った。これまでに学んだことで、新しい学習内容に関連する事項には、先ほどから話が再三出ているが、共通の振り返りマークというものがついていてのとあわせて、囲み記事で明示してある。この表示によって、内容相互の関連が明らかになって、学習の見通しが持てるのではなからうかと思う。既習事項の範囲を小学校の算数の範囲にまで踏み込んで設定されていて、小学校で習ったものはランドセルマークがついていることですぐわかるが、そのような工夫もなされているものである。

また、巻末には算数の関連問題をまとめて掲載していて、学習途中でも、関連する内容ごとにページを指定して参照できる。算数、数学の系統性を強く意識して、個人差に対応した流れが意図されているということが、非常に工夫されているかと思った第1の理由である。

2つ目の工夫であるが、数学的な見方や考え方の、具体的な場面での例示があることである。単元の要所に考え方のマーク等があり、同じように考えると、範囲を広げるとか、逆向きで考えるとか、そのような見方・考え方が端的に示されている。単に、示した例や図解をなぞるばかりではなくて、他の学習にも当てはめて解決したり、類推してとらえたりすることができるための支援になっているかと思う。思考力を育成するための考え方が一貫している、基礎・基本定着と、それに対する応用というか、それをしっかりと踏まえた教科書のつくりになっているということが評価できる。

最後に、先ほど安藤委員からもあったが、ノート指導を通して表現力の育成、言語活動の充実というものが働いている点がいいかと思う。巻頭にはノートの工夫のページが設けられて、3年間の学習内容に応じたノートのとり方を示している。図や表による数学的表現であるとか、立式や作図によって理解を深めるという方が具体的に示されている。根拠を持って発言して、自分と他者との考えを比較することが自主的になされるための重要な視点である。

言語活動については、今回、教科書を一貫して出てくる話なので、数学においても言語活動の重要性を、我々としては、観点としてしっかりと見ておく必要があるというふうに、改めて考えたところである。全体を通して、既習事項をしっかりと押さえ、基礎・基本を定着させ、さらに思考力、表現力を培う、言語活動についてもしっかりと築き上げていくというための確固たる姿勢が、啓林館の数学の教科書には貫かれているということで、啓林館を推薦したいと思う。

以上である。

委員長

啓林館を推薦する方が大変多いようであるが、私も啓林館と東京書籍に注目した。特に、練馬区の子供たちの実態に照らした観点から理由を述べる。

先ほども出した平成21年度全国学力学習状況調査の、数学の学習意識調査における練馬区の結果から、数学が好きでない、どちらかというと好きでないと答えた生徒が、合わせて47%にのぼるということが明らかになった。その課題解決には、授業の導入時に学習意欲を喚起し、有用感を高める授業展開の必要性があると、学力調査研究委員会の報告書に示されている。これは、今回の学習指導要領、数学科改訂の要点の一つでもある。練馬だけの課題でもない。この数学の有用感を高めるという課題に対しては、どこの社も工夫しているが、特に東京書籍は、各場面で日常生活の身近な事柄を題材にして授業の導入を行い、展開する構成にしている。その内容も大変適切であるなど、生徒が興味・関心を持ち、学習意欲を高め、有用感を持てるよう、さまざまな工夫がされていると思う。

また、同じ調査で、生徒のノートのとり方のよしあしと成績のよしあしに相関関係があるとの報告もあった。ノートのとり方に関しては、啓林館にもあるようであるが、東京書籍には、各学年とも巻頭に、数学マイノートとしてノートのとり方を示し、次に、1章の終わりに、さらに具体的にノートのとり方を示している。報告にあるように、各校がそれをしっかりと活用してノート指導を継続すれば、学力の定着につながると考えられる。

さらに、学習調査の結果、練馬区の学力は全国及び東京都と比較してほぼ同じか、やや上回る項目が半々であるとの報告もある。このことに関連して考えてみると、内容が精選されたわかりやすい教科書が望ましいと思う。この点、教科書協議会の答申や、調査会や、各校研究会の報告の中では、例題の説明が丁寧でわかりやすい、段階を踏んだ発問など、教えやすい構成になっている、巻末の問題等が、家庭学習における予習・復習など、自学自習しやすいよう工夫されている、習熟度に応じた内容の工夫があるなど、基礎・基本の定着を図るために活用しやすい教科書である。練馬区の生徒の実態に合った、標準的な教科書であるといった意見が多くあった。

私も、研究組織と同様の意見であり、東京書籍は特に全体構成がはっきりしていて、学習の流れや見通しを立てやすいことなど、他社に比べてシンプルでわかりやすいと思う。練馬の子供たちの実態にふさわしく使いやすいと考え、東京書籍を推薦する。

以上で、皆様のご意見を承った。啓林館が3、東京書籍が1、日本文教出版が1ということであるが、追加のご意見はあるか。

天沼委員、どうぞ。

天沼委員

私は啓林館も推薦させていただいて、どちらかといえば日本文教出版ということで、推薦した。理由はほとんど同じである。振り返り学習がきちっと行われている、小学校からの連携、連結が図られているということで、基礎・基本の定着が、積み重ねの教科であるので必要かと、連結していくことが必要かということで、両出版社も、その辺のところは注意深く取り上げているということで、別段、啓林館では困るということではないので結構である。日本文教出版が第1であるが、啓林館でも結構である。

委員長

私も同じく、最初に申し上げたように2社で随分悩んだ。シンプルと、東書のことを申し上げたが、啓林館も大変シンプルなつくりになっていてわかりやすいというふうには思っている。導入の仕方もわかりやすいし、インパクトもあり、よく精選されていると思っているので、私も、啓林館もいいのかと思っている。

では、数学については啓林館を採択することよろしいか。

委員一同

よい。

委員長

ご賛同いただいたので、それでは、数学は啓林館を採択する。
続いて、理科である。河口教育長からご発言をお願いします。

教育長

理科は、私は東京書籍と大日本図書、2つで悩んだ。

まず、大日本図書であるが、図や写真が多くて理解させやすいという点であるとか、日常生活での身近な現象をとらえながら、発展的にそれを膨らますという意図で教科書がつくられて、興味・関心を高める形になっているということ。それから、理科が好きになるという子供を育てるといった願いが、誌面を通して感じられたかと思っている。1年生の219ページには3Dの画像まで置いて、できるだけ引きつけようという思いが、それがいいか悪いかは別であるが、とにかく、そういう姿勢がすごくあらわれていると思う。大日本図書については、小学校で理科で使っているのだから、そういう意味では、なかなか理科というのは、中学校になって嫌いになってしまうという子が結構いるので、そういう意味では、小学校からの連続性みたいなもので、大日本図書の理科の教科書というのは、とっつきやすい教科書の一つなのかと思った。

ただ残念なのは、実験のところは、やはりこれから申し上げる東京書籍と比べると、実験の進め方の手順のきめ細かさであるとか、安全の記載であるとか、そういうところが、やはり東京書籍がかなりまさっているかと思っている。

そこで、悩んだ末、私としては東京書籍を推薦させていただきたいと思っているが、

第1の理由は、先ほど来から申し上げているが、基礎的・基本的な知識、技能の確実な習得のための工夫が見られるということである。東京書籍の教科書では、各章の導入部とポイントとなるところで、既習事例、既に学んだところをしっかりと例示して、新しい学習内容にスムーズに入れるように工夫を凝らしている。理科の内容だけでなく、数学であるとか算数であるとかの内容を含めており、そういう意味では、いろんな学習がうまく融合するようにできているかと思う。

また、科学的な概念を定着するために、スモールステップの学習方法で対応したり、誌面を見開きで効果的に使いながら、概念であるとか例外であるとか、解き方であるとか、そういう順番も丁寧に例示しているということも、よく工夫されているなど思っている。

また、第2の理由は、基礎・基本の着実な、確実な定着と、その次の、いわゆる科学的な思考力、表現力、これの育成のための工夫が見られるかと思っている。生徒の理科の学習への好奇心を刺激する導入としても、科学的な写真であるとか、そういうものを誌面全体に配置して効果的に使用したり、探究する流れを示して、実験やみずからの体験を通して科学的に考える力がはぐくまれるよう構成されているということが、なかなか考えられているかと。

また、科学的に表現する力の育成のために、レポートの作成であるとか発表の仕方、こういうものでも例示をしており、実験や観察結果、その他、いわゆるその事実を根拠として分析、解釈して、論理的に表現できるように、丁寧な形にしているというふうと思う。

第3番目については、先ほど大日本図書のところでも申し上げたが、東京書籍のほうも、観察、実験と安全指導、これを丁寧な記述をしている。練馬区では、過去、実験中に事故があったということもあり、こういう実験の際の安全性、そのためのしっかりと安全確保といったものを記載していると。冒頭で、2ページか3ページ目にあっただろうと思うが、理科室の決まりというページを設置したり、それを繰り返し開いたり、あるいは実験の場面では、注意喚起のためのマーク等、注意すべき事項をしっかりと丁寧に記載してあると。また、それだけじゃなくて、実験の進め方についても、極めて細かく記載されている。そういう意味では、観察、実験のところは、やはり東京書籍にかなり一日の長があるという印象を持った。

それやこれや、さまざまあるのであるが、大日本図書も、大変、子供たちにとって、科学、あるいは理科という教科に親しみ、また、日本のお家芸である科学技術というものをしっかりとそこにつなげるような意図で書かれていることについては大変評価をしたいと思うが、総合力で東京書籍かと、私としては考える。

以上である。

委員長

ほかの方、どうぞ。

外松委員

理科であるが、今回の学習指導要領の改訂で、授業時数も、以前の290時間から、

移行期を経て385時間へと増えてきて、重要視されている教科の一つである。そして、改善の基本方針には、理科の学習において、基礎的・基本的な知識、機能が実生活における活用や、論理的な思考の基盤として重要な意味を持っている。また、科学技術の進展などの中で、理数教育の国際通用性が一層問われている。このため、科学的な概念の理解など、基礎的・基本的な知識、技能の確実な定着を図る観点から、エネルギー、粒子、生命、地球などの、科学の基本的な見方や概念を柱として、子供たちの発達段階を踏まえ、小中高等学校を通じた理科の内容の構造化を図る方向で改善すると、そのように示されている。

今回、5社が発行社にあるが、どこの発行社も、この改善に示されているエネルギー、粒子、生命、地球を柱として、基礎的・基本的な知識、技能の習得や、思考力、判断力、表現力等を育成することから、観察、実験、レポート作成、そして論述等が大変に充実したつくりとなっているというふうに見せていただいた。

その中で、私は教育出版を推薦したいと思う。それは、観察、実験では、教育出版は準備する器具、それから装置の操作方法、データの処理の仕方など、それらを基礎技能として示しており、生徒に大変わかりやすく、丁寧に示している点である。もちろん、安全に関しての注意もしっかりと明記されている。実験では、当然、先生にいろいろとご指導していただくわけであるが、多分、興味・関心のある子は自主的に準備できる用具や材料、手順等が理解できるようにつくりとなっており興味深く教科書を見ることもあるだろうと思った。そのような生徒のことを考えたときに、なかなか丁寧につくられていると思った。そして、今までの学習をもとに、さらに探究して学びを深める学習活動の紹介もあるし、小学校で学習したこと、それからさらに、また今までに学習した既習学習等も紹介し、学びの考察がより深まるよう、配慮されている。言語能力の育成へとつながるレポート作成の例示なども、わかりやすく示してあった。生徒が主体的に学ぶのに適しているのではないかと見た。

科学技術が現代は生活と密接にかかわっているわけであるが、放射線がさまざまな場面で利用、活用されているこの現代、そのことに関しても、文中で、現代社会では放射線がその特質から、工業、医療、農業分野、その他、年代測定、科学分析に利用されていると、そのようにも表記されている。そして、3年生で学ぶわけであるが、原子力発電のことに関しても、発電の方法、原子力発電の利点、また、原子力発電の問題点等、必要なことが記述してある。現在起こっている、この原子力発電の問題に関しても公平な記述の仕方であることから、いろいろなことを生徒が自主的に考えたり、基礎的な知識を身につける学びにつながるのではないかと考えて、教育出版を推薦したいと思った。

委員長

天沼委員、どうぞ。

天沼委員

私は、いろいろ調べて、結果として教育出版、啓林館、東京書籍の3社が甲乙つけがたいと思った。結論は後ほどである。

まず、教育出版については、1年の最初のところで理科学習の進め方があり、学習活

動の手順というか、これから3年間やっていく理科の勉強のやり方ということ学ぶ、学習のポイントが的確に提示されていた。それから、レポート作成などの場合、私のレポートが、お手本レポートがそこに載っていて、非常に参考になるのではないかと思う。2年、3年になってくると、もう少し基本的な見方や、整理や考察、観察と実験が出てくるが、それが一体化していて、教育内容の扱い方等に一貫性、統一性がある。要点チェック、発展など、イラストで生徒の発達段階を考慮し、見やすくまとめられていると思った。

続いて啓林館であるが、教科書と別冊でマイノートがついている。授業のときに、今日のチェックとして活用できるし、学習活動の定着、見直しなどを図ることができるのではないかと思う。また、教育内容が一覧表にして示されていて、何を学ぶのか、最初にわかりやすくされている工夫があり、これもいいかなと思う。「話し合ってみよう」では、そのコーナーでは、最近起こった出来事について、新聞などを利用して調べる学習が行われるような、そういった基本的な技能の習得が企図されている。観察学習については写真入りでわかりやすく、レポートづくりや発表活動に対する支援なども含めた言語活動の充実、学習活動の一層の充実が図られるものだと思う。

続いて東京書籍、私は、この東京書籍を推薦したいと思う。単元名、章の名称の次に何を学ぶのが明瞭に書いてあり、しかも、それぞれが指導要領の内容の取り扱いと一致していて、また、教科書の中で紹介されている実験事例は、指導要領の中で例示されているものを参考にしたものが多く、実物写真を添付するなど、非常に今回の改訂に沿っているという印象を持った。基礎操作などのイラストなどは、子供の発達段階に合わせたアニメモデルなどを使ったり、親しみやすくしている。また、実際の実験の際の安全面の配慮がよく、注意が黄色と赤でくっきりとはっきり示されていて、とてもよいと思った。

各章の最初のページに戻るが、小学校でのこれまでの学習が掲載されており、これまで何をやってきたのかという学び直しの確認から学習をスタートできるようになっていて、系統性がここでとられているのかと思う。同時に、「話し合おう」という項目というかコーナーあり、学習の導入時に生徒同士が話し合ったり、そういうことが行われるような配慮がなされていて、学習への動機づけを高めることになるのではないかと思った。

それから、教材の配列については、具体的意識を持って観察実験を行う、科学的に探究する能力の育成、態度を育てることや、科学的な見方や考え方を育成する理科の目標に合致する学習活動が進められるような配列が組み立てられているように思う。

各章の結末、終わりのところで、学習の結果、何が獲得され、何がわかったのか、学習の内容と整理とか、確かめと応用とかが掲載されていて、生徒の問題解決への意欲と、探究的な活動、そしてその結果の検証、確認といった基礎的な作業というか、そういったことが、この教科書を使うことによって図られるのではないかと思う。

最後になるが、教科書の最後のところで、理科室の決まりと応急処置というまとめがあるが、これは身近に起きるかもしれない事故を未然に防止する上では大切なことが書いてあって、役に立つのではないかと思った。

以上から、最後に推薦した東京書籍を推薦したいと思う。

委員長

安藤委員、どうぞ。

安藤委員

私は啓林館の教科書を推薦する。啓林館の教科書は、最初に教科書の使い方の説明がある。そこには、教科書の各単元の構成と、実験や教科書中で使用されている観察についてのマークや、安全のためのマーク、その他、簡単なコラム、クイズ、間違いやすいことを正しく理解するポイントを示すマークなどの説明があった。その種類が多い印象を受けるが、従来の1分野と2分野が1つの教科書にまとまることによって、1冊の教科書で扱う内容が多岐にわたることになった結果であると同時に、実際に教科書の中では一度にたくさんのマークが共存していることがないので、教科書の誌面自体は、それほど雑多になることはなかったと思う。むしろ、啓林館の教科書は誌面がすっきりしている印象を受けた。

各単元の初めには、他の教科書同様に「単元のねらい」が提示されていて、何を学ぶのか明確でわかりやすいのであるが、啓林館の教科書は、その前に「振り返り」の項目もあり、その単元で学習することに関連した既習事項を振り返るテーマが書かれており、改訂のポイントである知識や技能の定着を促すと思った。

ほかに、科学への関心を高める観点から、日常生活や社会との関連を重視する改訂のポイントがあるが、「科学のひろば」、「先人の知恵袋」、「働いている人に聞いてみよう」など、多様な切り口で紹介していて、子供たちの興味・関心を引く工夫がされていると思った。

最後に、理科では実験があり、安全面についての記述にも注目した。これはほかの委員と同じである。啓林館の教科書には実験チェックリストがある。東京書籍のように巻頭にまとめて載っていないが、実験のある単元に「サイエンス資料」として詳しく載っている。また、各実験を提案している箇所でも、その手順がわかりやすく掲載されていると同時に、どこでどのような注意が必要かを明記してある。科学の実験というのは、いつの時代も子供たちの興味・関心を引きつける、ある意味最も楽しい授業の一つだと思うが、事故のないように、十分に気をつけて臨んでほしいと思う。

「わたしのレポート」という、実験や観察の結果をノートにまとめた様子が、各単元に1つ程度あるのであるが、説明、考察や感想など、まとめ方のお手本になり、言語活動の充実についても配慮されていると思った。巻末にまとめて掲載されている地域資料については、多様な自然条件を持つ日本の風土が写真資料などでわかりやすいと思った。ほかに、サイエンス資料は子供たちや科学に興味を持つきっかけになるような資料や言葉の説明がまとまっていていいと思った。

最後に、推薦の理由ではないが、牧野富太郎さんについてのコラムがあった。牧野さんは植物学者として著明な方であるが、この練馬に記念館があり、関連のある方なので、もしこの啓林館の教科書が使われることになったら、先生方にはぜひ触れていただきたいと思った。

以上である。

委員長

私は、東京書籍と啓林館で迷ったが、最終的には東京書籍を推薦する。その理由は、主に次の3つである。

1つ目は、現在、生徒の理科離れ、科学離れが課題とされ、科学に対する有用感や、学ぶ意欲を高める必要性が強く言われていると思う。その課題に対しては、生活と結びつく話題を多く掲載したり、身近な題材を取り上げたりしている。その内容が大変適切で、生徒の興味・関心を高め、有用感や学ぶ意欲を高めるよう、よく工夫されていると思う。

2つ目は、今回の改訂で、科学的な思考力、表現力を育成するために、目的意識を持って実験観察を行い、結果を分析して解釈する能力の育成の重視が言われている。この点に関しては、科学的事象に対する課題意識の持たせ方が大変よく工夫され、実験や観察の手順も、ポイントがわかるように、記述や写真や図が工夫され、生徒は、何の目的で、何をどんなふうにするのかがよくわかり、学習の見通しが立ち、学習意欲を高めると思う。生徒が目的意識を持ってしっかりと学習することで、科学的な思考力や表現力を育成することができると思う。

3つ目は、単元の最初に学ぶことを提示したり、思い出そう、確かめよう、やってみよう、活用しようなど、既習事項の確認をしたり、学習内容の整理や確かめと応用など、学習活動が系統的に構成されていることや、巻末の資料のページが充実していることなど、理科の基礎的・基本的知識、技能の習得が図れるよう、さまざまに工夫がされている点もすぐれていると思う。

以上の理由から、東京書籍を推薦する。

皆様のご意見、伺った結果、東京書籍が3、教育出版1、啓林館1という結果になっている。追加のご意見、補足のご意見があったらお願いします。

安藤委員、どうぞ。

安藤委員

私は、ほんとうに啓林館の教科書、とてもいいと思っていて、何遍も読んで、推薦させていただいたのだが、今、皆さんの注目している点と、それから、推薦した理由等を伺っている中で、東京書籍の教科書のよさと、啓林館の教科書のよさというのは、わりと似たところがあるのかという印象を受けた。であるので、東京書籍でもいいというのは失礼かもしれないが、異論はない。

委員長

ほかにご意見あるか。

外松委員、どうぞ。

外松委員

各社見させていただき、ねらっているところは、皆、どこの発行社も同じだと思う。それをどういう切り口で教科書として表現していくかというところに相違がある。東京書籍の本も小学校からの連携もあり、掲げている目標に対して丁寧につくられている教

科書であるから、その辺の異存はない。

委員長

それでは、理科については東京書籍を採択することよろしいか。

委員一同

はい。

委員長

それでは、理科は東京書籍を採択する。

続いて、音楽（一般）である。天沼委員からご発言をお願いします。

天沼委員

このたびの学習指導要領の音楽科の改善の基本方針は、4項目に示されている。音楽のよさ、楽しさを感じたり、表現したり、聞いたりする力の育成と、音楽文化に楽しむ態度の育成。それから、表現、鑑賞の支えとなる基礎内容、基礎事項として、また、思考・判断力の育成、創作活動は音楽をつくる楽しさの観点から、鑑賞活動は、おもしろさ、美しさを感じるとともに、批評する力の育成。そして最後に、我が国の郷土の伝統文化に対する理解とされている。これらの改善の基本方針とされている事項が、それぞれの教科書でどのように生徒に習得されるよう教材化されているか。練馬区の評価基準に照らし、生徒が受け入れやすいものか否かが選択可否を分けるのではないかと思う。

と申しても2社だけであるので、まず、最初の教育出版についてであるが、「春第1章」の鑑賞の後、紹介する文章を書くという学習活動がある。鑑賞活動では、感じたことを自分なりに批評することが求められる。「魔王」の鑑賞でも工夫がされており、ゲーテの原詩を文学作品として理解させてから鑑賞させる。音楽の背景となる文化、音楽というのは、その背景となる文化を、音を媒体としてコミュニケーションするという性格もある。芸術作品として理解を深め、言語活動の充実が図られるという扱いになっていると思う。正確に作品を受けとめるという工夫ともとらえることができる。

同様に、日本の民謡の学習では地図が示されていて、暮らしの中ではぐくまれてきた各地の文化が背景にある祭りの歌、踊りの歌などが紹介されている。基本的な知識を、写真や地図、その他を活用しつつ習得しながら、音楽を楽しむという工夫がされていると思う。終わりのところで、巻末で楽典があって、有名な祭りの音楽と芸能写真が掲載されて、共通事項の確認がここでできるかと思う。

国歌、君が代が3年間続いて学ぶこととされており、その下段に歌詞の大意が表記されているのは大変よいと思う。また、歌唱共通教材である「浜辺の歌」、「早春賦」などが、背景の写真がとてもきれいでマッチしていて、美しい誌面を構成しているなという感じがした。

続いて、2冊目の教育芸術社であるが、一言で言えば、内容が非常に豊富で、取り上げる音楽の領域が広いということが言えると思う。音楽の百科事典といった印象を持った。しかも、ポイントは的確で、生徒の関心を引き出す、引き出しがたくさん用意され

ているという感じがする。最初の導入で、ピンゴゲームやリズムゲームを通して、音符の名称やリズムを体で覚えさせるなどの工夫が見られる。次にマイボイスではスムーズな呼吸、音の出る仕組みや、おびえた声で歌ってみようなどと、音楽の楽しさ、よさを体験させるものと言える。レッツ・クリエートは創作活動であるが、あるイメージからストーリーをつくって、それに合う音を選んで、音を重ねていくというグループ活動、音を通して、音楽を通して、表現する力がはぐくまれるのではないかと思う。生徒は、ここでは主体的な活動が可能かとまた、協力することの意義を理解することもできるのかというふうに思う。

日本の伝統文化では、琴と尺八、雅楽と能の音楽が紹介されており、アジアの諸民族の音楽があわせて紹介されており、我が国と近隣諸国の音楽を鑑賞する機会となっていて、大変よいと思う。大きな写真がそれぞれあり、文化を伝えるよう、配慮がなされているのかと思う。2・3年生の最初に、静けさと日本の音楽が紹介されている。日本の独特の無、静けさの音ということが音楽で紹介されていて、東洋文化の特徴に触れる機会ともなるのかという感じがする。伝統文化としては、歌舞伎や文楽などが取り上げられていて、さらに長唄、勧進帳にチャレンジするというので、自分で体験する機会なども用意されていて、音楽を楽しむ機会となっていると思う。

日本の郷土芸術では、長崎くんちや天神祭など、あるいは世界の民族音楽では中国の京劇、その他、多様な音楽に触れ、同時に、そこでは大きな写真が添えてあり、文化としての音楽を理解させるということが可能ではないかと思う。たくさんの鑑賞曲があり、そして、その曲の中からプレゼンテーションを図るなど、そういった鑑賞力の育成とともに、感じたことを言葉で表現するという、表現力の育成が統合して掲載されているのが良いと思う。2・3年生の最後に、特集として国境を越え影響し合う音楽ということと、ルールを守って音楽を楽しもうというのが組まれている。我が国の郷土の伝統音楽と、諸外国のさまざまな音楽の共通点や相違点など、音楽の多様性を学ぶことのできる教材構成がなされていると思った。生徒の意欲を引き出す工夫がたくさんあり、例えば、共通教材とされている「荒城の月」がアカペラ合唱曲として扱われていることなど、つけ加えておきたいと思う。表記についても、特に問題はない。

以上から、後者の教育芸術社を推薦したいと思う。

委員長

ほかの方、願います。
安藤委員、どうぞ。

安藤委員

音楽科では、表現領域と鑑賞領域とある。表現領域と歌唱と鑑賞領域の選曲は、どちらの教科書も共通教材を含め、バラエティーに富んでいいと思った。

創作についても、1年生の最初の段階では、リズムや曲のイメージという取り組みやすそうな活動で、最終的には楽器を使ってアンサンブルを創作するところまで、それぞれ工夫がなされていると思った。

特に練馬区の子供たちは創作領域に課題があるということが昨年の練馬区教育研究員

の報告にあったが、そういう意味では、教育出版の、まずリズムだけを学び、その後、数を制限した音でモチーフをつくり、パターン化し、最終的には場面を思い浮かべながら曲の構成を考えるなど、創作のステップがよりわかりやすいと思った。

そのほか、私が教科書を推薦するに当たり、特に注目した点は、基本的な採択事項に加え、楽しく音楽を学ぶことができそう、かつ教養としての音楽的な知識を身につけることができるという点である。楽しく学ぶということでは、特に教材に親しみやすいという点に注目してみた。

例えば、これは両方の教科書に言えることであるが、共通教材から選択された曲には、その情景を思い浮かべることができるような写真や作者からのメッセージ的な文章が添えられていた。これは、都会に暮らす子供たちにとって、必ずしも容易に思い浮かべることができる情景ではないものについて、特に助けになると思った。

ほかにも、これは教育出版の教科書であるが、外国の曲で、英語の歌詞と日本語の歌詞が両方記載されていることと同時に、英語の歌詞の翻訳 これは日本語の歌詞と内容が違うものであるが、記載されていたり、英語で歌う際の発音のポイントが記載されていることは、意味を考えながら歌うことができるとてもいいと思った。

また、発展的内容は、音楽科も例に漏れず、その扱いが両方の教科書にあった。教育芸術社のそれは、各教科書で1人のアーティストと、その人物と音楽のかかわりのようなものをテーマにした文章であった。教育出版では、音について科学的なアプローチをした文章が掲載されていた。こんなところから、科学的な興味、関心を伸ばすという試みがおもしろいと思った。

さらに、教育出版の教科書で注目したのは、最近の子供たちの身近に存在するインターネットと音楽著作権の話など、ぜひこの時期に知っておいてほしいことで、なかなか知識を得るチャンスが少ない内容だと思った。

最後に、今回の学習指導要領の改訂のポイントの一つである日本の伝統的な楽曲についてであるが、日本というくくりだけでなく、民謡を含めて、歌唱曲、鑑賞曲ともに教育出版のほうが発達していたことも評価の対象になった。つけ加えるならば、近隣国の曲についても、より充実していたように思う。

先ほど、天沼委員もおっしゃったが、国歌の扱いも教育出版のほうフェアという印象を受けた。

掲載されている歌唱曲が少し難しいのではないかというご意見もあったようだが、一方では、充実していいという意見もあった。この点については、私が教育委員になってから今まで、現場の様子を少しでも理解できればいろいろな小学校を訪れてきた中で、多くの小学校がその音楽活動を特色に挙げており、数字的な根拠はないが、練馬区の子供たちの音楽的な力は、中学校へ入学してきた時点で既に高いという期待も込めて、教育出版を推薦したいと思う。

委員長

教育長、どうぞ。

教育長

私も、どちらかと言われたらということであるが、教育出版。両方ともそれぞれ特色があって、しかも基本的なところがしっかり押さえているから、どちらもいい教科書だなと思って見た。

教育出版を推薦する理由は、今、安藤委員がおっしゃったこともあるが、本区の実態として、創作に関する学習活動を推進する必要があるということ。その点、表現を工夫しながら、学習活動に取り組む題材が充実しているかなと思う。「音のスケッチ」であるとか、「Let's Try!」であるとか、3年間の系統性に配慮されているなかなかいい内容だなと思った。

言語活動の充実という点でも、表現に関してかなりの例を挙げているし、鑑賞に関しても充実をしているというふうと感じた。

使用上の便宜という点では、この教育出版については、共通事項に関する学習、表現、鑑賞という3つの柱にきちんと分けられた構成になっているし、それぞれ色分けしたインデックスをつけている。また、紙面のレイアウトをできるだけ統一して、全学年、各ページの前文に学習目標と焦点化した活動のポイントというのをわかりやすく明示しているのもなかなかいいかなと思っている。

共通教材7曲については、当然であるが、すべて扱われて、歌詞や楽譜だけではなくて、曲の情景となる自然等の写真、資料も掲載されている。世代を超えて親しまれてきた曲を大切に扱っているという印象を受けた。

巻末の歌のアルバムでは、練馬区内の中学校の合唱コンクール等でもよく歌われている合唱曲を多数掲載しているため、資料集や合唱曲集を使用しなくても、教科書だけで指導することも可能だというふうに考えている。

また、学習資料も充実していて、リコーダーの運指表であるとかコードネーム表、ポピュラー音楽図鑑、先ほども安藤委員からあったが、著作権とインターネットの関連、音楽療法、日本と西洋音楽の歩みをまとめた年表などがあって、興味を持ったジャンルで、自分で自主的な学習もできるのではなからうかなと思っている。

以上、理由を述べた。私としては、どちらかという教育出版がよるしいのではないかなと思っている。

委員長

外松委員、どうぞ。

外松委員

音楽は2社であるが、各委員がお話をされたように、どちらも充実していて、甲乙つけがたいのが正直なところである。

歌唱教材は7曲、「赤とんぼ」、「荒城の月」、「早春賦」、「夏の思い出」、「花」、「花の街」、「浜辺の歌」が双方取り上げられているし、「蛍の光」が2・3年の上に、「仰げば尊し」が2・3年の下に、そして、国歌の「君が代」が各学年の巻末にきちっと歌詞もついて取り上げられている。教育出版については、君が代についての説明もなかなか丁寧でわかりやすいなと見た。

非常に悩んだところであるが、私は、音楽（一般）に関しては、教育芸術社がよりい

いのかなと思った。それは、創作活動への手順が大変に工夫されていて、生徒も学びやすいであろうし、先生方も導きやすいのではないかなと見た。

また、歌うときの呼吸の仕方の図がなかなか優れていると思った。ポイントの一つに、教育出版にはちょっと記載されていなかったが、姿勢等はもちろんであるが、背中にも空気を入れるということがはっきりと表示されている。更に、図もかかっている。これは、子供たちが頭声発声で歌いたいと思うときに、非常に大切なポイントとなる点で、こうすることを繰り返していくことで、歌うときの歌い方というのは習得されていくのではなかろうかと考え、この図はなかなか適切だと思った。

また、2・3年の下のほうで「耳でたどる音楽史」というコーナーがあるが、これは西洋音楽と日本音楽の歩みが対比できるように示されている。美術とも関連して、大変学びが深められて、この辺もよいと思った。以上の点から、大変悩んだが、どちらかといえば教育芸術社がよいのではと決めさせていただいた。

委員長

私も、教育出版と教育芸術社、両社とも学習指導要領の改訂の基本方針に基づき大きく改良し、工夫を凝らし、素晴らしい内容に変化したと思っている。甲乙つけがたいのであるが、どちらかといえば、教育芸術社を推薦する。

その推薦に当たって、他教科に比べて、協議会等の答申や報告書をかなり参考にさせていただいた。実際に指導に当たっていらっしゃる先生方がどんな考えかなということも大変興味深く読ませていただいた。

1つ目には、目次にその曲の目当てを書いたり、各曲に学習指導課題を明記したり、ラストでワンポイントのアドバイスを適切に行ったり、「ここが分かれば Grade up!」というコラムを持ってたりすることが、全体的に興味、関心を喚起させ、生徒にとって、わかりやすく学びやすい教科書になっているのかなと考えた。

2つ目は、音楽科改善の具体的事項の一つに、合奏や合唱など全員で1つの音楽をつくっていく体験を通して表現したいイメージを伝え合ったり、協同する喜びを感じる指導を重視するとあるが、合唱曲には、歌うときのポイントが的確に示され、どの曲にも共通事項が含まれ、優しい曲から始めていくという系統性がはっきりしている。生徒に歌いやすいよう工夫されているので、合唱や合奏を通して、より協同する喜びを感じることができると思う。

3つ目は、日本の自然や四季、日本語の持つ美しさ等を味わうような歌曲、風景、芸能、音楽家のメッセージなどをより多く取り上げ、大胆かつ美しくレイアウトされていて、生徒が我が国の音楽文化に一層親しみ、愛着を持てるように工夫されているというふう思った。

以上の理由で、教育芸術社を推薦する。

そうすると、教育出版が2、教育芸術社が3ということであるが、追加、補足のご意見があったら願います。教育長。

教育長

先ほど申したが、どちらの教科書になっても、先生方は結構きちんと教科書に基づい

て、あるいは教科書を通して教育ができるのかなと思う。これは、教育芸術社であっても、私としては異論はない。

以上である。

安藤委員

同じである。

委員長

それでは、音楽（一般）については、教育芸術社を採択することよろしいか。

委員一同

はい。

委員長

音楽（一般）は、教育芸術社を採択する。

続いて、音楽（器楽合奏）である。安藤委員から発言を願う。

安藤委員

私は、器楽についても、教育出版の教科書を推薦する。

推薦する際の基本的な視点は、音楽編と同じである。繰り返しになるが、楽しく興味を持って学ぶことができ、教養としての基本的な演奏技術を身につけるかどうかというところ、さらに、先ほど音楽編でも挙げたが、創作活動では、この器楽編で学んだ各楽器を利用するのではないかという視点に立って当たった。

中学校では、3年間を通して、打楽器の箏、三味線、篠笛、大太鼓、締太鼓、尺八の中から1種類以上を表現活動に使えるようになると同時に、楽器を通して伝統文化のよさを味わうことが改訂のポイントの一つにある。

どう関心を持ち、楽しみながら学ぶことができるのか考えてみた。どちらの教科書も、写真による楽器の組み立て方、演奏時の姿勢や構え方、楽器の持ち方などは説明されているが、教育出版の教科書のほうがやや丁寧な印象であった。特別にお稽古している子供たち以外では、おそらく初めて手にする和楽器だと思うので、丁寧なほうがわかりやすくいいと思った。

また、リコーダーの奏法についてであるが、こちらも教育出版社は教育芸術社よりステップが1つ多く、より丁寧な指導ができると思った。さらに、きれいな音を出すためにはどういうところに留意したらよいか、ホースから水が出ているところをイメージさせるなど、子供たちに想像しやすい説明をしていることから丁寧さをうかがった。

その他、ギターについても同じである。やや丁寧過ぎて細かいという指摘があるかもしれないが、特にリコーダーやギターは自分で練習する生徒もいるかもしれないので、途中でつまづいて嫌になってしまつてはつまらないという思いから、丁寧さは評価したいと思う。

色使いについても、カラーユニバーサルデザインに配慮したカラーデザインになって

いた。

以上、繰り返しになるが、子供たちが楽しみながら各楽器の基本的な奏法を学べるように願いを込めて、教育出版を推薦する。

委員長

教育長、どうぞ。

教育長

音楽（一般）は教育芸術社になったので、ちょっとどうしようかなと思っているが、改めて私は教育出版を推薦したいと思っている。

生徒が、表現方法であるとか表現形態を選択して音楽活動の楽しさを経験するには、歌唱や創作、鑑賞との関連も図っていきながら、実際に楽器に触れて体験することで学習活動を高めていくことができるのではないかと思っている。

教育出版の教科書は、生徒みずからが基礎的な奏法を身につけ、それを生かした表現ができるように、進度をある意味では緩やかに設定しているのかなと。生徒一人一人のペースで学習を進めることができるという点を評価した。

楽器の種類は精選されている。和楽器の取り扱いも同様である。そのため、1つの楽器について、奏法や楽器の特徴について、より詳細な記述をしているということに特徴がある。手や指の動きであるとか口の動きや道具の持ち方など豊富な写真に加えて、先ほども話があったが、きれいな音を出すためのワンポイントも充実しているかなということで、教育芸術社もなかなかいい教科書だと思うが、あえて器楽合奏についても教育出版を推薦したいと思う。

以上である。

委員長

天沼委員、どうぞ。

天沼委員

私は、教育出版を推薦したいと思う。

和楽器であるが、琴と三味線と篠笛、大太鼓、尺八、それぞれ、ばちの持ち方や構え方や、手の使い方、位置が非常にわかりやすく説明がされていて、それを参考にしながら表現活動ができるのではないかと思う。

特にその中でも、三味線と琴が6ページずつ、ページ数にすると同じようであるが、練習や教材配列がきちっとされていて、そこでも構え方、奏法の解説から演奏できるように教材配列がなされていて、どちらか1つは、子供たちが卒業までに演奏できるようになるのではないかと考えた。

次に、リコーダーについても、奏法が写真入りで表示されていて、穴の位置、空いているところと閉じているところとか、そういうことも細かく記されていて、練習曲もたくさん用意されていて、非常にいいのではないかと。

ギターも同様である。ギターはただ、基本的な構え方がクラシックギターの構え方だ

けだったので、もう少しいろいろあるのかなという感じでしたが、ただ、運指表であるとか、巻末にはギターのコードネームとかいろいろある。授業をやっていく中でパリエーションのある使い方とか、奏法の仕方でも学んでいけるのではないかと思う。まず、基礎基本である構え方から始まって、指の押さえ方などきちっと学んでいける。自主的な学習活動ができるのかなと思った。

それから、最後になったが、非常に大切な楽典であるが、これは共通事項であるが、よくわかりやすく一覧表にまとめられていて、すぐ開けば確認できるということで、いいのかなと思う。本書は、合奏曲の譜面が多いというのが特徴だったように思う。いろいろな楽器の組み合わせ、和楽器の組み合わせであるとか、リコーダーとほかのものとか、音楽の楽しさを実際体験しながら、そういうことが学べるような工夫がなされているのかなと思った。

以上から、教育出版を推薦したいと思う。

委員長

外松委員、どうぞ。

外松委員

私も非常に悩んだ。まず、教育出版は、皆様お話しされてたように、和楽器教材が大変丁寧なステップで示されていた。そうであるが、教育芸術社がよいと判断させていただいた。

それは、楽器の扱いであるが、アルトリコーダーから始まっている。小学校でリコーダーを学んできているので、学びやすいのではないかというふう感じた。

また、巻頭の写真であるが、現在活躍している演奏家の中でも若手の人たちを掲載している。このことは、生徒に親しみ、憧憬等、音楽が身近に感じられるのではないかと思った。

各楽器の奏者の姿勢の写真が提示してあるが、これもどういう姿勢が楽器を演奏する上で正しいフォームなのかということが視覚的にもわかるようなつくりとなっており、これは口頭で説明するよりはるかに効果的だなというふう感じた。

大変悩んだところの和楽器教材であるが、箏(琴)、三味線、篠笛、大太鼓、締太鼓、尺八と挙げてきていて、和楽器は、生徒が3年間を通じて1種類以上の楽器を選択して身につけていくというふうになっているわけである。このような学びを通して、我が国の郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるようにすると学習指導要領では示されている。

三味線について、三味線を人さまに指導している方から、お伺いしたことがあるが、私なぞは、琴は弦が13本、三味線は3本。もしかしたら3本のほうが扱いやすいのかしらなんて考えていたこともあったが、あにはからんや、そんなことはなく、三味線は音程をとるのが非常に難しく、その方はご自分の住んでらっしゃる地域の中学校に音楽の授業やクラブ活動等で教えに入ってもらっしゃる方であるが、とにかく音程をとるのが非常に大変で難しく、どのように指定されている教材を生徒に教えればいいのかということ、そして授業時間は50分しかないので、三味線の音程をそろえている間に、もう

先に用意してあげた生徒さんから、「先生、音が狂っている」という声があがったりして、非常にその辺が大変だということを知ったことがある。

私はそのことを思い出しながら見させていただいたが、教育出版では2題課題曲を挙げている。「『かんつばき』から」と「さくらさくら」。そして、教育芸術社のほうは「さくらさくら」だけを挙げていた。生徒はこの和楽器を選択して、何時間かかけて学び、最後は当然、学びの評価をいただくために演奏のテストというのを受けるわけである。そういうことを踏まえると、生徒さんが学びやすく、先生方も指導するのに適しているのは、三味線も1曲だけに絞っていくということのほうが、初めて伝統楽器に触れる中学生にとって現実的なのかなと考えた。

日本の伝統楽器に触れ、長い間練習した曲のまとめとしての演奏のテストをできるだけ、よい状態で受けさせてあげたいという視点が、さんざん迷った末の最終的な私の決め手となった。

以上である。

委員長

私も、一般同様、両社とも大変大きく改良されていて、目を見張るような感じがする。どちらも甲乙つけがたいのであるが、最終的には、教育芸術社を推薦したいと思っている。

その理由は、ほとんど外松委員のほうからお話があったが、楽器を演奏するときの奏者の姿勢を前と横からという、必ず両方の写真が大きく掲載されているところとか、各楽器の演奏のポイントとなる口元のところ、この楽器では指先とか、そのポイントになるところを大変わかりやすく大きく表示しているところが配慮が行き届いているなという感じがした。

それから、生徒の興味、関心というところに関しては、先ほどもお話があったが、どちらかという、和楽器は縁が遠いものだと思うが、それを若手の現代の活躍している人をぱっと最初に出して、その熱いメッセージを載せているということが大変子供たちにとっては身近に感じられていいなと思った。

それと、先ほどギターのことについても話があったが、ギターの奏法については、クラシックギターだけではなく、フォークギターやエレキギターも教芸のほうは紹介しているというふうな点も違いがあるかなと思う。

どちらもほんとうにいいと思うのであるが、どちらかといえば、教育芸術社を推薦したいと思う。

皆さんの意見をいただいて、教育出版が3、教育芸術社が2ということで、これも意見がまだちょっと分かれているようであるが、追加のご意見あったらお願いします。

天沼委員

ない。どちらでも。

委員長

私は教育芸術社を推薦しているが、教育出版のほうも各分野の芸能の第一線で活躍し

ている方々を取り上げて、音楽や芸能のよさとかすばらしさを十分伝えるという意味では、教育出版もほんとうにすごいなという感じがしたので、教育出版もいいなということである。

外松委員。

外松委員

少し教育指導課長に伺ってもいいか。

委員長

よろしいか。では、教育指導課長に質問をどうぞ。

外松委員

伺いたいですが、音楽の器楽分野、日本の伝統的音楽というところで、1種類子供たちが選んで学ぶことになるわけであるが、専科の先生であるから、いろいろなことをなさって、日本の伝統音楽もきつと大丈夫であろうと思うが、現実問題、日本の伝統楽器を教えるとなったら、先生方だけでは厳しくて、地域の方のお力をかりたりとかしないと学ばせていかれないということもあるのではないかなと思う。その辺のフォロー体制をお聞かせいただきたい。

委員長

教育指導課長、どうぞ。

教育指導課長

学習指導要領の中で、この和楽器というものが入ってくるということについては、ここ一、二年で決まったことではないので、当然、音楽の先生方については、楽器を指導するための研修であるとか教育、そういうところについてはやってきている。

ただ、地域の中にそういったことにたけている方がいれば、そういう方も一緒に入っ

ていただきながらやっていくという工夫は、学校によっては当然あるかと思う。

ここ一、二年で決まった話ではないので、既に準備はしてきているということである。

外松委員

わかった。ありがとう。

委員長

それでは、音楽（器楽合奏）については、教育出版を採択することによろしいか。

委員一同

はい。

委員長

音楽（器楽合奏）は、教育出版を採択する。
続いて、美術である。外松委員から発言をお願いする。

外松委員

美術であるが、学習指導要領の表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うとある。

発行者は3社あるが、3社ともそれぞれこれらの目標が達成できるように大変工夫されての構成になっている。中でも、3社共通しているのが、アジアの美術の文化の紹介、それから、表現は発行者によって違うが、美術館への誘い等、それぞれ取り上げ方、紹介の仕方、そこに配慮が感じられた。なかなかすばらしいつくりだなと思う。

その中で、私は、光村図書が教科用図書に適しているのではないかと考えた。

この光村の表紙であるが、第1学年、それから第2・3学年上、下の3冊とも日本人アーティストの作品を掲載している。そして、その裏側には、表紙のアーティストの紹介も掲載されている。制作者の写真だけではなく、ちょっと文章も添えられており、大変興味、関心が深まるつくりとなっているなどと思った。

見開きのところであるが、3冊とも左ページには詩人谷川俊太郎さんの詩「うつくしい!」、そして右ページには、1年生はシャガールの「旅する人々」の作品、2・3年上には阿修羅像の作品、そして2・3年下には、アンドリュー・ワイエスの「クリスティーナの世界」という非常に細かい、まるで写真のような作品が掲載されている。どんなことを勉強するのかと教科書を開く生徒にとって、これから美術を学んでいくことに楽しみや期待の持てるつくりになっているなど見た。

そして、鑑賞教材であるが、「ジャポニズム 国境を超える美術」、その「東西の空間表現」と題したところであるが、どんなふうに日本の作品が西洋のダヴィンチの作品に影響を与えているかという視点で紹介されている。ダヴィンチの「最後の晚餐」「モナリザ」、そして日本の作品としては雪舟の「天橋立図」が対比されて紹介されていて、非常に興味、関心を引いて、より鑑賞を深めるのではないかと受けとめた。また、鑑賞したことを表現していくことも学習活動の一貫した目当ての中に入っているのも、そこにもしっかりとつなげられるようなつくりになっている。

巻末の資料に、色を選ぶ等、一般的な色の性質についても非常に細かい資料が掲載されている。また、日本の色使いということで、日本独特の色についても紹介があり、充実して大変よいと思った。

以上のことから、光村図書を推薦したいと思う。

委員長

天沼委員、どうぞ。

天沼委員

私は、今最初にご説明があったが、指導要領解説の中の一文中、美術は「表現活動や鑑賞活動を美と創造という観点から追求していく学習」という言葉が目にとまった。い

かに生徒たちの豊かな発想を創造的に表現する能力を引き出すか、いかに造形や美術作品などの見方を深め、美しさなどを味わう鑑賞力を高めるかが美術科の目標と言えると思う。

このような観点から、生徒作品が数多く掲載されている教科書を選択しようかと考えた。美術を通して伝え合うことの楽しさが味わえる教科書、創造意欲を高めるような表現や動機づけが見られる教科書として、私は日本文教出版を選択した。

表紙が、有名なゴッホの「夜のカフェテラス」で、すぐれた作品を授業のたびに目にすることになる。大変いいことだと思う。また、「感じる心があるから…」という表題の背景に世界遺産の屋久杉が使われている。縄文杉ではないかもしれないが、自然美を感じることがここでできるのではないかなと思う。

それから、「図画工作から美術へ」では、生徒の様子とともに、創意がよくあらわれた発達と美術とのかかわりということがそこで自己確認できるのかなと思う。生徒作品が多いと先ほど申したが、美しい、楽しいページがあふれていて、生徒の創作意欲を鼓舞するような配慮がなされていると思う。

しかし一方で、絵本作家が野原ではいづくばって昆虫の観察をしている写真を載せて、自然界のイメージを形や色に表現するという、そういった写真が載っている。こういう活動を子供たちも学習活動の展開ができるのではないかという期待が寄せられるところである。

各作品は、1つのテーマごとに違って、それから集められていて、大変わかりやすく構成されている。身近な材料を生かしたものから、歴史の中で生み出されたすぐれた模様や形まで、創造力をふくらませる素材が多く掲載されている。日本の伝統的な紋様やアジアの多様な紋様についても同じことが言える。

2・3年で、自分自身にこだわった扱いが最初に出てくる。自分の存在を作品として表現する。大変おもしろい企画だと思う。自分を客観視するよい機会だとも思う。

また、日本の美意識として、身近な生活用品、はしであるとか和菓子に表現するなど、伝統のよさをみずから創作することを通して、伝統美に対する美意識と鑑賞力の育成が図られるのではないかなと思う。

日本の伝統美ということで申すと、仏像とか金箔の効果など、作品を通して理解を深めるというふうなこと、それから、日本の伝統美を見直すねらいがよく伝わる教科書かなと思った。

最後に、3年の下の裏表紙で、ゲルニカが載っている。下絵とか町の写真を添えるなど丁寧な紹介がされている。と同時に、生徒作品「私のゲルニカ」も載っている。本書の大きな特徴と言える。生徒の主体的な表現活動をあらわしているのではないかとも思う。表記にも問題がないので、以上から、日本文教出版を推薦したいと思う。

委員長

安藤委員、どうぞ。

安藤委員

私は、光村図書の教科書を推薦する。

多くのよい点については、外松委員がたくさん言うてくださったが、少しつけ加えさせていただく。

教科書の中ほどのページで、それぞれ折り込みのページになっていて、4ページ分を使った「ゲルニカ」や「風神雷神図屏風」などが掲載されていた。これらの絵画は、大きくてとてもインパクトがある。その前のページには、表紙裏と同じ谷川俊太郎さんの有名な「生きる」という詩や、日本に暮らすアメリカ人詩人の「風神雷神」の本教科書のための書き下ろしの詩、そしてアンジェラ・アキさんの「手紙」の歌詞が載っていた。これは、言語活動を意識したものかと思い、いいと思った。

そのほかにも、鑑賞作品を比較することで、言語的な学習を図っていることもうかがえた。

美術文化に関する鑑賞指導の充実が今回の改訂で図られたが、関心を高めようとする学習教材が、それぞれの教科書の裏表紙の裏にあった。1年生では、美術館を体験することについて、2年生では、西洋美術に影響を与えた日本美術、いわゆるジャポニズムについて、3年生では、絵画における東西の空間表現の違いなど、鑑賞に関する資料は関心を高めるきっかけになると思った。

ほかに私が注目した点について挙げたいと思う。2年生の巻末にある美術史の年表では、それぞれの帯を日本と中国、朝鮮、そして世界とするなど、美術でも隣国との深いかわりがあることを学習することができる。また、アジアの美術についてお面を例に挙げて学ぶなど、わかりやすい比較研究資料があった。

漫画やアニメーションの扱いもおもしろいと思った。どの教科書にもアニメの扱いはあるが、光村図書のは、日本の伝統美術の絵巻物が現在の漫画やアニメに共通している点を持つ話など、子供たちの興味を引くと思った。練馬区は、アニメ産業が盛んな地域でもあるので、そういう特色もある教科書がいいと思った。

先ほど天沼委員がおっしゃったが、生徒作品の掲載は他の教科書に比べてやや少ないと思うが、見本にとらわれない自由な創作活動ができると思い、特に悪い点とは思わなかった。

以上である。

委員長

教育長、どうぞ。

教育長

私も、光村図書がいいかなと思っている。

理由は、ほとんど皆さん、安藤委員、外松委員がおっしゃるとおりであったので、あまりつけ加えることはないが、美術の教科書の本であるが、詩が結構扱われていて、言語活動を意識して、いい詩があって、美術の教科書としてはなかなかいいかなという思いがあるし、アニメの話は今、安藤委員からあった。

また、今回、学習指導要領が改訂になって、道徳教育との関連性というか、美術との関連性というのは、創造する喜びを味わわせる美術科の指導は、美しいものや崇高なものを尊重する心の育成につながる。美術の創造による豊かな情操は、道徳性の基盤を養

うものであるということで、道徳との関連性をうたっているわけであるが、光村の教科書は、多分お気づきになられたと思うが、各ページ左下にハートマークがあって、常にページの道徳的な観点というものがしっかり書かれていて、そういう意味では、心のありよう、そしてまた、すばらしい美術に触れるときの感動といったものを重視した教科書づくりになっているという部分に関しては、非常にきめ細かい配慮だなというふうに評価したところである。

以上である。

委員長

私も、光村図書を推薦したいと思う。

その理由は、3人の委員の方がほとんどおっしゃっていただいた。鑑賞指導の重視という点で言うと、各作品の写真が大変美しく大胆で、生徒の興味、関心を高め、鑑賞指導にふさわしい見ごたえのある作品が掲示されているというのが1点。もう一点は、各教科における言語に関する能力の育成の充実という点からだと、これも先ほど来お話があるように、鑑賞单元には必ず美術科の目標とも関連を図るすばらしい内容の詩が添えられていて、言語活動の充実、発展への工夫が見られていると思う。

なお、言語活動を想起できる記述、資料の掲載が全体で89カ所と一番多くあることでもわかることだと思う。

以上である。

皆様のご意見を集約すると、光村図書が4、日本文教出版が1ということであるので、光村図書にしたいと思うが、よろしいか。

天沼委員

はい。結構である。

委員長

それでは、美術については、光村図書を採択する。

続いて、保健体育である。河川教育長からご発言をお願いします。

教育長

保健体育は、私は、大日本図書を推薦する。

理由の第一は、確かな学力の定着を図るという工夫が見られるからである。例えば、各章の初めに学習する内容を図式化、これは、「この章で学習すること」という項目であるが、図式化して示すことで、視覚的に内容をイメージできるようになっているということ。また、各章の終わりに、学習のまとめとして重要語句の説明があって、学習の振り返りを通して、確実な知識の定着を図っている、そのことが評価されるかなと思っている。

このほか、習得した知識を活用して課題に取り組む内容であるとか、仲間との話し合いや説明を通して、さらに自分の考えにさまざまな視点を取り入れる学習は、思考力等の向上や言語に関する能力の育成に資するものと考えている。これは「考えよう」とい

う項目だったり、あるいは「学習を活かして」というさまざまなテーマでされている。

次に、構成や表記であるが、写真やデータが豊富にあるとともに、大きく掲載されて、イラストも明るくて、生徒にとって親しみやすいものとなっているということ。読みごたえのある読み物資料も取り入れている。そういう意味では、生徒の興味、関心を促して、発展的な学習につながるものと考えている。

また、大きな文字を使ったり、大切と思われる用語を強調文字や色を変えてわかりやすくしたりするなど工夫が見られる。具体的なところでは、体力向上において、各運動領域の学習を通して、どのような体力要素が固まるかを種目ごとに示している。また、自分の生活スタイルを振り返ったり、体力向上のトレーニングプログラムを自分なりに計画したりすることで、みずから体力を高めようとする学習が展開されていくということが非常にいいなと思った。

このほかに、自然災害による傷害の防止というテーマでは、地震や洪水における二次災害の実際の写真を詳細に掲載するとともに、自然災害に対する備えが具体的に示されている点も評価できると考える。

薬物関係においても、4ページを割いているし、特に危険な行動を避ける力というロールプレーもまた工夫がされていてよしいのかなと思っていて、大日本図書を推薦する。

以上である。

委員長

安藤委員、どうぞ。

安藤委員

私も、大日本図書を推薦する。

技能科目である体育は、学習の課題など、中学生にとってはとらえにくい場合もあるかと思うが、毎時間、単元の初めに、「今日の学習課題」が提示されていた。次の「考えよう」で、子供たちの単元に関する興味を引くよう身近な疑問を投げかけている。最後には、「学習を活かして」で学んだことを振り返り、まとめる学習活動を課せられる。ワークのようなものはなかったが、章の最後には、「学習のまとめ」で重要な言葉を振り返り、よくわからなければ、戻るページまでが示されている。さらに、「学習の要点」でも学んだことをまとめている。

やや資料が多いと思うが、写真資料など視覚的に印象に残る資料の多用は、体育という科目の性格上、合っているのではないかと思った。

資料のページでは、運動やスポーツの技術の例や学び方が詳細されると同時に、先ほど河口教育長がおっしゃったように、体力の向上を図るポイントなどが示されていていいと思った。

次に、保健編についてであるが、前述のように、教科書の構成については、シンプルで学習しやすいと思った。一方、資料や「トピックス」、「ミニ知識」は学習に関連して興味を持てるような内容がいいと思った。

内容で特に注目した点は、改訂のポイントである「二次災害について」、「正しい医薬

品の使い方」である。そして、「薬物」や「安全教育」がしっかりしているかどうかである。二次災害については、どの教科書にも触れられていたが、大日本図書の教科書では、心の問題にも触れていて、目で見えない被害についても説明してあった。薬品についても、わかりやすく説明してあった。

また、薬物の単元では、未成年の飲酒や薬物摂取の怖さが書かれていた。これはどの教科書にも書かれているが、特に薬物について、大日本図書の内容は、他の教科書に比べて「とても怖い」と思わせる内容になっていた。小学校の保健の教科書にもあったが、断り方のロールプレイングなどが掲載されていたところがよかったと思う。

以上である。

委員長

天沼委員、どうぞ。

天沼委員

私も、大日本図書を推薦したいと思う。

スポーツの仕方や技術やその学び方に関しては、体育領域及びその内容に関する説明について各社とも詳しい説明があって、どれも甲乙つけがたいなと思った。

大日本図書は、指導要領の内容分類に準拠していて、スポーツの多様なかわり方として、「行う」、「見る」、「支える」、「調べる」としていて、練馬区のスポーツのかかわり方とちょっと似ているなという感じを持った。また、教科書が、全スポーツがどのページに掲載されているのかわかりやすい配列になっていたと思う。そして、全体として、生涯にわたってスポーツに親しむ姿勢、能力の育成という観点に立っているという感じを持った。

中学生の体育としては、学習課題を考え、その効果について理解させるという配慮がきちとなされているという感じを持った。資料については、オリンピック選手の写真とかメダルの写真をそのまま載せていて、確かな情報を与えてくれているなと思った。

また、体力テストについては、マイトレーニングということが、自己分析を紹介して、スポーツを通して健康を保持、促進するという姿勢の形成に役立つものではないかと思った。

それから、保健の領域で気がついたことは、先ほどご指摘もあったが、薬物との関係である。非常に4ページにもわたって説明があって、記入式で断り方のせりふを載せるなど、実際でも役に立つようなものが載せられているということは、子供たちにとって参考にしてもらえるのではないかと思った。

簡単であるが、大日本図書を推薦したいと思う。

以上である。

委員長

外松委員、どうぞ。

外松委員

私も、大日本図書を推薦させていただきたいと思う。

委員の皆さんがおっしゃったので、ちょっと重複は避けさせていただく。

体育分野は、かなり多くあるが、体づくり、器械運動、陸上競技、水泳、球技 球技はゴール型、ネット型、ベースボール型、そして武道、ダンス、体育理論とある。

大日本図書は、配列がわかりやすいつくりとなっている。この配列がわかりやすいというのは、とても重要なことだと私は考える。生徒が学ぶときに、1、2年生では体力づくりから最後の体育理論まで、その辺を2年間にわたって勉強していくし、3年生になると、何と何を選びとか、どこからどこまでを1つ以上とか、やや複雑であるので、この配列がわかりやすいというのは、実際問題、生徒が使うときにはとても便利かと感じた。

第3学年で学ぶ「健康な生活と疾病予防」では生活習慣について、更に喫煙について、飲酒について、薬物乱用について、エイズと予防について等、これから先、中学を卒業して高校等を出たときに、すぐに直面するであろう問題について大変適切に記述されている。喫煙に関しては、ここの大日本図書は、喫煙はやはり胎児にも影響があるんだということにも触れていた。薬物乱用等の断り方も実際に具体的なロールプレイングがきちんと描かれており、本当に身近な問題であるということを生徒が感じられるようなつくりになっているので、この時期にしっかりと学び、正しい知識を習得するのは大切なことだと思った。

委員長

皆さんのご意見は、すべて大日本図書ということで、ほぼ決まりのようであるが、私はあえて東京書籍を推薦する。

大日本図書は、皆さんもおっしゃっておられたように、記述されている内容やグラフやデータなど資料が全体的に大変豊富で、色も鮮やかで、知識も理解が深まるよさはあると思う。ただ、採択に当たり大切なのは、知識の多寡ではなくて、新学習指導要領の目指す確かな学力の定着をどちらが図りやすいのかという観点で考えると、私は東京書籍を推薦する。

その理由はいろいろあるが、大きな項目としては、学習過程が生徒にとって大変わかりやすく、主体的な学習が促されるだろうということ。それから、言語活動の充実を図るよう、大変に工夫がなされているということである。これは、東京書籍全部の教科書に共通して言える。同じことを繰り返して申し上げているようであるが、生徒にとっては、学習の見通しが持てて学べるということは、教育活動としては大変大事なことだろうなということがあるから、保健体育に関しても、そのような視点から東京書籍がいいのではないかというふうに私は考えている。

しかしながら、皆さんのご意見は大日本図書ということであるので、保健体育に関しては、大日本図書でよろしいか。

委員一同

はい。

委員長

それでは、保健体育は大日本図書を採用する。
続いて、技術・家庭（技術分野）である。天沼委員からご発言をお願いします。

天沼委員

このたびの改訂で、教科の目標自体は従前と同様で、基本的な考え方は変わっていない。ものづくりの実践的、体系的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー転換、生物育成及び情報に関する基礎的、基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し、活用する能力を育てることがこの教科の目標となっている。

したがって、技術分野では、加工する際の安全に気をつけるなど、手の位置であるとか、そういうことがわかりやすく写真で提示されていたりすることや、最近の技術力の紹介など、いろいろポイントになることがあると思う。

私は、全社を見たが、教育図書を見ていくと、材料と加工の際の手の位置が大きな写真で見やすく、作業の際に非常に役に立つのではないかと思う。また、生物育成のところも、地球の温暖化などで資料の分量が非常に充実しているという感じがした。それから、技術の未来として、身近な橋や塔などを利用した説明で技術力の紹介をしていて、技術と社会と環境とのかかわりを子供たちがじかに確認できるのではないかといういい点があるのかなと思った。

東京書籍についても同様であるが、身の回りの技術の発達や技術者の紹介であるとか製造過程、いろいろ詳しく紹介していて、生活の一部であるということがわかりやすく示されているなという感じがした。導入での働きかけが非常に丁寧だと思う。

また、基礎的技能だけれども、例えば木材のけがきの作業など、手の位置や作業の仕方の、ほんとうに基本的な内容がわかりやすく示されていて、工程表が一覧表になっているのと同時に、生徒にわかりやすいと思う。

このうは、もう1点。そこでは教科書が見開きで、右側に作業安全欄を設けるなど、注意を促すということで、実習する中で、やはり安全面にも気をつけながら作業する必要があることも確認ができる教科書構成になっていると思った。それから、作業後にチェック欄が入っていて、子供たちが後ですぐに確認、確かめ学習をすることが行われやすいことと、もう1点。技術ということだと、日常生活では消費者という面もある。消費者の観点からの説明があり、それが段階的にわかるように工夫されている点が非常にいいかと思った。

それから情報では、デジタル作品の設計についてアニメーションが紹介として上がっていて、生徒はきっと楽しみにするのではないかと思った。

続いて、開隆堂だけれども、巻頭ページにスカイツリーが掲載されていて、ここから生徒の興味・関心を引き出そうという、高める工夫、ねらいがあるのかと思う。続いて、すぐに安全な作業についての記述が載っていて、生徒に最初に注意事項を徹底しやすいということが出来るのかと思う。

また、技術の分野の学習で取り上げている内容そのものが、生徒の身近な製品であったり、関心を高めるものが多くて、項目の初めに学習の目標をはっきりとつかませ、ま

た、図表や写真も適切で、非常に興味・関心を引き出す情報量が満載だという感じもある。

その他、いろいろあるけれども、結論を申すと、私は東京書籍を推薦したいと思う。

委員長

教育長、どうぞ。

教育長

今、天沼委員に開隆堂のご説明、中身を教えていただいて、逆に開隆堂がいろいろかなと思う。推薦をさせていただきたいけれども。

第1の理由は、開隆堂の教科書の技術分野だが、基礎的、基本的な知識、技能の確実な習得というのを図るために工夫しているかと思う。新学習指導要領において、小学校の学習を踏まえて、中学校3年間の学習の見通しを持たせるということをねらいとして、ガイダンス的な内容を設定するように、それが新設されているわけであるが、開隆堂の教科書では、巻頭ページに生活や社会における技術の役割を別途設け、生徒の学習意欲を高めるような、機能的な紙面を構成している。また、学習のまとめりごとに、今後の目標や振り返りを設置して、基礎的、基本的な知識、技術を確実に習得できるようにしていると思う。そういう意味では、生徒が学習を理解しやすいと同時に、指導者も指導しやすい構成になっているのではないかと思った。

第2の理由は、主体的な問題解決能力の育成。これも重要な視点だと思うが、そのための工夫が結構練られているということである。技術分野では、ものづくりなど、実践的、あるいは体系的な学習活動を通して、生活の中で生じる、そういう技術的な問題を解決する力を身につけることを重視しているわけであるが、開隆堂では随所で学習の流れや進み方を全体的に俯瞰できるページを設けて、生徒が興味や関心を持って学習に取り組めるようにしているのではないかと思う。

また、A、B、C、Dの、それぞれ各内容の最終ページには、生活や社会の中で技術を適切に評価して活用することができるような取り組みを例示しているところも工夫していると思った。

第3の理由は、今日的な課題への対応というものを、これは技術分野の重要なところだが、それをしっかりと踏まえて、環境、安全、伝統文化、キャリア教育、言語活動、そういう技術の視点から、特設ページやマークを付して、生徒の学習を深めていけるように配慮しているのではないかと思う。

例えば、環境教育においては、持続可能な社会、循環型社会への対応としての日本のエネルギー消費の実態、これを各国との比較のデータやいろいろな試みのイメージ図を通して考える工夫を凝らしている。また、伝統文化については、現在の社会で活用されている技術や、あるいはそれにかかわるものは、伝統や文化に基づいて、それが積み上がって今の技術になっているということをわかりやすく書いてあり、技術のすばらしさを伝える内容を掲載して、ある意味では学習の意欲を喚起しているのではないかと思った。

そのほか、ノートの実習例や情報分野についての内容や分量も大変豊富で充実してい

ると考えており、全体的には開隆堂の教科書を私としては推薦したいと思う。

委員長

安藤委員、どうぞ。

安藤委員

私も開隆堂の教科書を推薦する。他社の教科書でもそうだが、開隆堂の教科書もきちんと安全指導についてわかりやすく掲載していた。天沼委員がおっしゃったように、最初に掲載してあると同時に、単元内でも随所に安全マークで気をつけることを改めて、少し細かく示していて、できるだけ事故が起こらないような配慮を感じた。

教科書の構成だが、各単元の最初に「学習の目標」がシンプルに示されていて、その単元を学ぶことで身につくことが明確だと思った。また、「ふりかえり」できちんと理解できたかを確認できるようになっている。技能科目なので、体育同様、学習のポイントが少しわかりづらいときもあるかと思うが、ここでしっかり確認できることがいいと思った。

また、河口教育長にいろいろ言っていたいただいけれども、それ以外に、内容についてつけ加えさせていただくと、インターネット、知的財産やデジタル作品等、今日的な課題が十分なボリュームかつ充実した内容で取り上げられていた。また、それらを自分たちで調べて学ぶ教材になっていて、自学自習の訓練ができ、言語活動の学習が充実している。加えて、情報モラルなどは、最近の中学生は物心がついたときには既にICT社会であり、学習指導要領の変更のポイントの1つとなっているように、きちんと学ぶべき内容が充実している教科書だと思った。

例を挙げると、URLが丁寧に解説されていたり、電子メールの説明などが少し細かいけれども、詳しく、わかりやすく載っていた。つけ加えて、各ページ下の豆知識は、学習に関連していて、教養としてもぜひ知ってほしい内容が掲載されていた。さらに、簡単なプログラミングの方法、フローチャートの書き方などについては、いろいろな場面での考え方の整理や数学的思考の育成に役立つと思った。

繰り返しになるが、以上の提案を理由として、開隆堂の教科書を推薦する。

委員長

外松委員、どうぞ。

外松委員

私も開隆堂を推薦させていただく。

大分重複してしまうので、簡単に申し上げる。安全面が非常にはっきりと喚起されており、注意を促していてよいということ。それから、学習の目標、これもはっきりと提示されている。また、途中で振り返って、最後、技術を習得することができるようになっている、そういう点もよいと思う。

導入での働きかけが大変丁寧で、そこだけ少し述べさせていただく。今の時代にあるもの、そして今使われているものが、いつごろ、日本人のだれによって生まれた技術な

のかの紹介もある。技術紹介の分野が大変多岐にわたっており、改めて私たち日本人の日常の暮らしが、多くのすぐれた技術によって支えられているのか教えてくれる、そういう数ページであると思った。学習意欲を喚起し、学びの導入にふさわしいページであるとする。

そしてDの、情報の分野だが、ネットの危険性と安全対策について、生徒の生きる力の育成へとしっかりつながるよう丁寧に扱われているところも、開隆堂のよさだと思う。

言語活動への指導に関しても、企画、製作から発表までの流れが大変に明確で、生徒が学ぶのに取り組みやすい作りである、そのように思った。

以上である。

委員長

私も開隆堂と東京書籍で迷った。

開隆堂は、どちらかというと題材を社会全体で活用されている技術について取り上げ、情報量も非常に多く、内容も詳しいと思う。生徒の理解がより深まるというよさがあると思う。

一方、東京書籍は、どちらかというと、生徒の身の回りの生活の中で活用されている技術を取り上げて、生徒の興味・関心を喚起し、生徒に身近な問題として意識化させ、学習意欲を高めようとする意図があると感じた。

生徒の発達段階や、技術科に対する有用感を持たせる観点からすると、東京書籍のほうがよいのかと思い、東京書籍を推薦する。

もう一つ理由を挙げるとすると、1時間の学習の目標や課題が明確でつかみやすく、学習の見通しが立てやすいこと。理解を深めるために、学習重要事項をポイントマークで示し、終わりには学習内容を確認できるようになっていること。さらに、各編の終わりには、学習を振り返り、学習したことを確かめ、生活に生かそうと構成されたページが大変充実して、学習内容の確かな定着が図られるように工夫されていると感じている。

以上の理由で東京書籍を推薦する。

技術分野について、東京書籍が2、開隆堂が3という結果だが、追加のご意見があればお願いする。

天沼委員、どうぞ。

天沼委員

私は先ほど東京書籍を推薦して、開隆堂にも少し触れたけれども、触れなかったことが幾つかあり、やはり開隆堂は非常にいろいろエネルギー問題にしる、生物育成問題にしる、環境保護の立場が貫かれて書かれているということで、これから子供たちが社会へ出ていったときに、やはりそういう観点で生活していくということが大切かと思い、社会人として、開隆堂はそういう視点が強く出ているかと思うが、環境保護という視点が強く出ている開隆堂は、教科書として望ましいと思う。

それから、もう1点は安全点検。やはり、技術・家庭は非常に機械を使う。電気や工業はいろいろ機械を使うので安全面の配慮が必要だと思う。写真がきちんとした防じん眼鏡をかけた点検写真が掲載されていたり、そういう安全面の配慮。また、日常生活の

中での電気機械の保守点検で、故障や事故などいろいろある、そういった予兆や、対応などについてまで掲載されて、子供たちが日常生活に学んだことを生かせる、知識を生活に生かせるという面が、こちらは東京書籍よりは強く出ているのかと思う。

私は東京書籍を選んだけれども、そういう面がよろしいということで、開隆堂でもいいかと思う。

委員長

それでは、技術分野については、開隆堂を採択することによろしいか。

委員一同

はい。

委員長

技術・家庭（技術分野）は開隆堂を採択する。

続いて、技術・家庭（家庭分野）である。安藤委員からご発言をお願いする。

安藤委員

私は家庭科の教科書でも開隆堂を推薦する。

今回の学習指導要領の変更のポイントの1つに、少子高齢化等に対応する観点から、家族と家庭に関する教育の充実とあった。開隆堂の教科書では、家族の単元からその学習を始め、特に重きを置いている印象を受けた。また、表紙裏面には、小学校で学んだ家庭科とのつながりを示し、裏表紙裏面には、「未来に向かって」と、社会へ出ていく子供たちへのメッセージと、アンジェラ・アキさん「手紙～背景 十五の君へ～」の歌詞が掲載されていた。ポピュラーミュージックの歌詞で関心を引くと同時に、子供たちへのメッセージになると思った。

技術科の繰り返しになってしまうが、この教科書では各単元の最初に学習の目標が提示してあり、その単元を学ぶことによって身につくことがはっきりわかるようになっている。また、「ふりかえり」できちんと理解できたかを確認できる。技能科目なので学習のポイントがわかりづらいときもあるかと思うが、ここでしっかり確認できることがいいと思った。

技術科の教科書もそうだったが、全体的に資料が多いものが開隆堂の教科書である。議論が分かれるところだとは思うが、資料が多いわりに、紙面はすっきりとしていて見やすいと思う。また、そのボリュームのせいで家庭事典のような印象を受けるかもしれないが、中学校を卒業してからも手元に置いて、家庭生活における知識を振り返ることができる教科書だと思った。特に、中学生のうちにはあまりやることがない子供が多いと思われる、衣服の補修とアイロンがけなどは丁寧な説明があり、いざほんとうに必要なになったときに便利だと思った。

食を通して地域や世界へ目を向ける単元では、環境に配慮した食生活や地産地消など、今の子供たちにぜひ理解してほしい内容であり、『世界がもし100人の村だったら』の文章の一部を掲載し、より広い視点で考える課題などが示されていた。

最後に、これは日ごろ家事を担っている母親としての視点だが、調理のページでは、どの教科書にも後片づけについてきちんと書いてあった。しかし、開隆堂の教科書については、はっきりとわかるように、環境への配慮のある後片づけの方法が掲載されており、子供たちにしっかり身につけてほしい内容だと思った。

以上である。

委員長

ほか。天沼委員、どうぞ。

天沼委員

先ほどの技術・家庭でも、生物育成では生ごみのリサイクルということで、持続可能な社会への構築へ向けての紹介があり、そういう視点がこの出版社には、技術・家庭にはあるという感じがする。

まず、東京書籍から申し上げますと、家庭生活では、やはり資源や環境という視点が登場してきていて、本書には資源環境と衣服や資源の有効利用など、環境に配慮した消費生活といった、そのほか、少し内容まで入り込んでしまっているけれども、そういった生徒たちの消費行動について考えるきっかけ、実際のアクションプラン、循環型社会を目指したアクションプランを考えて、つくって、授業実践をしていくこともあるので、新しい視点が教科書の中に入り込んできているのかと……、かつてのことはあまりよくわからないけれども、東京書籍にはあるという感じがした。

一方、開隆堂は、現在いろいろ問題がやはり起きている。例えば、育児休業法やワーク・ライフ・バランスの問題、地域活動の問題、あるいは防災などが今日的課題として挙がってきている。こういった問題を直接子供たちに考えさせるという、子育ての社会化のようなことが見られる。具体的に、子育て支援センター、幼稚園、放課後児童クラブ、認定こども園という名前が出てきていて、内容が非常に現代的、今日的で、資料が豊富で、新しい学びがここで行われると思う。

ふれあい体験、実際に行っていると思うけれども、中学生が幼稚園、保育園に行って、子供たちと一緒に触れ合うというものも紹介されている。ただ、それで終わらせるのではなくて、ちゃんとまとめがあり、そういった体験から学んだことを話し合い、レポートにまとめたり、言語活動の充実をここで図っていくことが求められているし、また、体験から得た知識を表現する高度な能力、そういうものもここで培っていかうというねらいもある。

また、エネルギー問題については、省エネということでクールビズが紹介されていて、身近な問題からエネルギー問題へと、そういったかかわり方が示されている。子供たちながら、やはり今、今回の震災で、節電ということでいろいろ考えているところがあると思うし、こういった教科書でちゃんと学びをするということは大切かと思う。少し内容まで入り込んでしまった。

それから、もう一つ。開隆堂は心理学の学術用語を適切に使用していて、非常に好感が持てるよい教科書かと思った。表記にも問題ないので、開隆堂の教科書を私は推薦したいと思う。

委員長

はい。外松委員、どうぞ。

外松委員

私も開隆堂を推薦させていただきたいと思う。

ただいま天沼委員から大変詳しく内容について言っていただいた。今の発言にあられたように、非常に各分野の例題が多く示されている。その点が、子供たちが自分の課題を設定して決めていくときに、大変参考になるのではないかと思った。

非常に興味深かったことは、巻頭のほうなのだが、Aの分野の「家族・家庭と子供の成長」という、ここの学びを触発する写真が掲載されていた。それは、1992年の日本のある家族の家財道具の写真、そしてもう1枚は翌年の1993年、アフリカのマリ共和国のある家族の家財道具の写真。その双方が対比して掲載されていた。これから学びを始めるのに対して、片方は非常にたくさんの家財道具、片や非常に少ししかない家財道具、この対比が学びの興味・関心を喚起できそうな資料だと思った。こういう仕掛けがあちこちにされているのが開隆堂だと感じている。

Dの分野の「身近な消費生活と環境」のところでも、中学生も現在はターゲットとなっているインターネット、そして携帯電話等の消費者トラブル。それに関しては資料としてグラフもはっきりと提示し、かなり具体的に扱ってくれている。悪質商法についても、ロールプレーがあり、今の目標にかなっている教科書であると思った。

委員長

はい。教育長。

教育長

私も開隆堂がいいと思った。

理由はもう、皆さんにおっしゃっていただいた。とにかく基礎・基本的な知識の確実な習得の面で、あるいは何か問題が起きたときに、それをどうやって解決していくかというときの考え方のプロセスのようなものがしっかりと書かれている面からも、さらに今日的な課題に対する対応の面からも、今いろいろと、天沼委員が3点詳しくおっしゃったように中身を見たら具体的にはそうだけれども、今申し上げた3点から見ても、開隆堂が一番すぐれていたかなと私は感じたので、開隆堂を推薦させていただく。

委員長

はい。それでは、皆さんが開隆堂をご推薦いただいたようだが、私はあえて東京書籍を推薦する。

情報量が大変多いということは、技術の教科書と同様、家庭科もそのような感じを、開隆堂は大変多くて詳しいと受けるが、中学生の発達段階から考えたときには、東京書籍のほうが、より精選された形で載っているかと思う。1時間ごとの授業をどう充実させるかという観点で見えていくと、生徒にもわかりやすい学習過程の明確さがあらわれて

いるし、それから目次や巻頭のガイダンスのところでは、家庭科がどんな役割を果たすということを大きくとらえるような形のところでは、大変、東京書籍はすぐれているのではないかということで、あえて東京書籍を推薦させていただく。

これも、私が1人東京書籍、あとの方が開隆堂という形になっているので、皆さんがおっしゃっていただいたように、開隆堂のよさは重々私も感じている。家庭分野につきましては開隆堂ということによろしいか。

委員一同

はい。

委員長

それでは、技術・家庭（家庭分野）は開隆堂を採択する。
次、英語である。これで最後になる。外松委員からご発言をお願いします。

外松委員

英語は6社が教科用図書として発行されている。英語を学ぶということであるが、学ぶということは、学びを通して新しい知識や技能が習得されるのはもちろんであるが、また、その学びは何を通して行われるか。それによって、生徒の心に響いたり、新たな興味・関心の扉を開いたり、また、日々努力していこうという努力の積み重ねへとつながっていくのではないかと思う。何を学ぶかというのはほんとうに大切なことだと考えている。

私たちの国では、自分も含めて、ほんとうに大多数の国民が、何年間にもわたる英語教育を受けてきているが、英語でコミュニケーションをとるのはなかなか難しい。文法では理解できても、実際にコミュニケーションとなると、しり込みしてしまう人が大多数である。もちろん、私もその中の1人なのだけれども。

今回の学習指導要領では外国語、英語を通じてしっかりと話すこと、読むこと、書くこと、コミュニケーションの基礎を図って、外国語、英語を通して、言語や文化に対する理解を深めて、積極的にコミュニケーションを図ろうという態度を育成することが大きな前提としてある。

こういう時代だからこそ、生徒の今後の人生を豊かにしていく英語の授業となることを願って発行者を見させていただいた。その中で、私は学校図書がよいと感じた。教材として取り上げられていることが、大変身近なことから世界のことにまで及んでおり、その内容が豊かであると見た。

例えば、教材として挙げられているものが、ユニバーサルデザインであったり、日本の民話の『赤鬼青鬼』、それから環境問題だが、ドイツと日本の3R、リデュースとリユースとリサイクルについて、それから海外で人気の日本の漫画のことで、アニメのことで、日本映画のことで、これが教材になっていたり、また、ヒマラヤ王国のブータンで農業指導に尽力した日本人の西岡氏の紹介がされていたり、ミュージシャンのステイーヴィー・ワンダーの人生の紹介、そしてまた、日本の伝統文化の紹介で、日本のお正月やふるしきが紹介されており、このふるしきはかなり丁寧で、図柄や包み方、それをどのよ

うに活用していくか、そんなところまで紹介されていた。

つまり、身近な内容から世界へと、幅広い扱いをする中で、目標に掲げられている、話す、聞く、読む、書く、それらの技能を育てるような構成になっていて、適切ではないかと思った。また、英語教材を通して、異文化を知るきっかけになったり、改めて日本の伝統や日本の文化を再認識することもでき、楽しく学ぶことのできるつくりになっていると見た。

さらに本文の構成だが、周辺が非常にすっきりしており、どこが重要なのかということが生徒にわかりやすい紙面構成になっているのではないかと、そのようにも見た。

以上のことから、私は学校図書がよいと判断させていただいた。

委員長

ほかの方。教育長、どうぞ。

教育長

私は東京書籍がよいと思った。

第1の理由は、学習指導要領の改訂の基本方針に沿ったものであるということ。新学習指導要領における外国語の学習は、今、外松先生のおっしゃった4つの技能、これを総合的に育成する指導の充実を図るということと、コミュニケーションを支えるのが文法であるという考え方のもとに、文法指導と言語活動を一体的に行うということがなされていくことが大事である。

東京書籍の教科書は、本編と応用編に分かれているけれども、本編では文法中心、学習中心の「Unit」と、コミュニケーション中心の「Plus」という2部で構成されている。

各Unitは聞く、話すなどの4つの技能の基礎・基本を扱うパートである。さらに、いろいろなもののもとに、書くなど4つの技能を関連づけた構成になっている。

もう一つのPlusは、コミュニケーション活動を通して基礎・基本の定着を図るパートで、Speaking Plusというものがあるのだが、それは場面を踏まえたモデル会話に基づく英会話、それからWriting Plusは目的に応じた定形表現に基づく英作文のような編集がなされている。さらに、3年間で9つのMulti Plusがあり、これは4つの技能をバランスよく指導するためのパートになっている。

第2の理由として、基礎・基本の充実という観点に沿ったものであるということが挙げられる。Unitの学習では、1年では基本文の学習を中心に構成されている。2年、3年はStarting OutやDialogやReading for Communication、Reviewで構成されているけれども、Starting Outでは基本文とUnit全体の題材の導入を行い、Dialogでは対話練習で基本文の定着を図っている。Reading for Communicationでは、単なる読み取りだけではなく、本文をモデルとした表現活動に則して文法がきちんとテーマ化されていると思った。ReviewについてはA問題、B問題があるのだが、A問題は基礎的・基本的事項の習得状況を確認して、B問題では自己表現活動を通して、習得した文型等の活用を図るようになっている。そのような工夫がされていることが評価できると思った。

第3の理由としては、練馬区の課題解決を図る意味で配慮があるということが挙げられるかと思う。各校の学力調査では、英語に関しては、書くことに課題があるという結

果があった。Writing PlusやMulti Plusの教材では、学習の目当てとして、1年では3つの文以上、2年生では4つの文章、3年生では5つの文ということで、数値による到達目標を示している。また、自己紹介や町の紹介、修学旅行記、将来つきたい職業など、身近なテーマを扱っている。そういうことで、そういう学習を積み重ねることで、生徒の書く能力、ライティング能力が育成されるのではないかと。それをうまく利用するような紙面構成、教科書づくりになっているところが、東京書籍を推薦する理由である。

以上の理由から、私は東京書籍を推薦したいと思う。

委員長

ほかの方、いかがか。安藤委員、どうぞ。

安藤委員

これまで見てきたどの教科書にも言えることだが、特に英語は各教科書会社の工夫がそれぞれにあり、とても興味深い科目だった。例えば、案内役となる数人の登場人物のバックグラウンド。もちろん、日本人の学生が主役として登場するが、それ以外にいろいろな英語圏出身の学生や、それ以外の国からの生徒、英語圏に住むアジア人など、ほんとうにバラエティーに富んでいた。メディアが発達している今、子供たちはさまざまな人種の人々など違和感なく受けとめるのかもしれないが、今後、ますます国際化が進む社会に生きることになる子供たちにとっては、とてもいいことだと思った。

私は次に述べる理由から、教育出版社を推薦する。

学習指導要領の改訂には、コミュニケーション能力の基礎を養う、聞く、話す、読む、書く、すべてを総合的に行う学習活動を充実するとある。教育出版の教科書は、各ユニットにおいて、それぞれの項目、聞く、話す、読む、書くを網羅している。また、ユニットの初めに、ここで何を学び、何が目標で、どのような英語力を身につけるかのかが明確に示されていた。これは子供たちにとって、そのユニットを学ぶと自分たちがどうなるのかがよくわかり、いいと思った。教師が指導する上でも、ポイントがわかりやすく、指導しやすいのではないかと考えた。また、各ユニットの後半の構成だが、「task」でそれまでに学んだ単元を振り返り、「文のつくり方」で文法をして、最後に「project」、それまでに学んだ英語力を駆使して、発達段階に応じた思考力や表現力を伸ばす勉強ができる点がいいと思った。これは最後にはディベートまで発展している。

また、教材の1つにマッピングという手法の紹介があった。これはどんな科目でも使える、考えたことを整理するのにとても役立つ手法だと思う。特に、英語ではスピーチをしたり、意見を述べたりする際に役立つ手法ではないかと思った。文法を学習した後、さて何を書こうかと迷わないためにも、子供たちにはぜひ活用してほしい教材の1つだった。

もう1つ、教材の内容だが、今回の改訂で、我が国の伝統文化及び自然科学を教材の題材例として新たに採用されることになった。外国へ行ったり、日本を訪れている外国人と接したりした場合に、自分の国の文化を話すことができるというのはとても大切だと思う。また、自然科学については、共通の話題として少しでも多く知識があったほうがいいと思う。

どの教科書でも、この2つの分野についての教材が作成されているが、他にも、指導要領に示されている子供たちの興味・関心に則した適切な題材かつ将来に役立つ知識や、教養として身につけてほしい教材が教育出版の教科書には多岐にわたってあった。具体的に例を挙げると、落語やロボットの話、環境問題、自然保護や体内時計、平和について、後に社会的な役割を担った著名な女優の話、漫画家と彼の望んだ平和の話、地雷除去の話、職業体験などである。身近な話題や興味深い話題から英語へのアプローチは、興味・関心を持って英語の学習に臨むことができるので、とてもいいと思った。

少しつけ加えるとすれば、私は幼少期と学生時代に海外で生活した経験から、英語という外国語を学ぶ中で、外国や異文化への理解を促す姿勢も養われるような期待感を持って教科書に当たった。つまり、教材の内容について、子供たちが興味を持ち、教材を通して少しでも外国や異文化を理解するきっかけになればいいと思った。

その例の1つとして、教育出版の教材に観光地として有名なウルル　いわゆるエアーズロックでは登山をする人が多いけれども、現地に住む原住民の文化を尊重する姿勢の1つとして、登らない選択もあるという文章があった。この文章はとても短いものではあるが、他の文化を尊重することができる子供たちに育ててほしいという願いのもとに、ぜひ読んでほしいと思った。

最後に、3年生の教科書の終わりのほうに、英語A L Tからのメッセージが教材として載っている。これは、科目として3年間英語の勉強を続けてきて、さらに上級学校や国際社会において英語に触れ、同時に異文化に触れる中で、少し心にとめておくというようなことがメッセージになっていた。

最後の2点は推薦する主な理由ではないが、特に心に残り、子供たちに読んでほしい教材だったので、触れさせていただいた。

委員長

天沼委員、どうぞ。

天沼委員

私は学校図書と東京書籍とどちらか迷っていたのだが、東京書籍を推薦したいと思う。

東京書籍は分量もちょうどよくて、本文の行間が広くて、非常に読みやすい紙面構成になっていると思う。それから、各ページの流れも、本文、基本文、基本練習、聞き取り、ドリルというパターンが定型化されていて、非常にわかりやすく、順序立っていて、初歩的な学習を進めていく上では、非常にいいつくりになっていると思う。それから、今回スピーキングやライティング、英会話、そういうものも子供たちが学習していくことになるわけだけれども、小学校の外国語活動が導入されて、今後はそういった小学校における外国語活動ではなくまれた素地の上に総合的な外国語力を育成するということになるわけだが、改めて、ここでわかりやすく基礎等の定着に触れることができる、そういった構成になっていると思う。

それから、細かいことだけれども、日常的によく使われる言葉、数字や週、そういうことがまとめられていて、非常に初歩的なところをきちんとする、基礎・基本を押さえるということではいいと思う。

それから、やはり自学自習を進めていくということは大切なことだと思う。そういう意味では、学び方コーナーがあったり、いろいろその後用意されているけれども、文の書き方や音の変化、発音等いろいろあるが、自分が丁寧に学習していく、そのときの注意点、英語の発音の際の注意点が記されていたり、日本語にない発音が示されているなど、最初のところでつまづかないように学習ができると思う。

文法というのは、やはり国語ではあまりやってこなかった、やってこないといけないという感じもするけれども、子供たちにとっては、確かめようで、やってみようで確認するというやり方でできたかどうか確認させていく、理解させる工夫があり、学力の定着ということ、それをさせる方法と言えるのではないかと思う。

それから、ヒアリングということ。今後、そういった力もつけていかなければならないわけだけれども、非常にわかりやすい内容が使われていて、どこが大切かを色分けして注意を促すことがあったり、ほんとうに丁寧だなと。それから2年になると、非常に個人的に関心があるのだけれども、ニュージーランドの紹介があって、オールブラックスのハカヤ、マオリのあいさつとか。ハリウッドのスピルバーグはあまり関心がないが。ただ、仕事系の紹介なんかもあり、非常に子供たちが異文化に関心を持つのではないかと思う、いろいろ総合的に見て、東京書籍がいいと思う。

ただ、学校図書についても一言申すと、最初ではないけれども、3年になってくると、日本文化というものを取り入れるようになってきて、自分を指す文化の動作の違いということがあったり、ここでは点字が使われていたりして、非常に珍しいという感じはする。日本の文化の紹介、それから日本の修学旅行を本文で紹介する、落語家が出てくる、先ほどお話があったけれども、これもそういう使われ方がされている。修学旅行を英語新聞でやるなど、やればやると思うが、自分がこれから京都や奈良に行く、それを英語で調べて新聞にしてみる、修学旅行と英語学習を結びつけるようなことも可能だと思う。

日本語と英語の語順の違いが逆になっているなど、基本的な学習が文化の相違、あるいは文化の違いからそういった語順ができているという理解も図れるということで、学校図書もいいと思うが、私は最終的に東京書籍を推薦したいと思う。

委員長

私も東京書籍を推薦したいと思う。その理由は、ほとんど今、天沼委員がおっしゃっていただいたことと重なるが、一応話をさせていただく。

1つ目は、1年の最初の学習はウオーミングアップとして、あいさつや曜日など、基本的なことを12ページにわたって配列し、丁寧に扱っている。このことで小学校の学習から中学校の学習へと無理なくつなぐことができ、自然に生徒の学習意欲を高めることができているのではないかと思う。

2つ目は1時間ごとの学習内容の構成が目標、本文、基本文、基本練習、聞く活動、ドリルと一貫している。また、紙面構成もすっきりして見やすく、文章の量も難易度も適切であり、生徒にとってわかりやすいので、授業でも家庭学習でも活用しやすいものになっていると思う。

3つ目は、基本文型の数や単語数も適量なことや、学んだ文型を強化するための活動

や、生徒に自分の意見や考えを持たせるための工夫があり、コミュニケーション能力の基礎を養い、言語活動の充実が図られるような内容になっていると思う。

4つ目は、本編と応用編に分けられていて、家庭学習や自主的な取り組みを促す工夫がされている。そのほか、各単元の聞く、話す、読む、書く、活動の配列が大変バランスよいようになっていると思う。

以上の理由で東京書籍を推薦する。

皆さんにご発言いただいた結果、東京書籍が3、学校図書が1、教育出版が1となっている。追加のご意見があればお願いする。

安藤委員、どうぞ。

安藤委員

私は先ほど、教育出版の教科書が、すごく内容も構成も、ほんとうにとてもとてもいいと思って推薦した。ただ、採択の段階で、数となると東京書籍になるということで、残念な気持ちがある。

ただ、東京書籍の教科書と教育出版の教科書を比べた際に、教育出版の教科書というのはやや難しいという点が気になる点ではある。というのも、学習指導要領では3年間で学ぶ語数が1,200語程度となっているにもかかわらず、教育出版が1,600語以上扱っていて、全教科書の中で一番多かったというところは、確かに気になる点ではあった。また、小学校の英語活動から中学校の学習への発展、つながりという点では、東京書籍の導入はとてもやさしくて、中学校1年生に入ったばかりの子供たちにとっては取りかかりやすいのかという印象は確かにある。

ほかの教科書もそうだけれども、採択時に数が多くなった方に、それでいいと何回か申し上げたが、それは、簡単にそう言っているわけではない。とても悩み、一生懸命研究して、これがいいと自信を持ってきたのに残念だという思いがあることをつけ加えさせていただいた上で、東京書籍に異論がないと申し上げたいと思う。

以上である。

委員長

ほかに追加のご意見はあるか。

外松委員

教科書はどの教科書も子供たちに4技能を身につけさせ、文法もしっかり身につけて、コミュニケーションを図っていくということでつくられているわけである。先生方が教え指導して下さるといふ、そこを思ったときに、どの教科書に決まろうとも、最終的には現場の先生方が、中学生の実態に応じて、より目標に近づくようにと研究してくださって、授業は展開されていくであろうと思い、東京書籍でもよいと考える。

委員長

ありがとう。最後、教科書のあり方までお話しいただいたので、今のお話で、東京書籍に集約されているかと思う。英語については、東京書籍を採択することによるのか。

委員一同

はい。

委員長

それでは、英語は東京書籍を採択する。

以上で、全種目の採択が終了したので、全種目の採択した発行者を確認する。よろしいか。

委員一同

よい。

委員長

国語は三省堂。

書写は三省堂。

社会（地理的分野）は東京書籍。

社会（歴史的分野）は教育出版。

社会（公民的分野）は東京書籍。

地図は帝国書院。

数学は啓林館。

理科は東京書籍。

音楽（一般）は教育芸術社。

音楽（器楽合奏）は教育出版。

美術は光村図書。

保健体育は大日本図書。

技術家庭（技術分野）は開隆堂。

技術家庭（家庭分野）は開隆堂。

英語は東京書籍。

以上、採択することよろしいか。

委員一同

よい。

委員長

それでは、議案第50号については、先ほど種目ごとに述べた発行者の教科用図書を「採択」する。

以上で、第15回定例会を終了する。